取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

YARIS CROSS

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....12
検索のしかた.....13
イラスト目次.....14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために.....27
シートベルト.....29
SRS エアバッグ.....32
排気ガスに対する注意.....38

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....39
チャイルドシート.....40

1-3. コネクティッドサービス
T-Connect エントリー（22）.....54

1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....71
ハイブリッドシステムの注意.....75

1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....80
オートアラーム.....81

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....84
計器類.....88
マルチインフォメーションディスプレイ.....92
ヘッドアップディスプレイ.....99
エネルギーモニター／燃費画面.103

3 運転する前に

3-1. キー
キー.....108
デジタルキー.....111

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）114
バックドア.....118
スマートエントリー＆スタートシステム.....130

3-3. シートの調整
フロントシート.....136
ターンチルトシート.....137
リヤシート.....141
ヘッドレスト.....143

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....147
インナーミラー.....148
ドアミラー.....149
補助確認装置.....150

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....151

3-6. お好み設定
マイセッティング.....154

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....157
荷物を積むときの注意.....164

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....166
EV ドライブモード.....170
ハイブリッドトランスミッション.....172
方向指示レバー.....174
パーキングブレーキ.....175
ブレーキホールド.....179

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 181
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 186
AHB（オートマチックハイビーム）..... 189
フォグランプスイッチ 192
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 193
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）194

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 196

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）..... 198
Toyota Safety Sense..... 200
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 206
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 215
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 219
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 224
発進遅れ告知機能..... 229
RSA（ロードサインアシスト）.. 231
レーダークルーズコントロール. 234
クルーズコントロール 242
ドライバー異常時対応システム. 245
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 247
安心降車アシスト..... 252
クリアランスソナー 256
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 265
RCD（リヤカメラディテクション）..... 270
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 273
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 278
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 281
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 283
トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 285
ドライブモードセレクトスイッチ..... 308
トレイルモード （AWD 車）..... 309
スノーモード（AWD 車）..... 311
ダウンヒルアシストコントロールシステム（AWD 車）..... 311
運転を補助する装置 313
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 319

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 325
寒冷時の運転 327

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 332
ステアリングヒーター／シートヒーター 337

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 339

5-3. 収納装備

収納装備一覧 341
ラゲージルーム内装備 344

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 347
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム 351
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 359

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 364
内装の手入れ 367

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 370
ガレージジャッキ 372
ウォッシャー液の補充 373
タイヤについて 373
タイヤ空気圧について 375
エアコンフィルターの交換 376
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 378
キーの電池交換 381
ヒューズの点検・交換 383
電球（バルブ）の交換 387

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 396
非常点滅灯（ハザードランプ） 397
発炎筒 397
車両を緊急停止するには 398
水没・冠水したときは 399
車中泊が必要なときは 400

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 401
警告灯がついたときは 406
警告メッセージが表示されたときは 413
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 419
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 432
ハイブリッドシステムが始動できないときは 440
キーをなくしたときは 441
電子キーが正常に働かないときは 442
補機バッテリーがあがったときは 444
オーバーヒートしたときは 449
スタックしたときは 452

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 456

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧. 462

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 474

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）476

車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 478

アルファベット順さくいん..... 480

五十音順さくいん 482

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.10も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

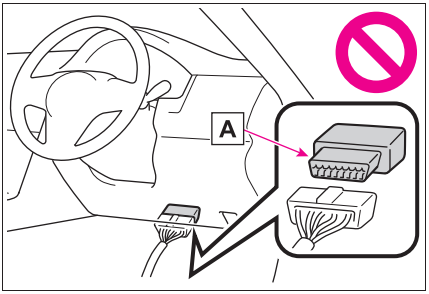
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流失などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※1

※1 グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺のカメラ画像）※2

※2 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Senseによるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車はToyota Safety Senseにより車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合

● ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご著名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

● 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合

● トヨタ自動車が訴訟で使用する場合

・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

● お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。

● 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

● 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合

● 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合

● トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨ

タ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.319）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:https://manual-accessories.
toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

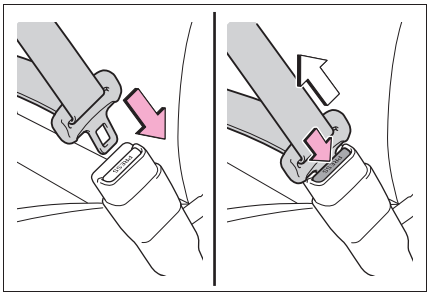
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

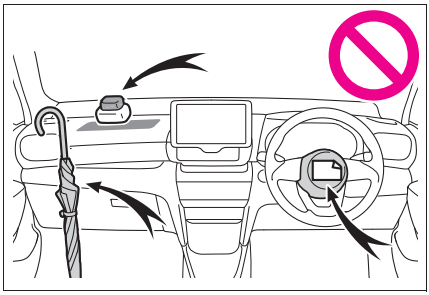
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

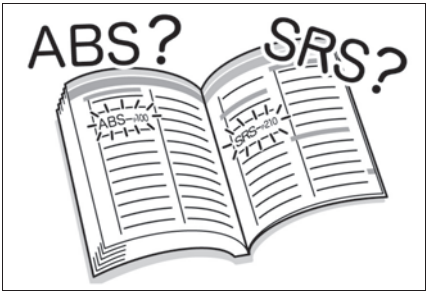


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

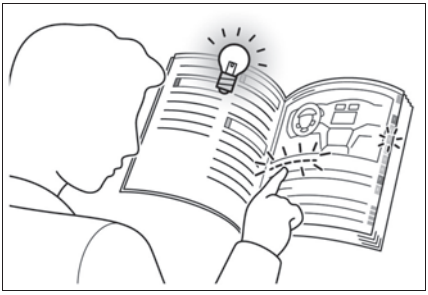
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.482
●アルファベット順さくいん：P.480



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.14

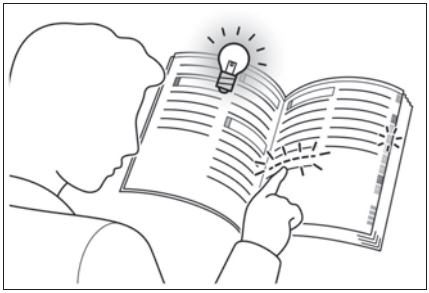


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.476
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.478

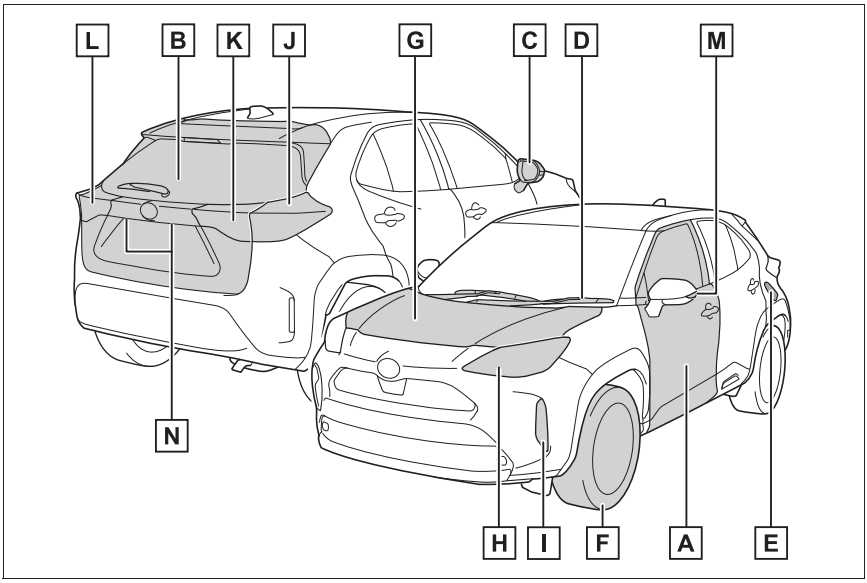
■ タイトルから探す

●目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A ドア P.114

施錠／解錠 P.114

ドアガラスの開閉 P.151

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.442

警告メッセージ P.117

B バックドア P.118

施錠／解錠 P.119

パワーバックドア★ P.121

警告メッセージ P.117

C ドアミラー P.149

鏡面の角度調整 P.149

ミラーの格納 P.150

曇りを取る（ミラーヒーター）★ P.333

D ワイパー P.193

冬季の注意 P.327

凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.336

E 給油口 P.196

給油方法 P.197

燃料の種類・燃料タンク容量 P.456

F タイヤ P.373

サイズ・空気圧 P.460

冬用タイヤ・タイヤチェーン P.327

点検・ローテーション P.373

パンク時の対処 P.419, 432

G ボンネット P.370

開け方 P.370

エンジンオイル P.456

オーバーヒート時の対処 P.449

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.387, ワット数：P.460）

H ヘッドランプ・車幅灯 P.181

I 方向指示灯・LED デイタイムランニングランプ P.174, 181

J 尾灯・方向指示灯 P.174, 181

制動灯

K 尾灯★・方向指示灯★ P.174, 181

リヤフォグランプ★ P.192

後退灯★

シフトポジションを R にする P.172

L 尾灯★・方向指示灯★ P.174, 181

後退灯

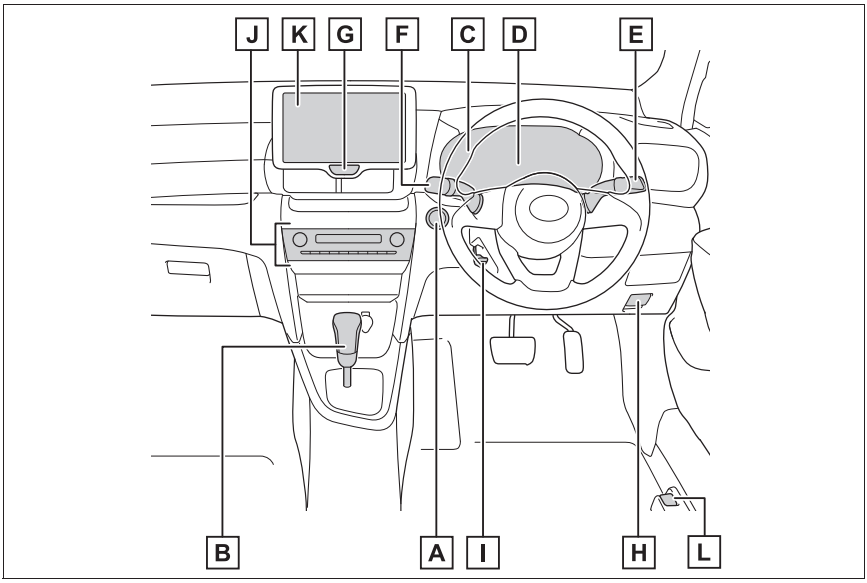
シフトポジションを R にする P.172

M 方向指示灯 P.174

N 番号灯 P.181

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A パワースイッチ P.166

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.166, 168

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.398

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.440

警告メッセージ P.413

B シフトレバー P.172

シフトポジションの切りかえ P.172

けん引時の注意 P.401

シフトレバーが動かないときの対処 P.173

C メーター P.88

見方・明るさの調整 P.88

警告灯／表示灯 P.84

警告灯点灯時の対処 P.406

D マルチインフォメーションディスプレイ P.92

表示内容 P.92

エネルギーモニター P.103
警告メッセージ表示時の対処 P.413

E 方向指示レバー P.174

ランプスイッチ P.181, 192
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイタイムランニングランプ・尾灯 ... P.181
リヤフォグランプ★ P.192

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.193, 194

使い方 P.193, 194
ウォッシャー液の補充 P.373

G 非常点滅灯スイッチ P.397

H ボンネット解除レバー P.370

I ハンドル位置調整レバー P.147

J エアコン P.332

操作方法 P.332
リヤウィンドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.333

K オーディオ ※★

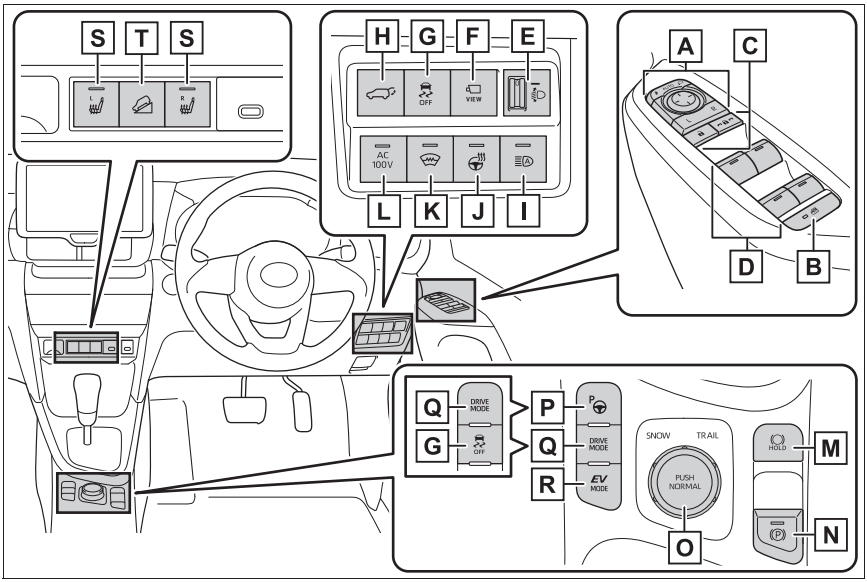
音楽を聴く
電話をかける・受ける（ハンズフリー）

L 給油口オープナー P.197

※ マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



A ドアミラースイッチ P.149

B ウインドウロックスイッチ P.153

C ドアロックスイッチ P.117

D パワーウインドウスイッチ P.151

E 手動光軸調整ダイヤル★ P.184

F カメラスイッチ ※1 ★

G VSC OFF スイッチ★ P.314

H パワーバックドアスイッチ★ P.121

I アダプティブハイビームシステムスイッチ★ P.187

オートマチックハイビームスイッチ★ P.189

J ステアリングヒータースイッチ★ P.337

K フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.336

L AC100V スイッチ★ P.352

M ブレーキホールドスイッチ P.179

N パーキングブレーキスイッチ P.175

かける・解除する P.175

冬季の注意 P.328

警告ブザー・警告灯・警告メッセージ P.177, 406

O トレイルモードセレクトスイッチ ※2 ..... P.309, 311

P アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ★ P.290

Q ドライブモードセレクトスイッチ★ P.308

R EV モードスイッチ P.170

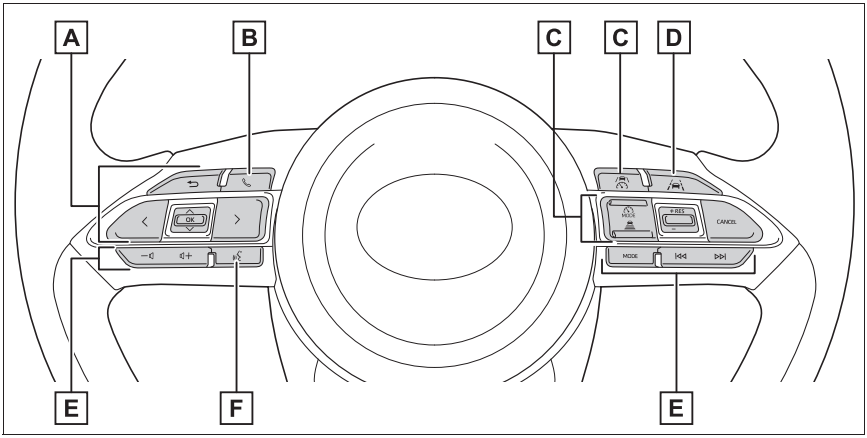
S シートヒータースイッチ★ P.338

T DAC スイッチ ※2 ..... P.311

※1 マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※2 AWD 車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.93

B **電話スイッチ ※** **P.349**

C **クルーズコントロールスイッチ**

レーダークルーズコントロール P.236

クルーズコントロール P.242

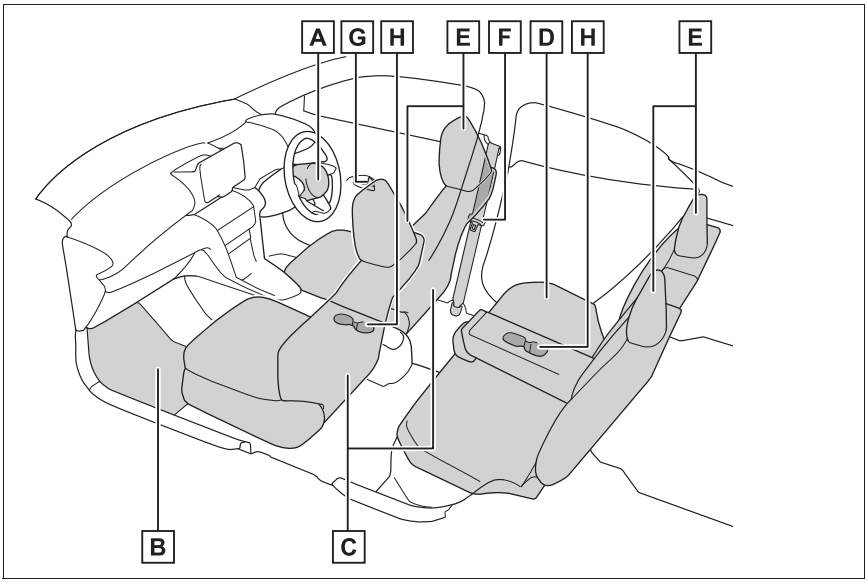
D **LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ** **P.217**

E **オーディオスイッチ ※** **P.349**

F **トークスイッチ ※** **P.349**

※ マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.32

B フロアマット P.26

C フロントシート★ P.136

ターンチルトシート★ P.137

D リヤシート P.141

E ヘッドレスト P.143

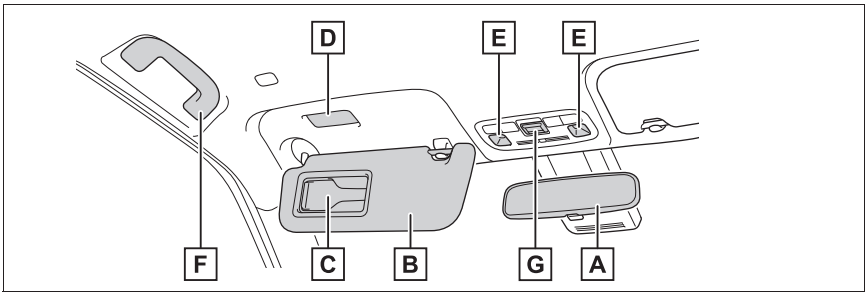
F シートベルト P.29

G ロックレバー P.117

H カップホルダー★ P.342

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井



A インナーミラー P.148

B サンバイザー ※1 ..... P.348

C バニティミラー P.348

カードホルダー★ P.343

D バニティミラーランプ★ P.348

E インテリアランプ／パーソナルランプ P.339

F アシストグリップ P.349

G ヘルプネットボタン ※2 ..... P.54

※1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.42）

※2 マルチメディアシステム装着車は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 32

排気ガスに対する注意 38

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 39

チャイルドシート 40

1-3. コネクティッドサービス

T-Connect エントリー（22）... 54

1-4. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 71

ハイブリッドシステムの注意 75

1-5. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 80

オートアラーム 81

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

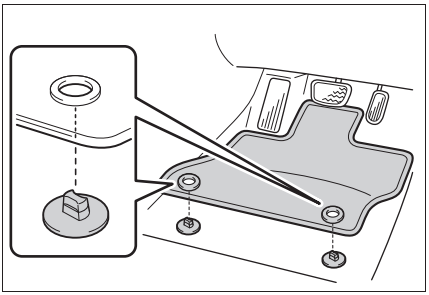
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

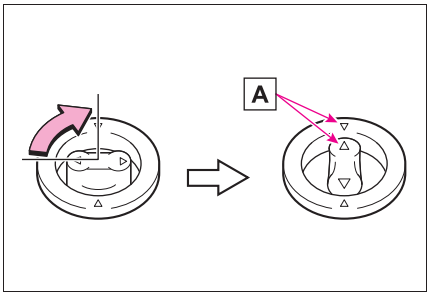
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

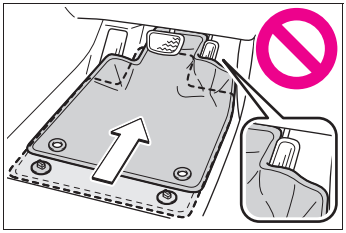
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

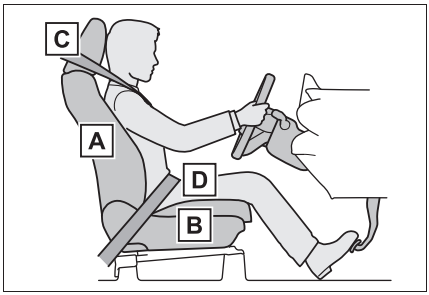


●ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.136, 137）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.136, 137）

C 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.143）

D シートベルトを正しく着用する（→P.29）

警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.29）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.40）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
（→P.148, 149）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

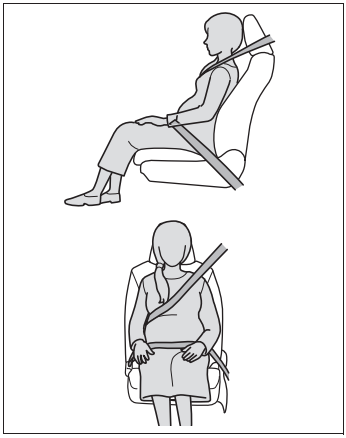
警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.30）通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.30）

■お子さまを乗せるとき

→P.50

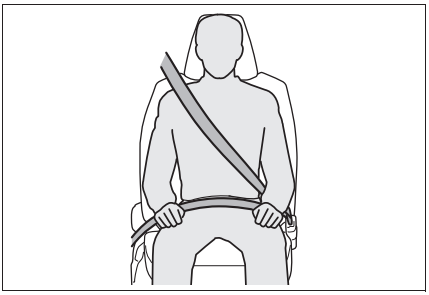
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

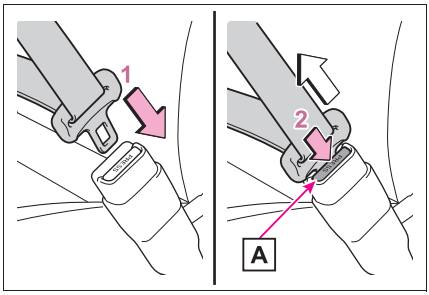
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→P.40）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

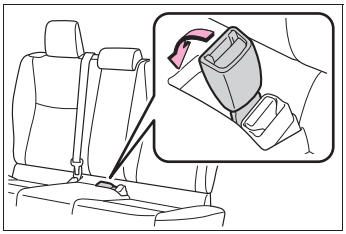
知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

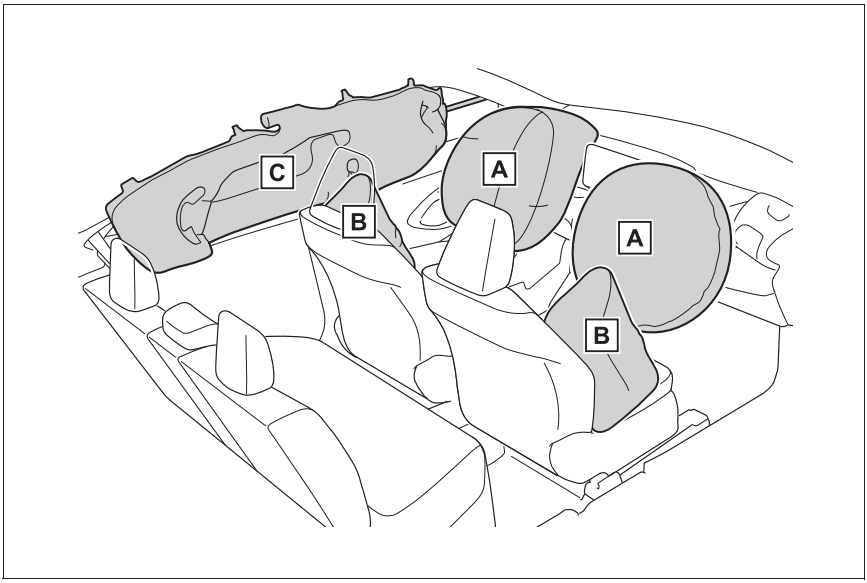
■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

C SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.78）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.314）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.340）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.397）

■緊急通報について★

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。
詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた
・フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けた ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ オペレーターからの呼びかけに対し、乗員からの要請があれば、緊急車両などを手配します。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・フロント SRS エアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・シートベルトプリテンショナー

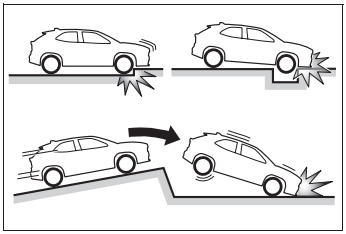
●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

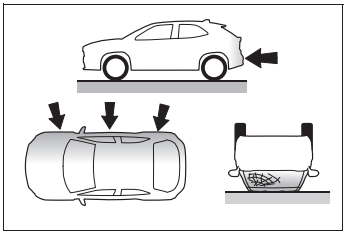
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



■SRS エアバッグが作動しないとき

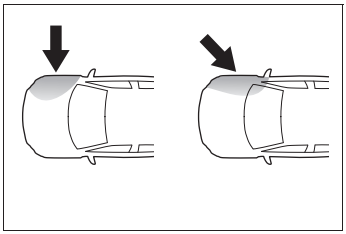
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

・フロント SRS エアバッグ



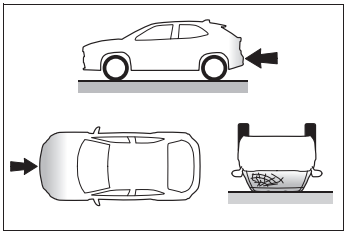
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ



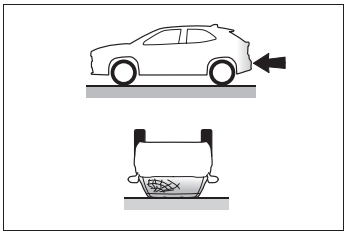
●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

・SRS カーテンシールドエアバッグ



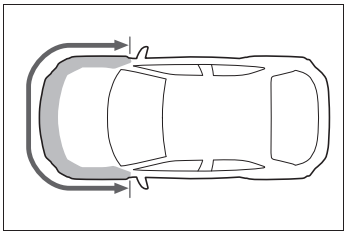
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

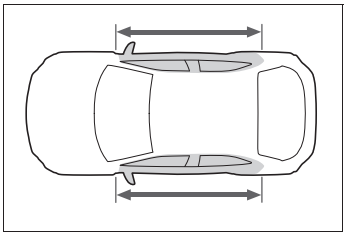
・フロント SRS エアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

・SRS サイドエアバッグ

・SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

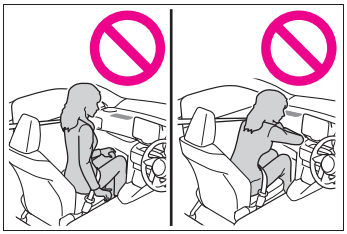
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

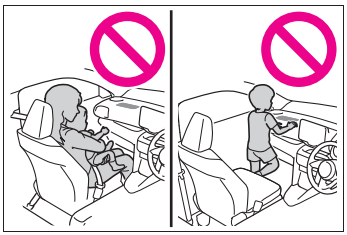
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.40)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



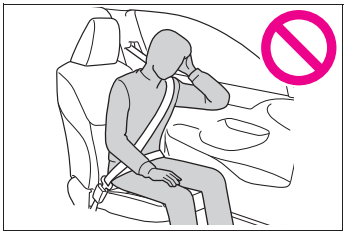
●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

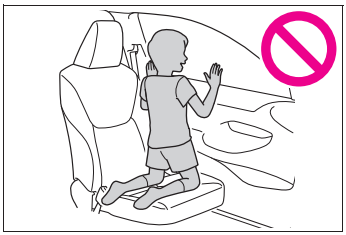


警告

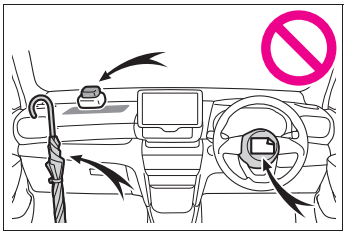
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



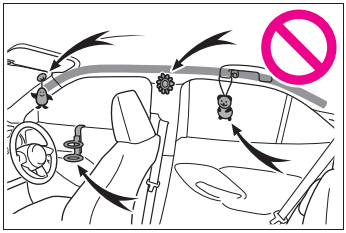
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.425）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
  SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

警告

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ハンドル

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・シート

・シート表皮

・フロントピラー

・センターピラー

・リヤピラー

・ルーフサイドレール

・フロントドアパネル

・フロントドアトリム

・フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理・改造

・フロントフェンダー

・フロントバンパー

・車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・グリルガード

・除雪装置

・ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.40）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.117）・ウインドウロックスイッチ（→P.153）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.40）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.40

チャイルドシートを使用するときは：P.41

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.43

チャイルドシートの取り付け方法：P.49
・ シートベルトで固定する：P.49
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.51
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.52

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→P.43）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.43)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

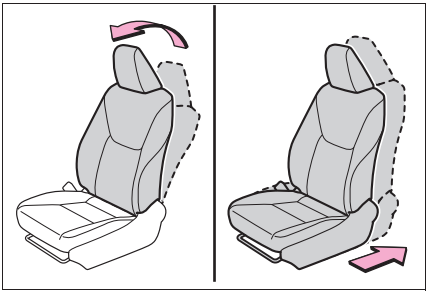
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

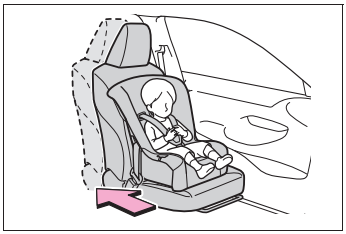
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

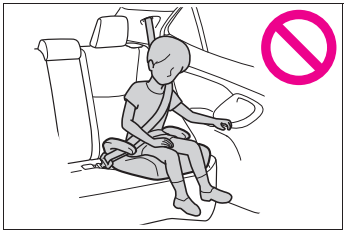
警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

ただし、助手席シートをシート前後方向の調整幅の中間位置より前に調整した場合は、そのシートには着座しないでください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確

認してください。（→P.48）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

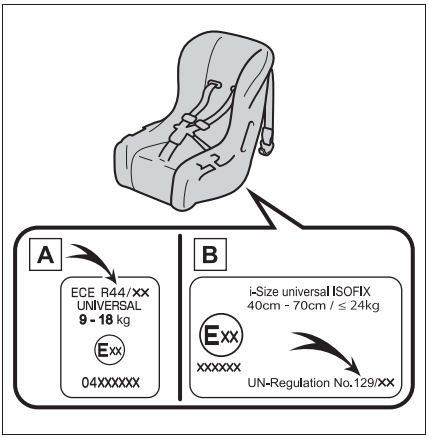
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク ※2

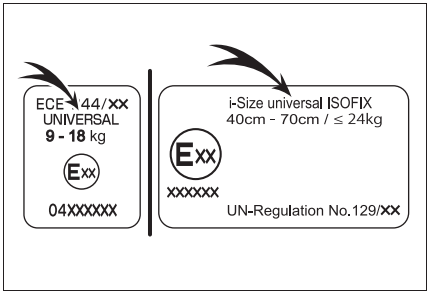
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

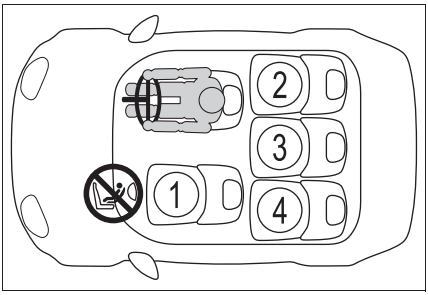


※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

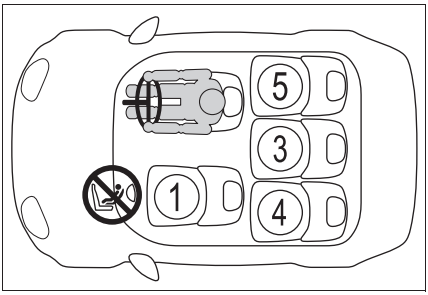
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

▶ 運転席ターンチルトシート非装着車



▶ 運転席ターンチルトシート装着車



1 ※1, 2, 3	UF ※4
2 ※2, 3	U L
3 ※2, 3	U
4 ※2, 3	U L
5 ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.48）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

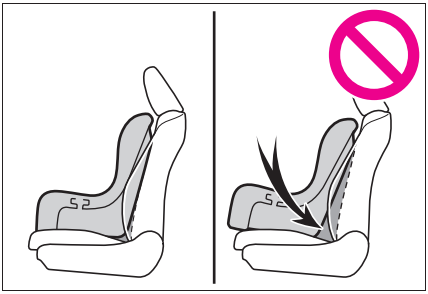
チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてくださ

い。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

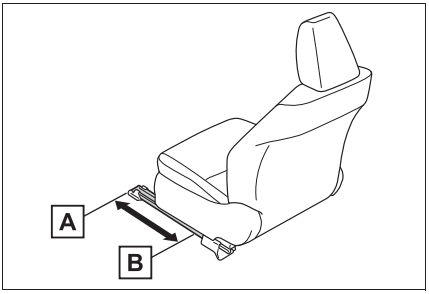
※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置					
シート位置の番号	①	②	③	④	⑤
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	×	有	×	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3※1	×	R1, R2X, R2, R3※2	R1, R2X, R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3	B2, B3

※1運転席をいちばん高い位置に調整してください。（→P.136）

※2助手席の前後位置を 1 段目から 12 段目（後ろから 16 段目）の範囲で調整してください。



A 1 段目

B 12 段目

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

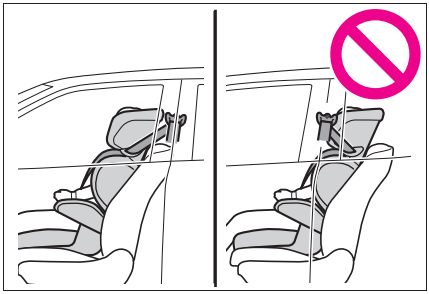
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置				
			①	②	③	④	⑤
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	×	○	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150cm（体重：15 ～ 36kg）	前向きのみ	×	○	×	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

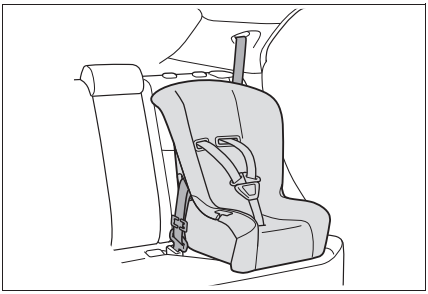
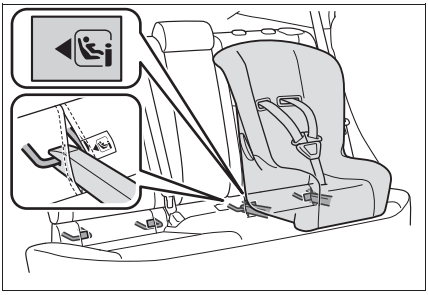
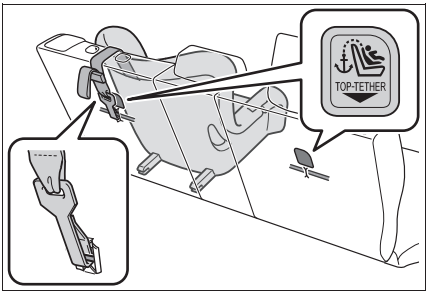


- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイル

ドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.49
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.51
テザーベルトを固定する		P.52

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが

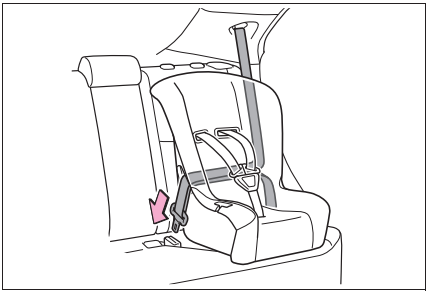
「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.41）

2 分割式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.144）

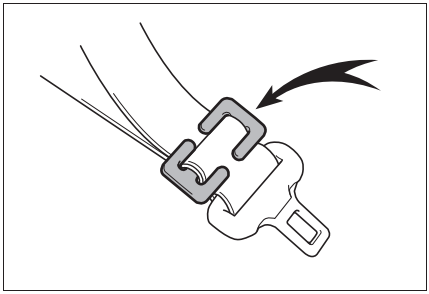
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.51）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

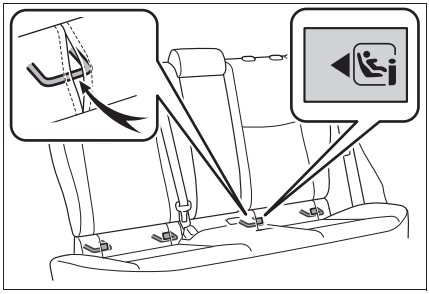
警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

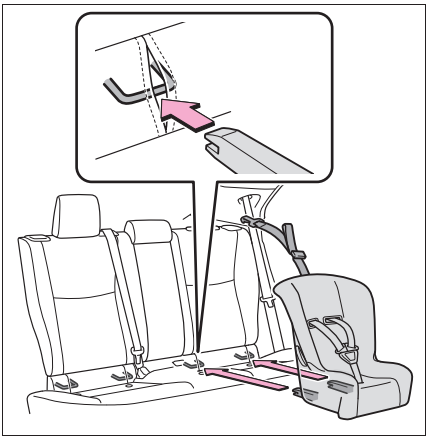
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.44, 45）

1. ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.145）
2. チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.51）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

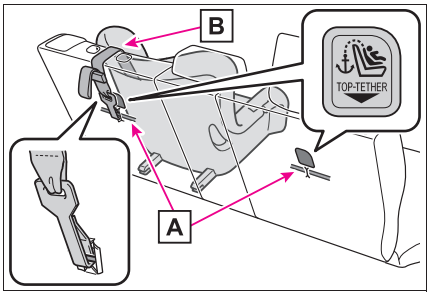
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

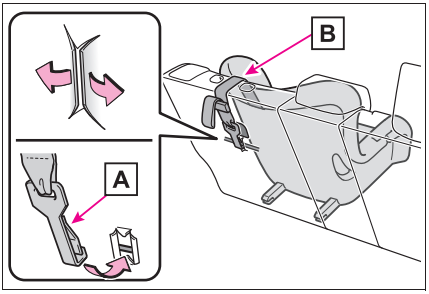
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.145）

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.51）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

T-Connect エントリー（22）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ここでは、T-Connect エントリー（22）について記載しています。マルチメディア装着車は、「マルチメディア取扱書」を参照してください。

T-Connect を利用するには、別途契約手続きをしていただく必要があります。

T-Connect について

T-Connect は DCM（Data Communication Module）を介してお車がお客様と常につながることにより、安心、安全、快適なカーライフをサポートするトヨタ専用のコネクティッドサービスです。

■ T-Connect サービス

ご利用可能な T-Connect サービスは、T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご覧ください。

安全にご利用するため注意すること

T-Connect をご利用になるときは、次の注意事項を必ずお守りの上、正しくお使いください。

■ 消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。寿命による交換時期は、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

通信機器について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

■ 通信モジュール（DCM）について

車両に装着した通信モジュール（DCM）で通信を行います。ご利用には T-Connect 利用申込みが必要です。通信費は T-Connect 利用料金に含まれます。利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

リコール情報などのお車に関する大切なお知らせをトヨタ自動車（株）またはトヨタ販売店からリ

モートメンテナンスメールによりお送りするため、T-Connect の契約の有無にかかわらず、通信を行う場合があります。

通信モジュール（DCM）について

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、インストルメントパネルに設置されています。

⚠ 警告

■ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

● 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。

● 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。

・トンネルの中にいるとき
・地下駐車場にいるとき
・山奥などの通信圏外にいるとき
・回線が混雑しているなど、発信規制中のとき

● 通信モジュール（DCM）の回線維持期間経過後に T-Connect を新たにご契約いただく場合、通信モジュール（DCM）の回線を接続するための費用が必要になることがありますので、あらかじめご了承ください。

● この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
（その場合には事前にご連絡します。）

知識

■データ取得について

T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

T-Connect を契約するには

T-Connect をご利用いただくには T-Connect 契約が必要となります。

■ 新規契約を行うには

● 新車購入時：購入時にトヨタ販売店でお申し込みできます。初度登録から 5 年間無料でご利用いただけます。※

● 中古車購入時：トヨタ販売店、または T-Connect の WEB 申し込みサイト（https://tconnect.jp/webregist_tsc/）でお申し込みできます。

※ 初度登録日より 60ヵ月点検（車検）月の末日までが無料期間です。

■ 継続契約を行うには

契約の更新月が近づくとトヨタコネクティッド株式会社よりお知らせが届きます。そちらに記載の手続き方法にしたがって契約の更新を行うことができます。

T-Connect を利用するには

T-Connect は、T-Connect を申込みのうえ、各サービスの使用方法、留意事項を確認いただきご利用ください。

■ ご利用の前に

ヘルプネットの手動保守点検を行ってください。手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 各サービスを使うには

● ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）（→P.57）

● リモートメンテナンスサービス（→P.69）

上記以外のサービスの使用方法は T-Connect の WEB サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご確認ください。

マルチメディアシステム装着車は、上記のサービスの他に T-Connect のさまざまなサービスがご利用いただけます。詳細は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ WEB サイト

● トヨタ公式サイト

T-Connect サービスの概要などを確認することができます。

・URL：https://toyota.jp/tconnectservice/

・QR コード：

● My TOYOTA(WEB)

T-Connect の契約情報の確認、オプションの契約などを行うことができます。

・URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

・QR コード：

■ スマートフォンアプリ

● My TOYOTA+ アプリ

お車の燃料残量や走行距離の確認、マイカーサーチの各サービスなどを利用することができます。

・URL：https://toyota.jp/spapp/mytoyota/qrlink/
・QR コード：

T-Connect を解約する

お車を手放す場合など、T-Connect を解約する際は WEB サイトまたは T-Connect サポートセンターから行うことができます。

■ WEB サイトから解約するには

My TOYOTA(WEB) にログインして解約手続きをしてください。

URL：https://toyota.jp/member/mytoyota/

■ T-Connect サポートセンターから解約するには

T-Connect サポートセンターに連絡して解約してください。

全国共通・フリーコール：

フリーコール 0800-500-6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

必ずご契約者ご本人から、以下の情報をご準備のうえ、ご連絡ください。

● 自動車検査証（車検証）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話接続し、車内からの通報救援要請を補助支援するシステムです。

さらに、あおり運転などのトラブルのときでも、警察へ状況に応じて通報します。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

知識

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが作動したときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、T-Connect の契約をしていない状態でも

緊急通報可能状態として表示することがあります。

⚠注意

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

サービス開始と解約について

ヘルプネットは、T-Connect を申込みのうえ、ヘルプネットの手動保守点検を正常に完了してからご利用いただけます。手動保守点検は必ず契約者本人で行うようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect 契約を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

緊急通報について

緊急通報は、手動保守点検の完了後に利用できる機能です。

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

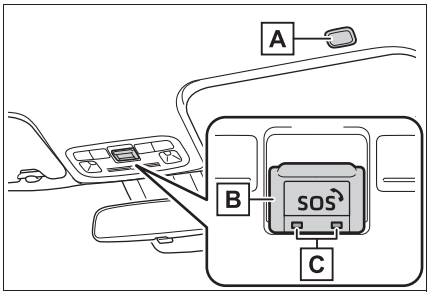
■ ドライバー異常時対応システム作動による自動通報

ドライバー異常時対応システム作動によってお車が自動停車すると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

■ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

各部の名称とはたらき



A マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

B ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするときに押します。

C 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。
（→P.65）

警告

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

●次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・携帯電話サービスエリア外で使用している

・関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している

・T-Connect が未契約、または契約期限が切れている

・手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

●緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

警告

- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

注意

- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 次の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：-20 ℃～+ 60 ℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

ヘルプネットをお使いになる前に

ヘルプネットは、手動保守点検を実施してからご利用ください。

1 手動保守点検を行い、次の点を確かめる

- 通信が正常に始まる。
- 通話ができる。
- 通報位置が正しい。（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

2 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確かめる

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないときは、再度、手動保守点検をしてください。

警告

- 次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。
  - ・通信が始まらない。
  - ・通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う。
  - ・通話できない。

警告

●手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

お客様からの応答が無い場合には意識不明と判断し、オペレーターがお客様に代わって速やかに救急車の手配を要請します。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

6 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

7 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

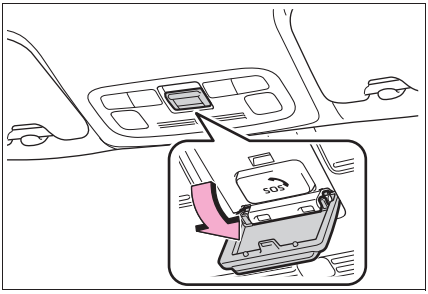
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

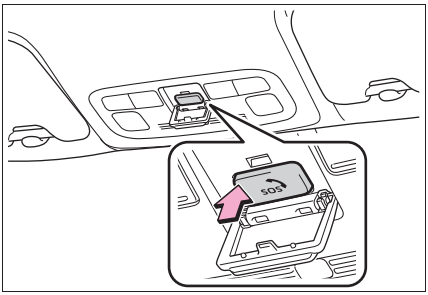
パワースイッチが ACC または ON のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く



3 ヘルプネットボタンを押す



4 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

5 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

6 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、ヘルプネットセンターのオペレーターは、通報者の要請に基づき警察、消防などに接続します。通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

7 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

8 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

9 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

10 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

警告

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

警告

- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
  - 携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
  - 携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
  - 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

知識

- 緊急通報中に音声案内が流れているあいだは、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。
- 誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。ただし、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

- 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）
- ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

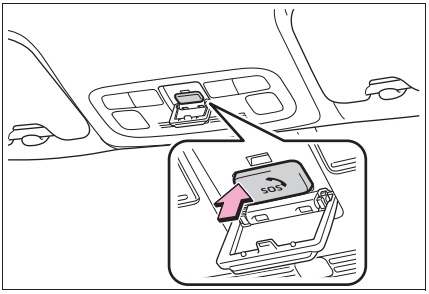
2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く

3 パワースイッチを OFF にする

4 パワースイッチを ACC または ON にする

5 ヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯がともに点灯し

たら、すぐにヘルプネットボタンを約 10 秒間押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、次の確認が実施される

- 車両の現在地
- 手動保守点検をしていること
- ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 マイクを通して、ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。
「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

10 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯は点滅を終了します。

警告

- 手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。
- 手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

- 自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

・手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

⚠注意

・手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき （携帯電話サービスエリア内）	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき （携帯電話サービスエリア外）	緊急通報できません。携帯電話サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき （携帯電話サービスエリア内）	携帯電話サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。（→P.61）
		自動保守点検を何回も連続して失敗したとき（携帯電話サービスエリア外）	携帯電話サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。（→P.63）それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。携帯電話サービスエリア内に移動してから、再試行してください。（→P.63）
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを ON にしたとき（約 5 秒間）	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	T-Connect サービスを契約してください。（→P.56）
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチを ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検をしていないとき	手動保守点検を行います。（→P.63）

警告

●表示灯が以下のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける。

・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く。

・携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く。

・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない。

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、T-Connect の契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

緊急通報できない場合について

次のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

■ T-Connect 契約の不成立または消滅

● 未契約のとき

● 契約が締結できないとき

● 契約の解除が実施されたとき

● 契約が終了したとき

■ ヘルプネット利用登録の不成立

● 未登録の場合

● 手動保守点検※ を完了していない場合

● 登録情報が更新されていない場合

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 関連機器の異常による通信不能

● 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障

● バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など

● 車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

■ 緊急通報センターシステムの位置評定エラー

GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われないまたは誤差が大きいとき

ヘルプネットは、GPS から位置情報を取得しています。

■ ヘルプネットセンター／T-Connect センターシステムの異常による通信不能

● センターシステムの故障など

● センターの火災などによる、センターシステムの損傷

■ **ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能**

● 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア外に、“登録車両”が位置するとき

● 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき

● 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき

● 本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき

● 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

■ **緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止**

● センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき

● 大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

■ **その他の要因**

手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症状	考えられること	処置
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しない	手動保守点検※が正常に完了していない。	手動保守点検※をする。（→P.63）

症状	考えられること	処置
緊急通報できない	パワースイッチを ACC または ON にした直後の点検中ではありませんか。	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。（→P.61）
	電波状態は良好ですか。	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。（→P.63）
	携帯電話のサービスエリア外で使用していませんか。	
	携帯電話回線が混雑している。	しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。（→P.63）
パワースイッチを OFF にしても、ヘルプネットスイッチパネルの赤または緑の表示灯が点滅し続けた	緊急通報中ではありませんか。	「緊急通報を終了しました」という音声案内が流れてから約 60 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 契約がされていますか。	T-Connect の契約をする。（→P.56）

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

警告

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

リモートメンテナンスサービスについて

お車の状態に関する情報を T-Connect センターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

サービスのご利用には、リモートメンテナンス店の登録が必要です。リモートメンテナンス店の新規登録・変更時は、トヨタ販売店にご連絡ください。

車両に OBD (On-Board Diagnostic) Ⅱ通信を行う機器を接続している場合、正しくサービスが行えない場合があります。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、My TOYOTA(WEB) または My TOYOTA+ アプリにメールでご連絡します。また、電話から、その場でトヨタ販売店への入庫予約をおこなうことができます。

■ e ケア

● 走行アドバイス

お車の警告灯が点灯した場合、My-TOYOTA +アプリから e ケアコールセンターまたは販売店に問合せることができます。

内容について、お車から発信される情報をもとに最適なアドバイスが受けられます。

● ヘルスチェックレポート

エンジンオイル量、電子キーのバッテリー等について My TOYOTA+ アプリで確認できます。また、トヨタ販売店からはおクルマから発信される情報をもとに最適なメンテナンスのアドバイスが受けられます。

認証・商標についての情報

■ 通信モジュール（DCM）についての情報

● 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。

● 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

● フリー／オープンソースソフトウェア情報について

・本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/dcm/toyota/

QR コードについて

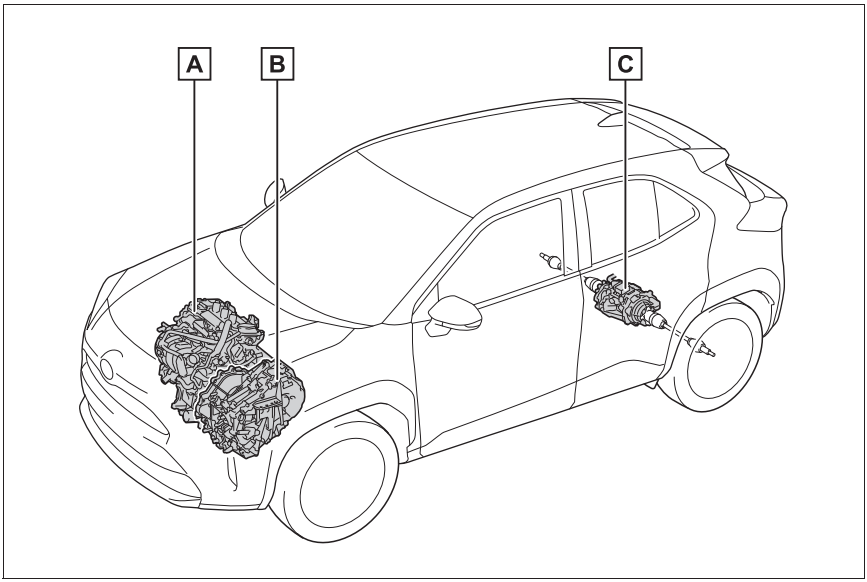
QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（AWD 車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
（→P.72）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

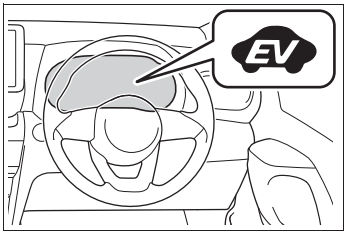
■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.446

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.462）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

先読みエコドライブ★

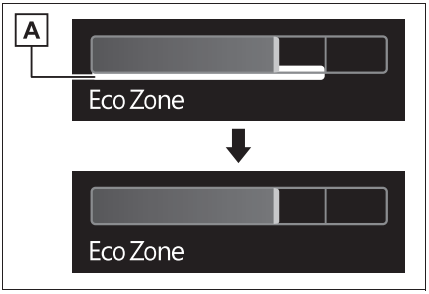
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。先読みエコドライブの詳細については、別冊「ナビゲーション取扱書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

● ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエ

コアクセルガイド（→P.94）の「アクセル操作の目安」Aの表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。



● アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ 先読み SOC※ 制御

ナビゲーションシステムでのルート案内中、電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

● 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。

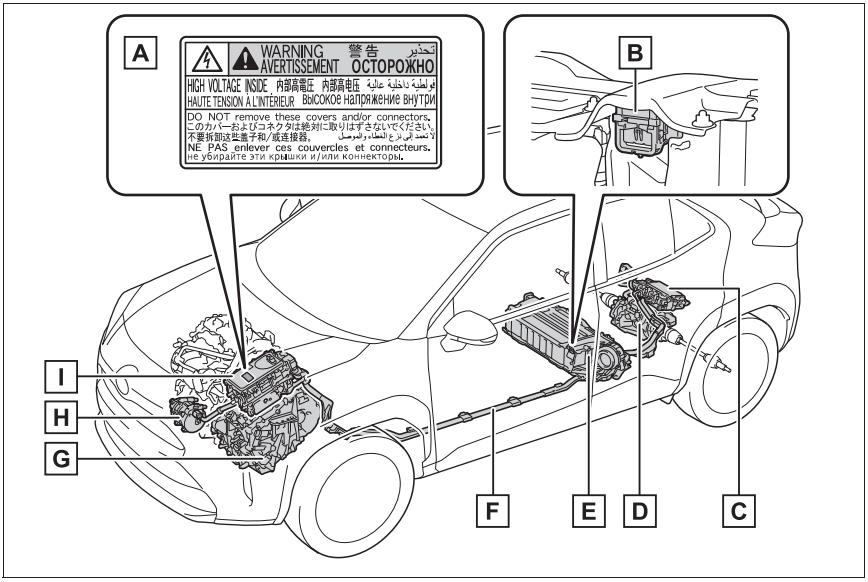
● 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

※ SOC は駆動用電池残量です。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 580V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B サービスプラグ

C リヤインバーター（AWD 車）

D リヤ電気モーター（AWD 車）

E 駆動用電池

F 高電圧ケーブル（オレンジ色）

G フロント電気モーター

H エアコンコンプレッサー

I パワーコントロールユニット

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.408）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 6.3L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

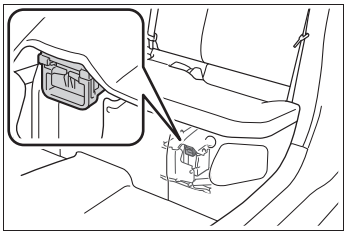
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または４輪（AWD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.401）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近づけない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

警告

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

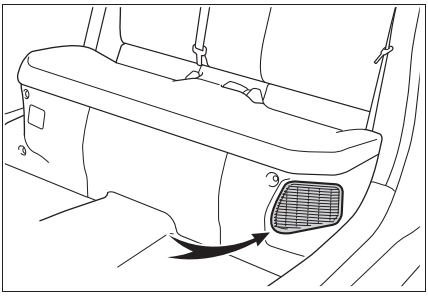
■駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●荷物などで吸入口をふさがないでください。
駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

●吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。（→P.378）

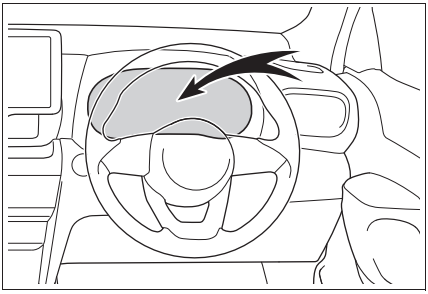
●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■**警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

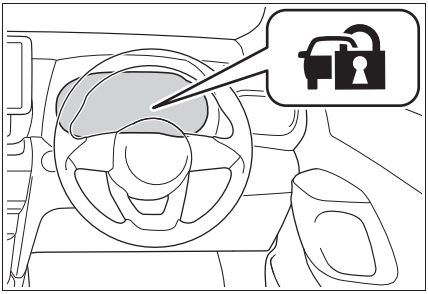
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

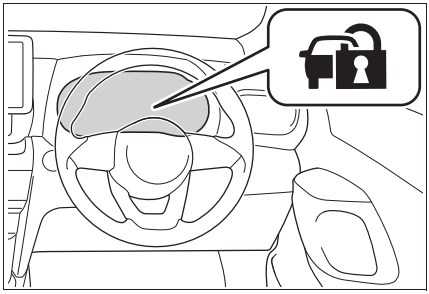
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

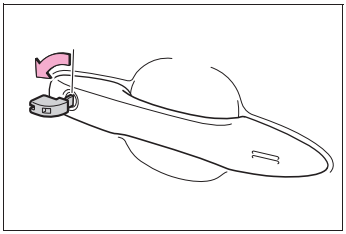
■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■オートアラームの作動について

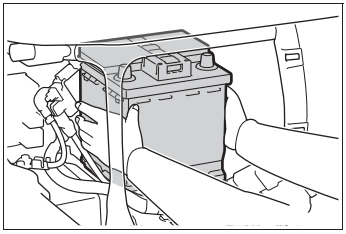
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.446）



■**オートアラーム作動によるドアロック機能**

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■**カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.463）

⚠注意

■**オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 84
計器類..... 88
マルチインフォメーションディスプレイ 92
ヘッドアップディスプレイ 99
エネルギーモニター／燃費画面103

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.406）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.406）

高水温警告灯 ※2（→P.406）

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.406）

充電警告灯 ※2（→P.407）

油圧警告灯 ※2（→P.407）

エンジン警告灯 ※1（→P.407）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.407）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.407）

ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.408）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.408）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.408）

燃料残量警告灯（→P.408）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.408）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.409）

LDA 表示灯（→P.409）
（黄色）

LTA 表示灯（→P.409）
（黄色）

PDA 表示灯（→P.409）
（黄色）

運転支援情報表示灯 ※1（→P.410）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.410）

クルーズコントロール表示灯（→P.410）
（黄色）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.410）
（黄色）

PCS 警告灯 ※1（→P.411）

スリップ表示灯 ※1（→P.411）

パーキングブレーキ表示灯（→P.411）
（点滅）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.411）
（点滅）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.174）

尾灯表示灯（→P.181）

ハイビーム表示灯（→P.183）

アダプティブハイビームシステム表示灯★（→P.187）

オートマチックハイビーム表示灯★（→P.189）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.192）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.206）

クルーズコントロール表示灯（→P.242）
（※4）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.234）
（※4）

LDA 表示灯（→P.215, 219）
（※4）

(※4)

LDA OFF 表示灯 ※2
(→P.222)

(※4)

LTA 表示灯★（→P.215）

ドアミラーインジケーター★
※5（→P.248, 265）

PDA 表示灯（→P.224）

運転支援情報表示灯 ※1, 2
(→P.247, 252, 265, 270, 273)

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.257）

クリアランスソナー検知表示灯 ※7（→P.256）

(点滅)

スリップ表示灯 ※1（→P.314）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.315)

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※3
(→P.166)

READY インジケーター
(→P.166)

EV ドライブモード表示灯
(→P.170)

パーキングブレーキ表示灯
(→P.175)

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.179）

ブレーキホールド作動表示灯
※1（→P.179）

EV インジケーター（→P.72）

低温表示灯 ※6（→P.90）

セキュリティ表示灯（→P.80, 81）

エコドライブモード表示灯
(→P.308)

パワーモード表示灯
(→P.308)

トレイルモード表示灯★
(→P.309)

スノーモード表示灯★
(→P.311)

(点灯または点滅)

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯★ ※1
(→P.311)

プラスサポート表示灯★
(→P.319)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します

※5 ドアミラーに表示されます。

※6 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7 マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

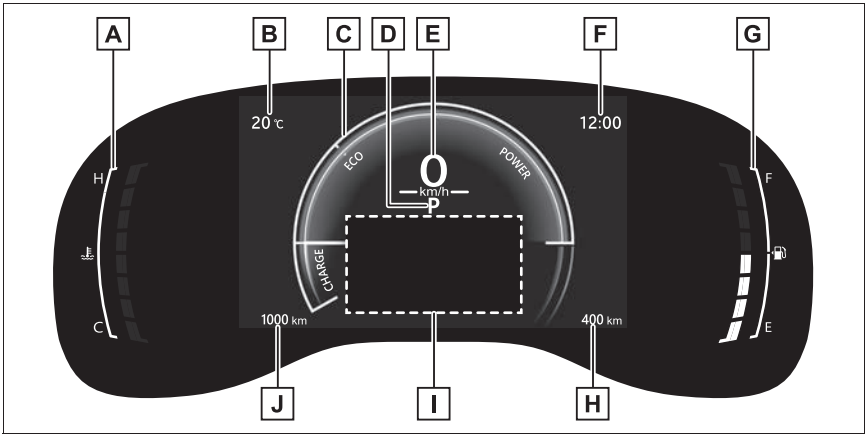
マルチメディアまたはリヤカメラ非装着

車は、クリアランスソナー機能の ON/OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温度を－ 40 ℃～ 60 ℃のあいだで表示します。

C アナログメーター

アナログメーターのメータータイプはマルチインフォメーションディスプレイの⚙で変更できます。(→P.97)

タコメーター : 毎分のエンジン回転数を示します。

ハイブリッド システム インジケーター : ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.89)

シンプルメーター : アナログメーター表示を OFF にします。

D シフトポジション表示灯（→P.172）

E デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

F 時計（→P.91）

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

H 走行可能距離

燃料残量による走行可能な距離を示します。

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.92）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.413）

J オドメーターディスプレイ

知識

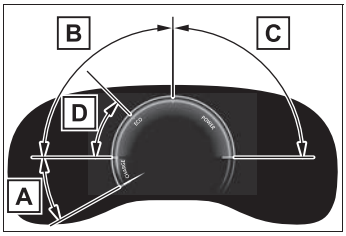
■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

D ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが点灯していないとき

●シフトポジションがDまたはB以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行う

ことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 パワースイッチを OFF にする

3 メーター操作スイッチの OK スイッチを押しながら、パワースイッチを ON にする。

4 そのまま約 5 秒間 OK スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

■液晶ディスプレイについて

→P.93

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの で、計器類の表示を変更できます。

（→P.462）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

（→P.449）

時計の調整をするには（マルチメディアシステム非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの から、時計の設定を変更できます。

■ 分を 00 にする

1 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して を選択する

メーター操作スイッチの OK スイッチを押すごとに分を 00 に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。

（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります。）

● 30～59分は切り上げられます。（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります。）

■ 詳細設定

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して🕒⚙を選択する

3 メーター操作スイッチの OK スイッチを長押しする

4 メーター操作スイッチの＜または＞を押して変更したい項目を選択する

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

● 12 時間表示／ 24 時間表示

● 時

● 分

時計の調整をするには（マルチメディアシステム装着車）

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。

設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

知識

■時計の設定画面（マルチメディアシステム装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの⚙に🕒⚙が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

メーターの明るさを調整するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、メーターの明るさを変更できます。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜または＞を押して☀を選択し、OK スイッチを長押しする

3 メーター操作スイッチの＜または＞を押して明るさを変更する

知識

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

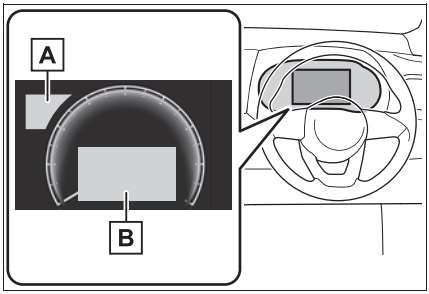
●昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

●夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A RSA（ロードサインアシスト）表示エリア

RSA（ロードサインアシスト）が作動しているとき、認識した標識を表示します。(→P.231)

B コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ メニューアイコン

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

走行情報表示（→P.93）

運転支援機能情報表示（→P.95）

オーディオシステム連携表示★（→P.96）

車両情報表示（→P.96）

設定（→P.97）

警告メッセージ（→P.413）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

●マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

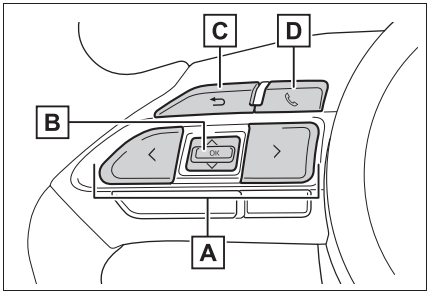
●マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.90

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A ∧／∨：メニューの切りかえ・ページ送り・カーソル移動

〈／〉：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについては詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

走行情報表示について

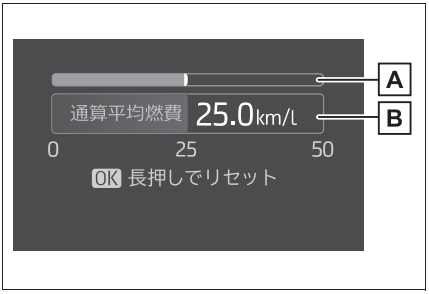
■ 表示項目

● 燃費グラフ

● エコアクセルガイド／エコジャッジ

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 通算平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの⚙から変更することができます。

表示できる項目は次のとおりです。

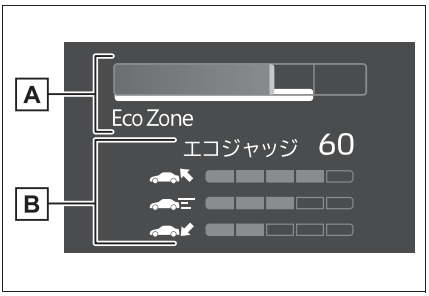
● 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後の平均燃費を表示します。

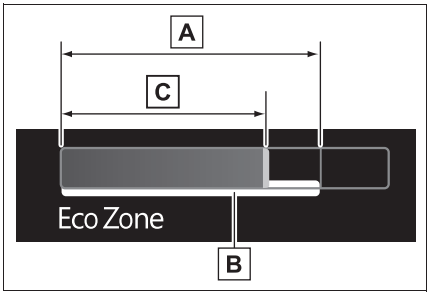
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。

この表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

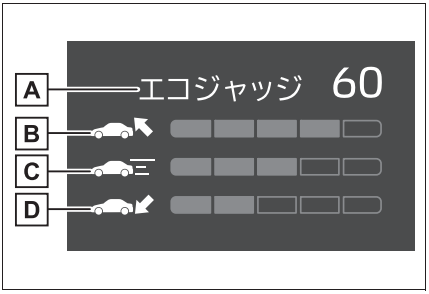
C 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、白色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.158）

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



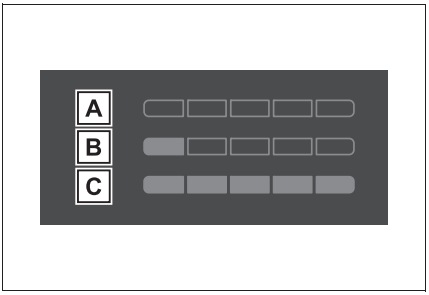
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ停車の状況

● 表示の見方



A 未評価

B 低い

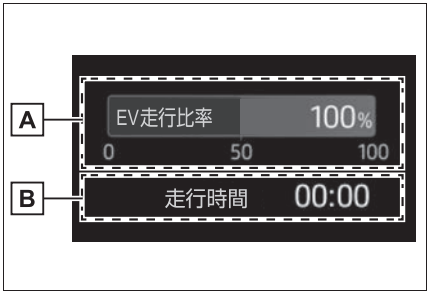
C 高い

・ 発進後、車速が約 20km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

・ ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。

■ 始動後走行時間／ EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロールを使用しているとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

● クルーズコントロール
（→P.242）

● レーダークルーズコントロール（→P.234）

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.215）

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.219）

● RSA（ロードサインアシスト）（→P.231）

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.224）

● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.206）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示

● コンパス（ヘッディングアップ表示）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オーディオシステム連携表示★

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両情報表示について

■ 表示項目

● ドライブインフォメーション

● エネルギーモニター（→P.103）

● トリップインフォメーション

● AWD 作動状態表示（AWD 車のみ）

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.97）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後 ※

・平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

・走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

・走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

・平均車速：リセット後の平均車速を表示

・走行距離：リセット後の走行距離を表示

・走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ トリップインフォメーション

“TRIP A 項目選択” “TRIP B

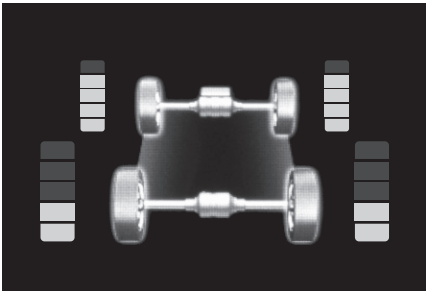
項目 選択 ” の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※
・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示 ※
・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※

※ OK を押し続けるとリセットされます。

■ AWD 作動状態表示（AWD 車のみ）



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：
0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを選択することができます。

● メータータイプ

メーターの表示方法を選択することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 🍃

・ ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→P.94）

・ 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→P.93）

● ♪★

オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。

●

・ 表示コンテンツ

エネルギーモニター／トルク配分画面★の表示・非表示を選択することができます。

・ ドライブインフォ項目とトリップ A/B 項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには∧／∨／＜／＞／OK／⮌のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.462

知識

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

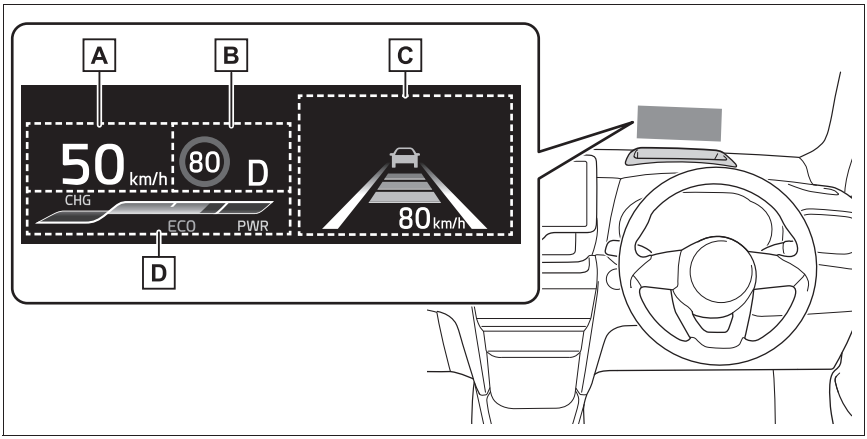
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 車速表示

B シフトポジション／ RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.172, 231）

C 運転支援システム表示エリア／ナビゲーションシステム連携表示エリア★（→P.101）

D ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター／外気温表示エリア（→P.102）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**ヘッドアップディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■**ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

●ヘッドアップディスプレイの表示が見づらい場合は、次の方法で調整してください。

・ヘッドアップディスプレイの上下調整（→P.100）
・シートの上下調整（→P.136）

●サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

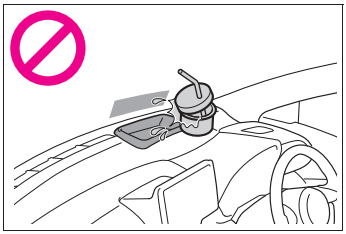
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から“HUD メイン”を選択します。（→P.462）

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

メーター操作スイッチの OK を押すごとにヘッドアップディスプレイの表示 / 非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定変更

メーター操作スイッチの OK を長押しすると次の設定を変更できます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示内容

次のいずれかから表示する項目を選択することができます。

・表示なし
・ハイブリッドシステムインジケーター

表示

・タコメーター表示

● 次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・ルート案内★

・運転支援

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

■ 運転支援システム状況表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.219）

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.215）

● レーダークルーズコントロール（→P.234）

● クルーズコントロール（→P.242）

● 発進遅れ告知機能（→P.229）

● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.224）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示エリア★

ナビゲーションシステムと連携してルート案内を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■交差点名表示について★

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.206）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.219）
- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.215）
- 発進遅れ告知機能（→P.229）
- レーダークルーズコントロール（→P.234）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.224）
- パーキングサポートブレーキ（静止物）（→P.278）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.158）
- ドライブスタートコントロール（→P.162）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ ⚠アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.413）

■ 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

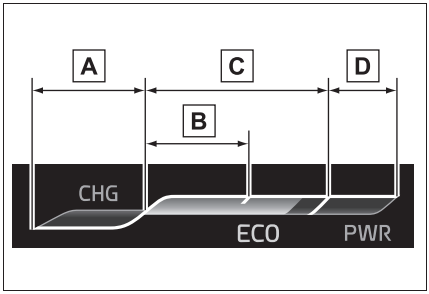
知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター／外気温表示

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

B ハイブリッドエコエリア

C エコエリア

D パワーエリア

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.89 を参照してください。

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ 外気温表示

パワースイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

知識

■外気温表示について

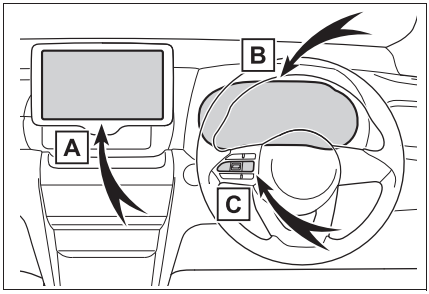
- 外気温が約 3 ℃以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。
  外気温が約 5 ℃以上になると再度外気温が表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  ・停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  ・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

エネルギーモニター／燃費画面★

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイ★に表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ★

B メーター操作スイッチ

C マルチインフォメーションディスプレイ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチを使用してマルチインフォメーションディスプレイにエネルギーモニターを表示させる

マルチインフォメーションディスプレイの操作方法については、P.93 を参照してください。

▶ マルチメディアディスプレイ

メインメニューの にタッチし、サブメニューの “エネルギーフロー” にタッチする

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは矢印は表示されません。

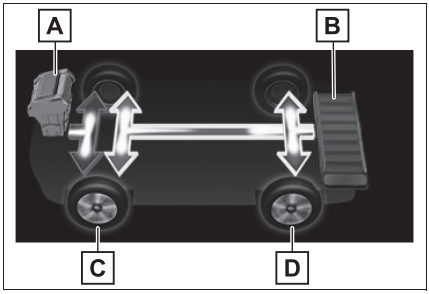
矢印の色は次のように変化します。

青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

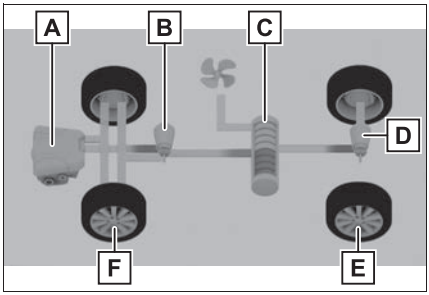
B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ ※

※ FF 車は D への矢印は表示されません。

▶ マルチメディアディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロント電気モーター

C 駆動用電池

D リヤモーター（AWD 車のみ）

E リヤタイヤ※

F フロントタイヤ

※ FF 車は E への矢印は表示されません。

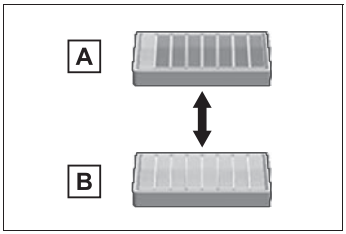
知識

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

・ 図はマルチインフォメーションディスプレイで説明しています。

・ 表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



A 少ない

B 多い

■駆動用電池の残量警告について

●シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

燃費画面の表示のしかた（マルチメディアシステム装着車）

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 画面を表示させるには

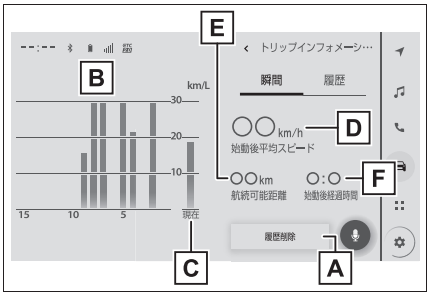
メインメニューの にタッチし、サブメニューの “トリップインフォメーション” にタッチする

■ 瞬間燃費画面の見方

瞬間燃費画面以外が表示されたときは、“瞬間” にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D ハイブリッドシステム始動後平均車速

E 航続可能距離

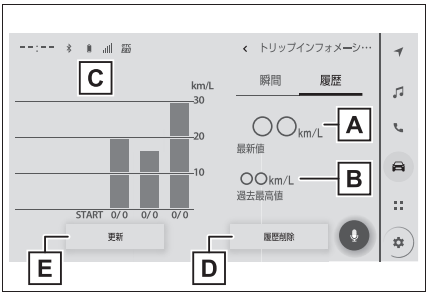
F ハイブリッドシステム始動後経過時間

■ 燃費履歴画面の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“履歴”にタッチします。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴消去

E 最新値更新

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

運転する前に

3

3-1. キー

キー 108

デジタルキー 111

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア） 114

バックドア 118

スマートエントリー＆スタートシステム 130

3-3. シートの調整

フロントシート 136

ターンチルトシート 137

リヤシート 141

ヘッドレスト 143

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 147

インナーミラー 148

ドアミラー 149

補助確認装置 150

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 151

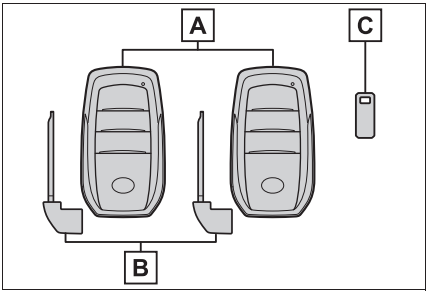
3-6. お好み設定

マイセッティング 154

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→P.130）
・ワイヤレス機能の作動 （→P.109）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.131）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.381）
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.381）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

●降車オートロック機能を利用する場合、電池の消耗が早くなる可能性があります。スタンバイ状態で車両周辺に長時間いるときはキャンセル操作をお勧めします。（→P.115）

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り

忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください”が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→P.381）

■電池の交換方法

→P.381

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療機器などの近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■電子キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

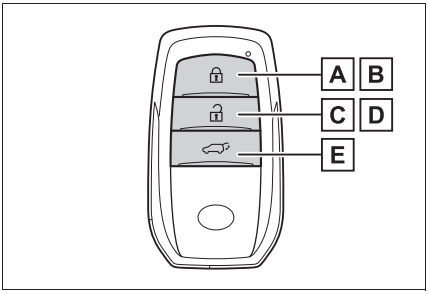
→P.442

■電子キーを紛失したとき

→P.441

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.114）

B ドアガラスを閉める ※
（→P.114）

C 全ドアを解錠する（→P.114）

D ドアガラスを開く ※
（→P.114）

E パワーバックドアを開閉する★
（→P.121）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

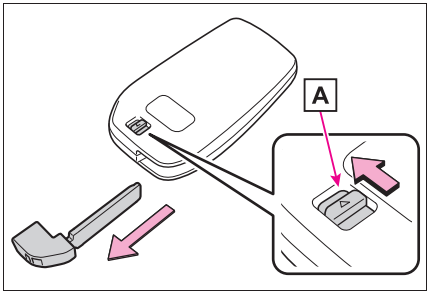
→P.131

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーAをスライドさせてキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.442）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.441

■不正キーの使用について

指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード：

知識

■**QR コード**

QR コードはデンソーウェーブの登録商標です。

■**フリー／オープンソースソフトウェア情報について**

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

■デジタルキーの取り扱い

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はトヨタ販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります (詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください)。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

・スマートフォンが故障した場合
・スマートフォンとサーバーが通信できない場合
・スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
・システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。

● デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

● 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い

場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。

● サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。

● デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

● 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。

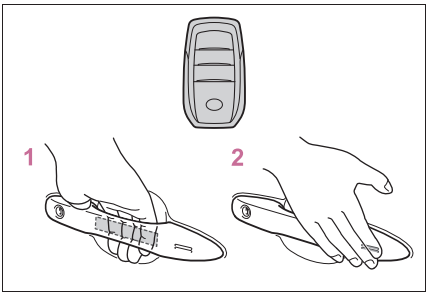
● デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー＆スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

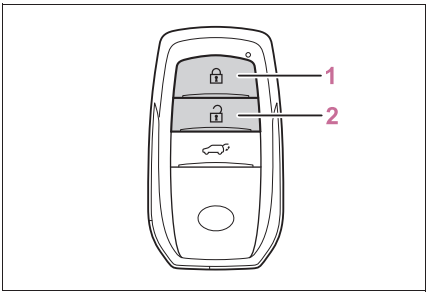
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.130）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.115）

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

すべてのドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア★閉作動中降車オートロック機能 ※1

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーバックドアの閉作動中 ※2 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。

※1 トヨタ販売店での設定変更が必要です。

※2 バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能 ※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

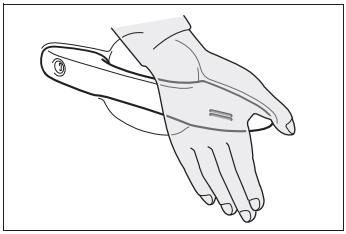
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー＆スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.81）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.131

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.442）

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.381）

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.110, 442）

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
・ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→P.469）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.462）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

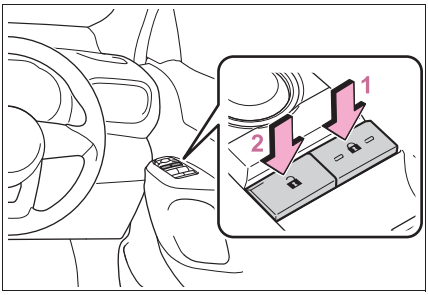
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

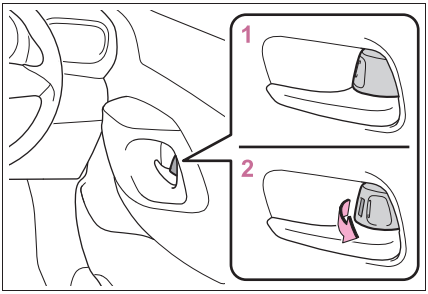
車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

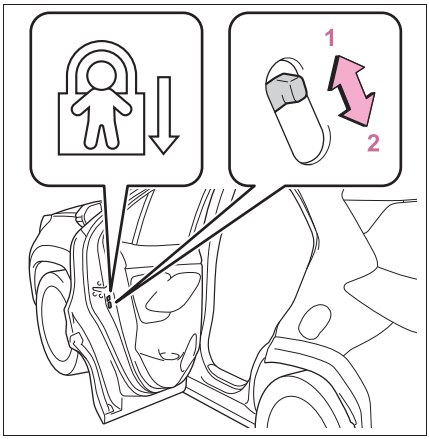
パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

ドア・バックドアまたはフード（オートアラーム装着車）が確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドア・バックドアまたはフード（オートアラーム装着車）がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

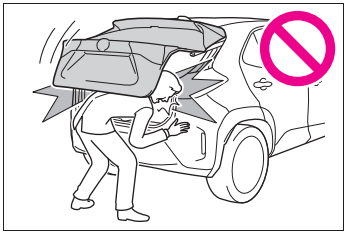
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

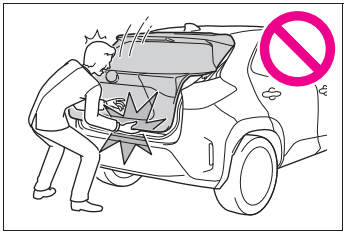
●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



警告

●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●パワーバックドア非装着車：バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

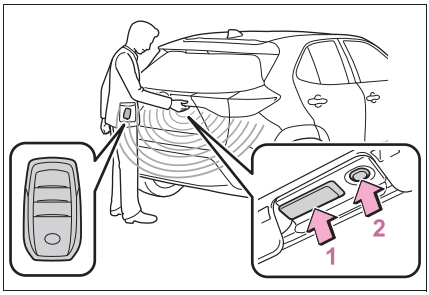
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.120）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.127）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●パワーバックドア非装着車：バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレスリモコンを使用する

→P.114

知識

■作動の合図

→P.115

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.115

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

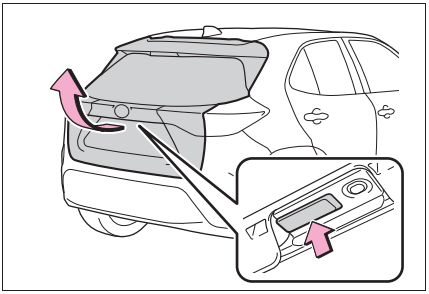
→P.117

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

■ 開ける

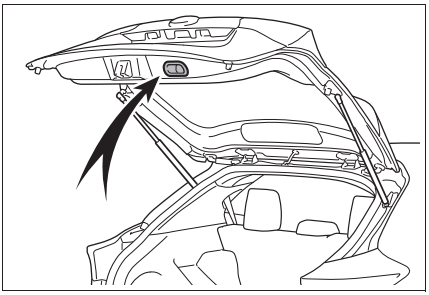
バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押した直後はバックドアを閉めることができません。



■ 閉める

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■半ドア走行時警告ブザー

→P.117

■ラゲージルームランプ

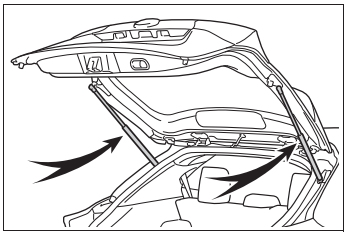
●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

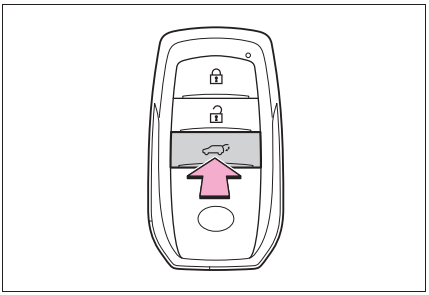
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアロック解除時※に作動させることができます。

※カスタマイズ機能により、バックドアがロックされた状態からでも作動できるように設定できます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



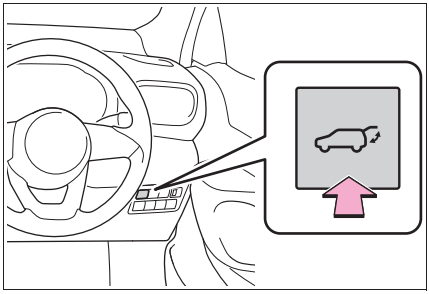
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

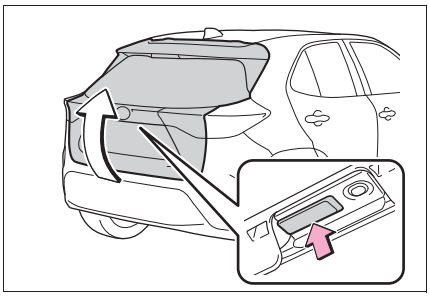
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。

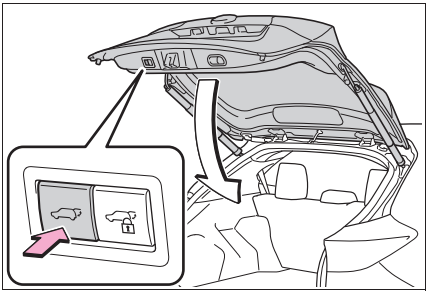


● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ＆ロック機能）

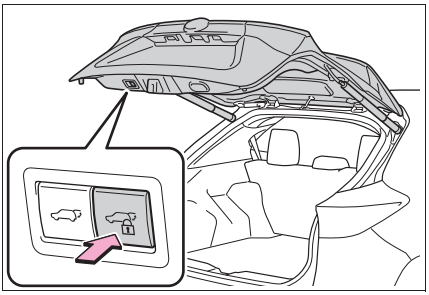
クローズ＆ロックスイッチを押す

パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

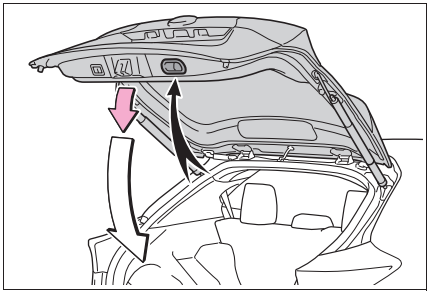
パワーバックドアが閉まる途中でクローズ＆ロックスイッチを押すと、作動を停止し全ドアを解錠します。

再度クローズ＆ロックスイッチを押すと、パワーバックドアは閉じると同時に全ドアを施錠します。



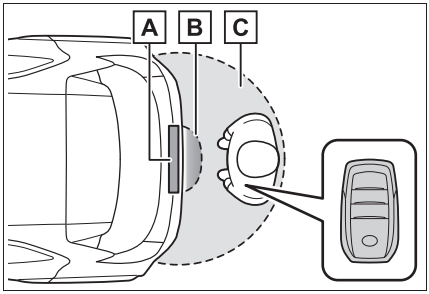
■ **バックドアハンドルを使用して閉じる**

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ **キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）**

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内、かつリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立ちます。



A キックセンサー

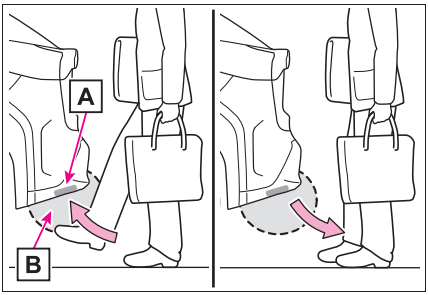
B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.130）

2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近付けます。

リヤバンパーに足先を触れることなく操

作してください。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 ブザーが鳴ったあと足を引きます。
ブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開／全閉します。

- 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- 足先をリヤバンパーの下に入れたままではパワーバックドアは作動しません。
- 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、パワーバックドアの作動までの時間が少し長くなることがあります。
- 2 回ブザーが鳴った場合は再度キック操作をしてください。
バックドアが作動している途中で再度キック操作をすると、パワーバックドアの作動が停止します。

知識

■ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- パワーバックドアの作動が ON のとき（→P.129）
- バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.121）

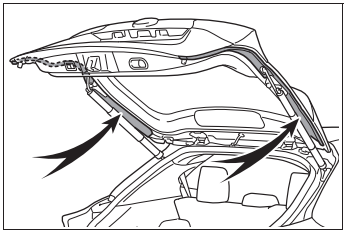
- パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。
・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。
- パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.114）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.114）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ& ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう 1 つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ（→P.121）を短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ（→P.121）を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチを押したとき

●パワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチから離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに自動

で開閉できます。

●キックセンサーの作動が ON のとき（→P.129）

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.130）

●足をリヤバンパー中央の下部に近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき
リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.131）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動を OFF にしてください。（→P.129）

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用

品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

■補機バッテリーを再接続したとき

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

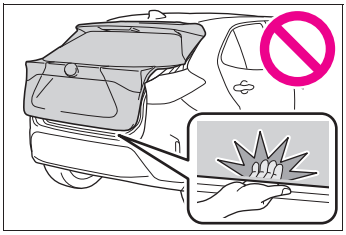
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.465）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.123）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

警告

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチをONにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

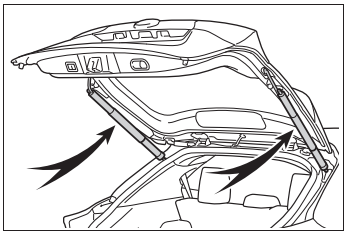
●リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.124）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

注意

- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.465）

パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

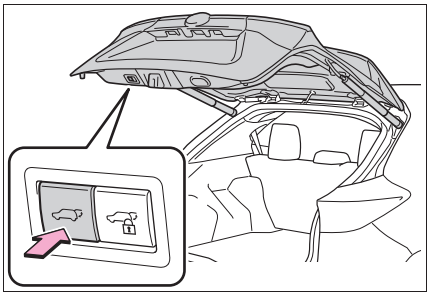
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.121）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

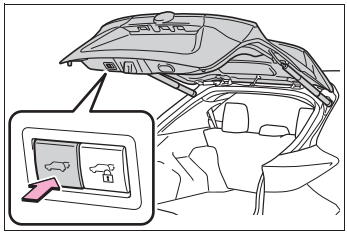


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.129）

バックドア下部のスイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

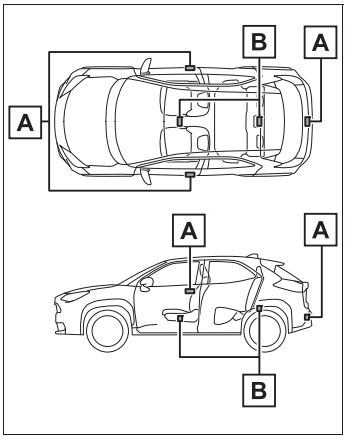
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.114）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.119）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.166）

知識

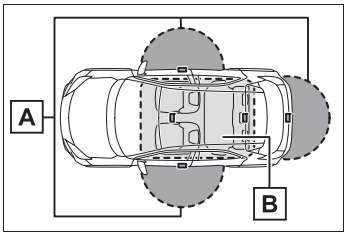
■アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。（→P.413）

- 車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から警告音が “ ポーン、ポーン ” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 車室内にキーがあります ” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

・車の外約 3.5m 以内に電子キーを 40 秒以上放置した

・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

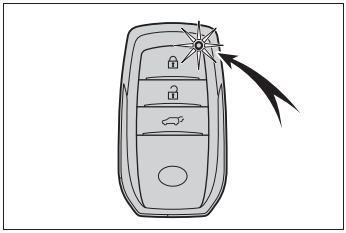
●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。

この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンス

タンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.442）

また、スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.443 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●車両に近い位置に電子キーがあるとき

にワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.131）

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■**降車オートロック機能 についてご留意いただきたいこと**

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.115）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア★閉作動中も含む※）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

・ブレーキペダルを踏む

・パワースイッチを押す

・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドア（パワーバックドア★閉作動中も含む※）を開閉してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.115）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.115）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.115）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※パワーバックドア★閉作動中降車オートロック機能（→P.114）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電子キーの取り扱いについて

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.465）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.131）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■電子キーが正常に働かないときは

●ドアの施錠・解錠：→P.442

●ハイブリッドシステムの始動：→P.443

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。

（カスタマイズ一覧：→P.465）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.114, 442）

●ハイブリッドシステムの始動・パワー

スイッチのモード切りかえ：→P.443

●ハイブリッドシステムの停止：→P.168

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.130）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

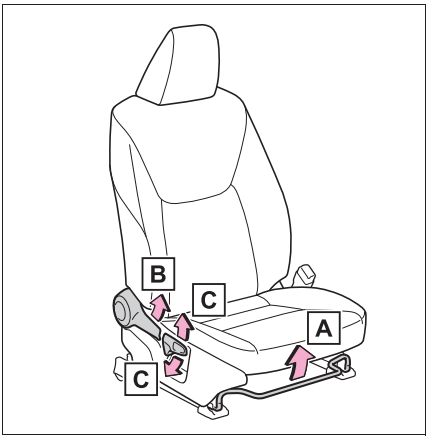
フロントシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

調整するには

■ **マニュアルシート装着車**

▶ タイプ A



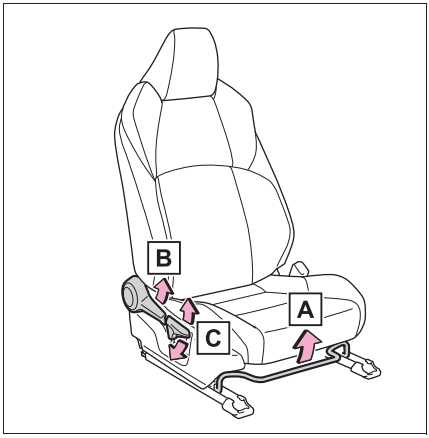
A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

C シート全体の上下調整★（運転席のみ）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ B

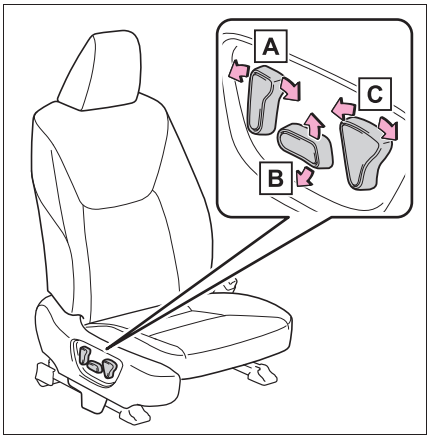


A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

C シート全体の上下調整（運転席のみ）

■ **運転席パワーシート装着車**



A リクライニング調整

B シート全体の上下調整

C 前後位置調整

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。

指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●マニュアルシート装着車：シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

注意

■シートを調整するときは

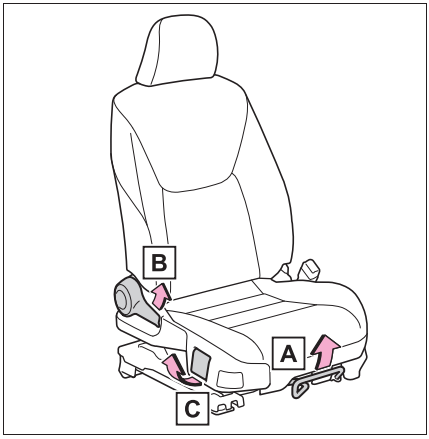
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

ターンチルトシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ターンチルトシートは、シートを車内外に回転させることで、乗降をサポートします。

調整・回転するには



A 前後位置調整（スライドレバー）

B リクライニング調整

C 回転レバー

知識

■シートの前後位置調整について

前後位置調整中に、シートが中間位置で止まりますが故障ではありません。スライドレバーを一度下げて、再度前後位置を調整してください。

■回転レバーについて

回転レバーがポップアップする位置付近で回転レバーが少しポップアップするこ

とがありますが、故障ではありません。回転レバーが完全にポップアップする位置で、回転レバーを操作してください。

警告

■シートを調整・回転するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手や足を近付けないでください。

手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■シートの調整・回転について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整・回転後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

注意

■シートを調整・回転するときは

ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

ターンチルトシートの操作をする前に

次のことを確認してください。

● サンバイザーが格納されている

● 背もたれは前方・後方に必要以上に倒れていない

● ヘッドレストの高さがいちばん低い位置になっている

● シートベルトをはずす

警告

■ターンチルトシートを操作する前に

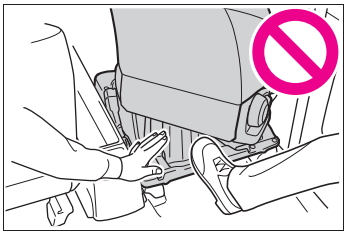
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドア開口部に頭部をあてたりしないように、乗り降りする方の頭上の安全を確認してください。

●ボデーと腕があたらないように、ターンチルトシートを勢いよく操作しないでください。

●ターンチルトシートを操作するときシート可動部などで手や足などを挟むおそれがあります。



●ターンチルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますのでご注意ください。

注意

■ターンチルトシートを操作する前に

ターンチルトシート可動部に手や衣服（スカート・マフラーなど）を巻き込まないようにご注意ください。

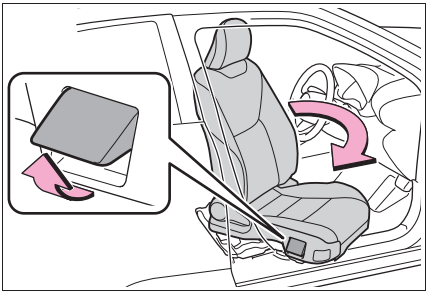
乗降するには

■ 乗車するには

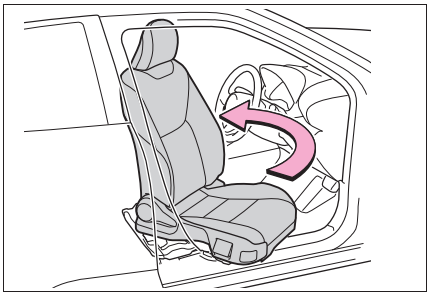
1 シートがロック（マーク位置 A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。

2 ポップアップした回転レバーを引きながら回転が止まるまでシートを外側へ回転させる



3 シートに座り、内側へ“カチッ”と音がするまでシートを回転させる



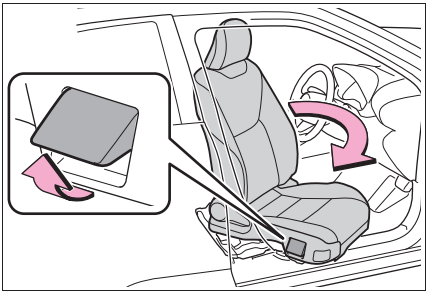
4 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

■ 降車するには

1 シートがロック（マーク位置 A）するまで、スライドレバーを引きながらシートを前後に動かす

回転レバーがポップアップします。

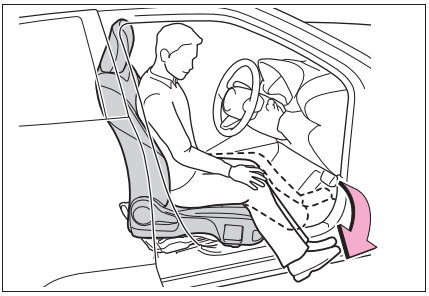
2 ポップアップした回転レバーを引きながらシートを外側へ回転させる



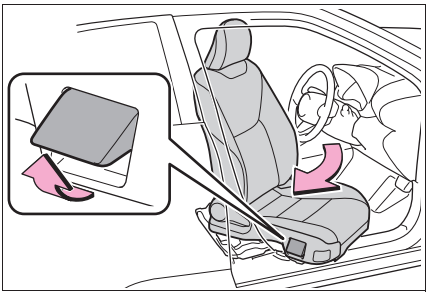
3 シートが回転し始めたら回転レバーから手を放し、“カチッ”と音がするまでシートを回転させる

中間ロック位置でロックされます。

4 中間ロック位置で足を車外に出す

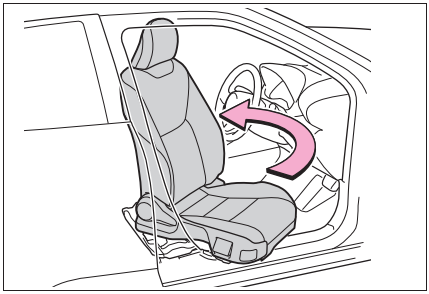


5 回転レバーを引きながら回転が止まるまでシートを外側へ回転させ、降りる



6 シートを格納位置まで回転させる

シートが格納されると“カチッ”と音がします。

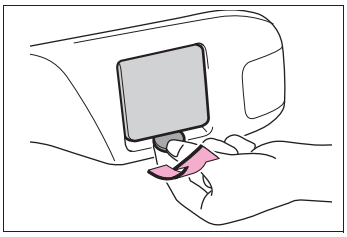


7 シートを前後左右にゆすり、確実にロックしていることを確認する

知識

■ターンチルトシートの回転操作について

- ターンチルトシートとレールのマーク位置が合わないと、シートを回転させることはできません。
- 回転レバーを引いた状態では、ターンチルトシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転レバーから手を放してください。
- 回転レバーが完全にポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。万一、シートが回転できる位置で回転レバーが閉じてしまった場合は、コインなどを使用して回転レバーを引き出してください。



■ターンチルトシートが回転しないとき

●車内から回転できない場合

すみやかにトヨタ販売店または専門業者で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■操作するときは

●走行中やドアが閉じているときは、ターンチルトシートを操作しない

●不整地や傾斜地で操作しない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする

■ターンチルトシートをもとの位置にもどしたあとは

ターンチルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。

注意

■損傷を防ぐために

●回転レバーとスライドレバーを同時に操作しないでください。

正しい位置にシートが移動しなくなるおそれがあります。

●回転レバーが完全にポップアップする位置以外では、回転レバーを操作しないでください。

●ターンチルトシートを確実に格納してからドアを閉じてください。

シートが格納していない状態では、ドアを閉じた際にドアとシートがぶつかるおそれがあります。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

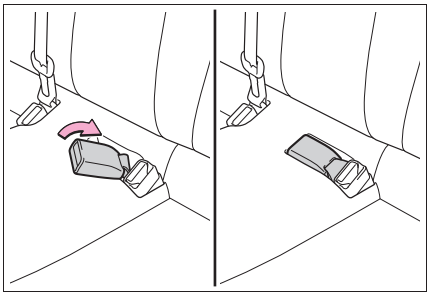
背もたれを倒す・もどす

■ 背もたれを倒す

1 フロントシート★・ターンチルトシート★を前方に移動する（→P.136, 137）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する

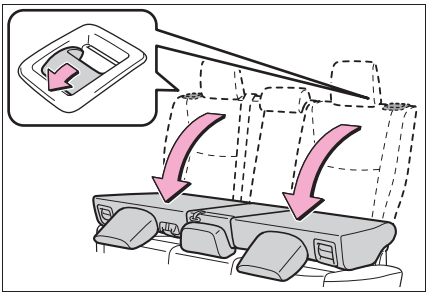


3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.144）

4 ロック解除レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバー

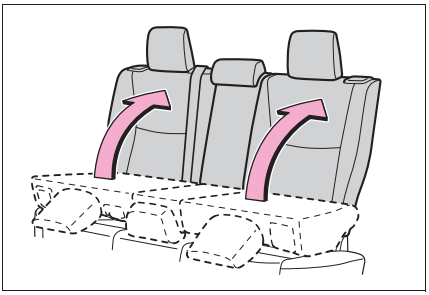
を引いてください。



■ 背もたれをもとにもどす

背もたれを起こして固定する

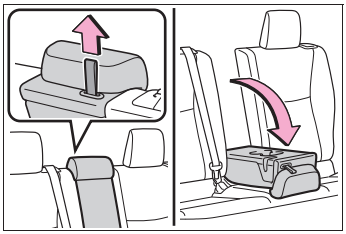
シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。



知識

■中央席の前倒しについて（リヤ中央席カップホルダー装着車）

中央席の前倒しストラップを引きながら前方に倒すことができます。長い荷物などを積む場合に便利です。もとにもどすときは、ロックされる位置まで中央席を引き起こします。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

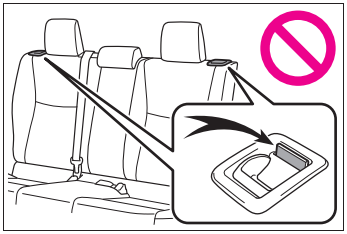
■リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

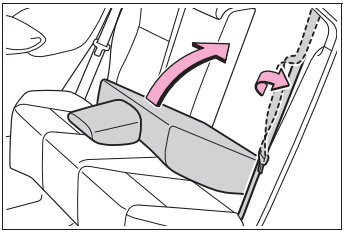
シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



警告

●シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに挟まり、シートベルトを損傷させるおそれがあります。



ヘッドレスト

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

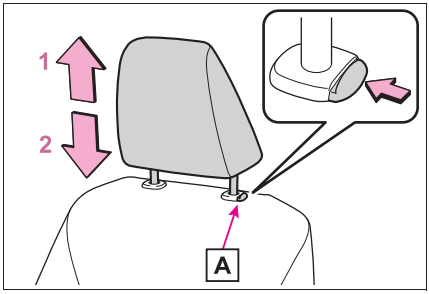
●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）



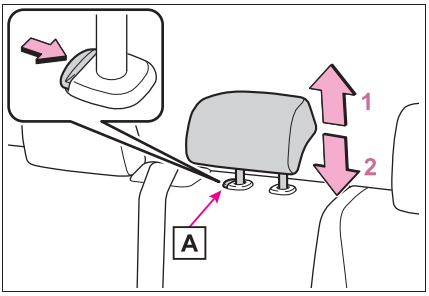
1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ リヤ中央席

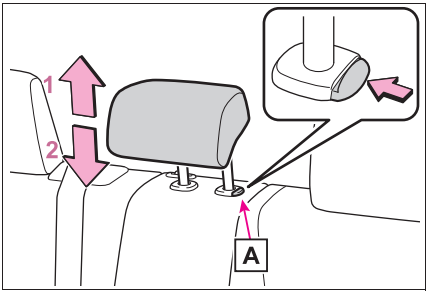
▶ リヤ中央席カップホルダー非装着車



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

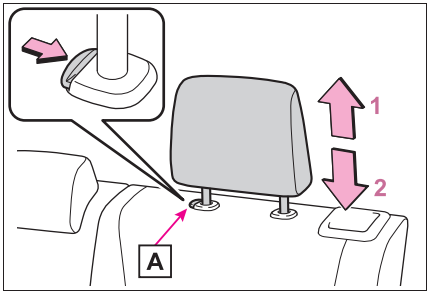
▶ リヤ中央席カップホルダー装着車



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ リヤ外側席



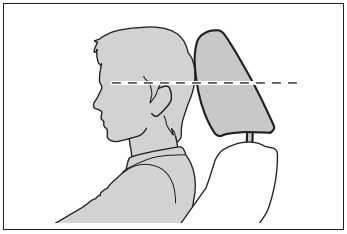
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

知識

■フロント席のヘッドレストの高さについて（分割式ヘッドレスト装着車）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ中央席のヘッドレストについて

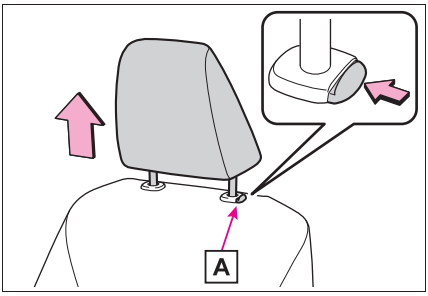
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

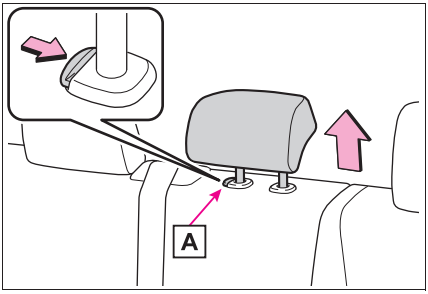
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度を調整してください。（→P.136, 137）



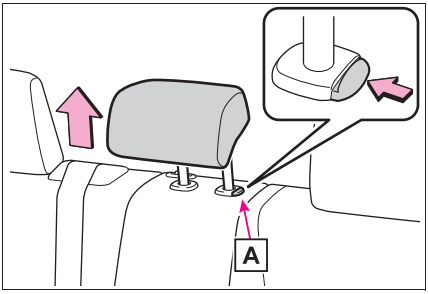
■ リヤ中央席

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

▶ リヤ中央席カップホルダー非装着車



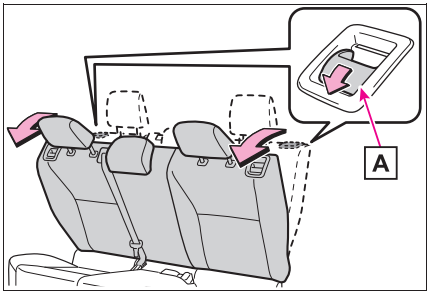
▶ リヤ中央席カップホルダー装着車



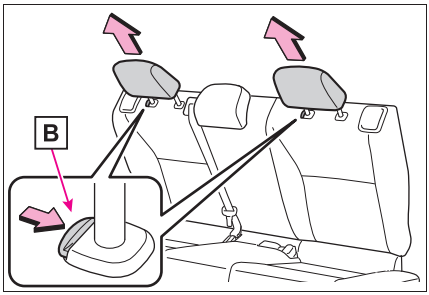
■ リヤ外側席

1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前方に倒す

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンBを押しながら、ヘッドレストを引き上げます。

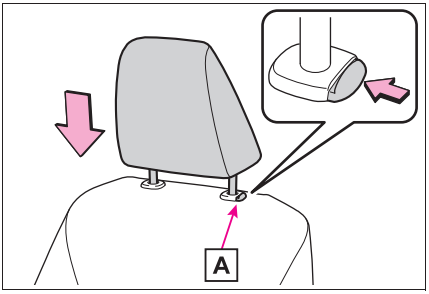


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席（分割式ヘッドレスト装着車）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

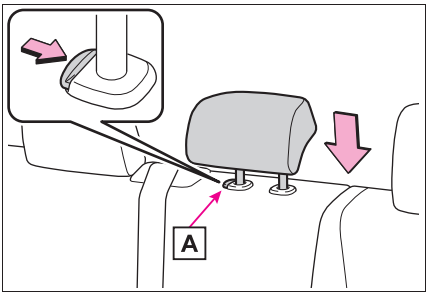


■ リヤ中央席

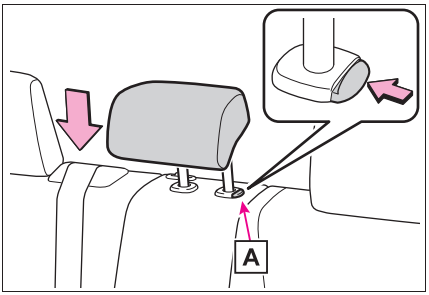
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

▶ リヤ中央席カップホルダー非装着車



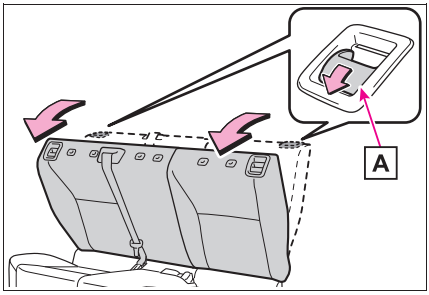
▶ リヤ中央席カップホルダー装着車



■ リヤ外側席

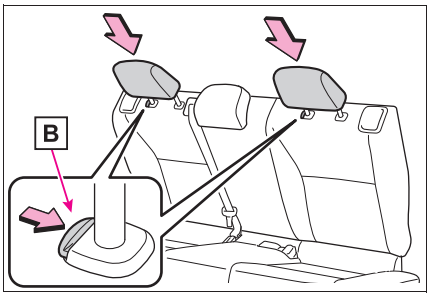
1 ロック解除レバーAを引きながら、背もたれを前に倒す

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

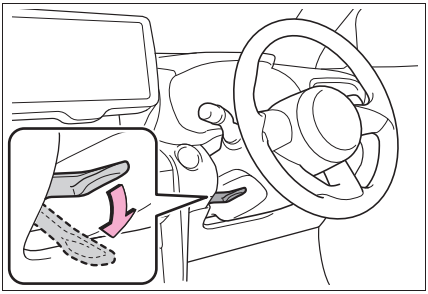
ヘッドレストを挿入するときは、解除ボタンBを押しながら挿入してください。



ハンドル

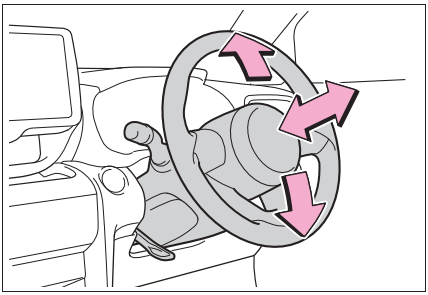
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

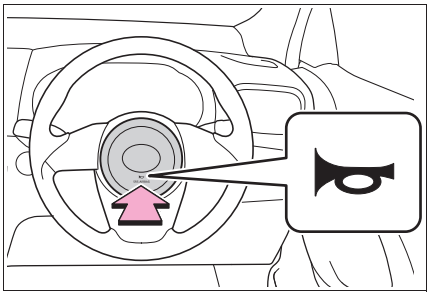
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



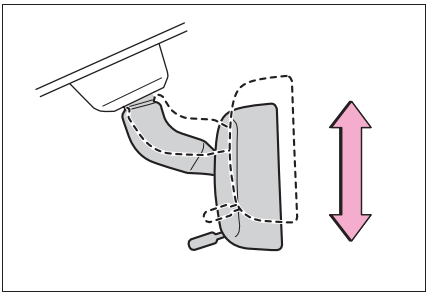
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

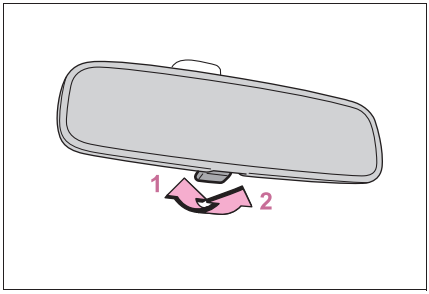
■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



1 通常使用時
2 防眩時

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

→P.328

警告

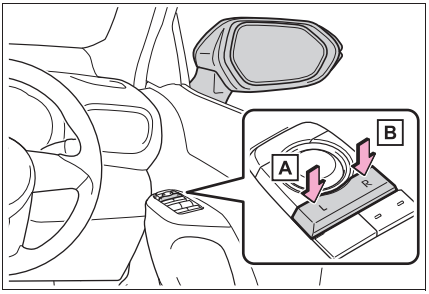
■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

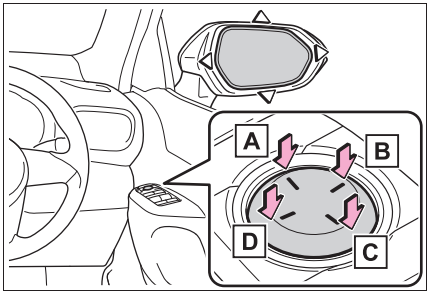
1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

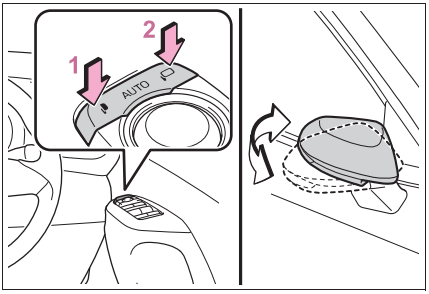
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.333）

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “AUTO” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

→P.328

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.462）

警告

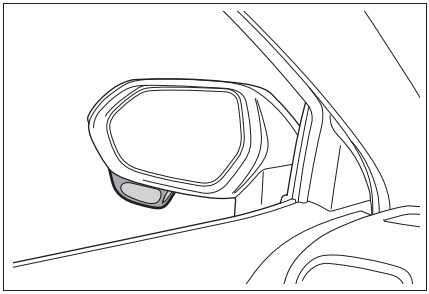
■ミラーが動いているとき

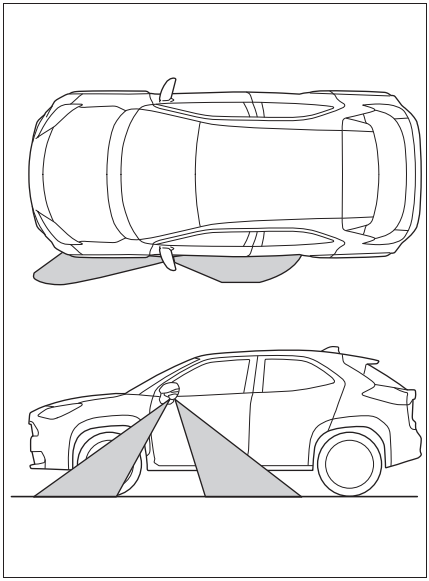
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。



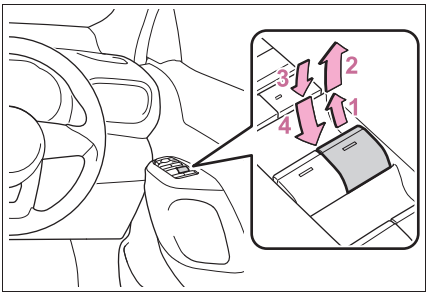


パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、ドアガラスを開閉することができます（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開

にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.442）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.114）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.81）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.466）

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.153）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

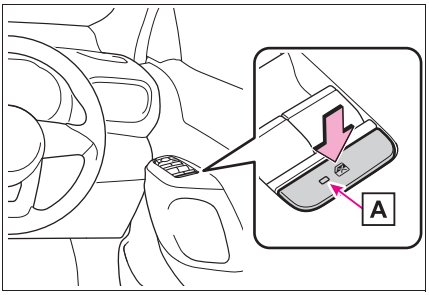
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Bluetooth デバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。
あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。
マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。
Bluetooth デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● Bluetooth デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を認識します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※一部の設定項目を除く

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 157
荷物を積むときの注意..... 164

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 166
EV ドライブモード..... 170
ハイブリッドトランスミッション 172
方向指示レバー 174
パーキングブレーキ..... 175
ブレーキホールド 179

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 181
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 186
AHB（オートマチックハイビーム）..... 189
フォグランプスイッチ..... 192
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 193
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 194

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 196

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）..... 198
Toyota Safety Sense..... 200
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 206
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 215
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 219
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 224
発進遅れ告知機能..... 229
RSA（ロードサインアシスト）231
レーダークルーズコントロール234
クルーズコントロール 242
ドライバー異常時対応システム245
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 247
安心降車アシスト..... 252
クリアランスソナー 256
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 265
RCD（リヤカメラディテクション）..... 270
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 273
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 278
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 281
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 283
トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 285

ドライブモードセレクトスイッチ 308
トレイルモード （AWD 車）... 309
スノーモード（AWD 車)..... 311
ダウンヒルアシストコントロールシステム（AWD 車）..... 311
運転を補助する装置..... 313
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 319

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 325
寒冷時の運転 327

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.166

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.172）

2 パーキングブレーキを解除する（→P.175）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.176）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P.172）

■ 駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.175）、シフトレバーを P にする（→P.172）

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

3 パワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止する

4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.175）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除し発進する（→P.175）

パーキングブレーキがオートモードのときは、アクセルペダルを踏むことにより自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.176）

知識

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要

です。（→P.325）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.94）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

警告

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.398 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.172)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

警告

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

警告

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

■万一脱輪したとき（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.419、432 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッド出力を抑制することがあります。

・ R に切りかえたとき ※
・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッド出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

● TRC の作動を停止（→P.314）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.314）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

・ トレイルモードを ON にしているとき（AWD 車）

● タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

● 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.462）

・ パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●ルーフレール★には直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こし思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレール★を使用するときは

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長・全幅）をこえる荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●荷物がバックドアやアンテナにあたらないことを確認してください。

警告

- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行・急加速・急旋回・急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、ときおり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 60kg 以上の荷物を積まないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.175）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す

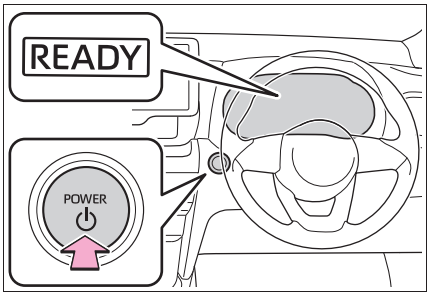
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

プラスサポートをご使用の方は、P.319 も併せて参照してください。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチが OFF のとき、電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯し、その後消灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.80）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチ

インフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.443 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.117）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いときは

●ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.73

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.444 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.108

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.131

■ご留意いただきたいこと

→P.132

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.413

■電子キーの電池交換

→P.381

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合や早く連続して押した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.442 を参照してください。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。
このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.175）、シフトレバーをPの位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“パワーON”の表示が消灯していることを確認する

警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

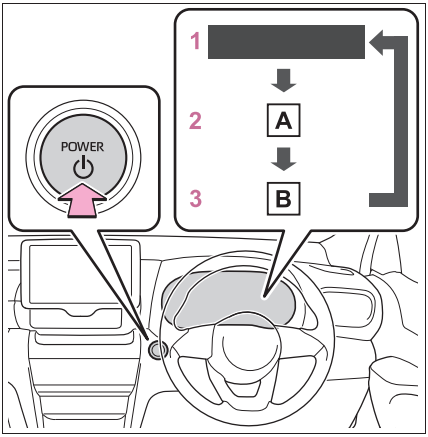
●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→P.398）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムの緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



A “アクセサリー”

B “パワー ON”

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.466）

知識

■ACC カスタマイズが “OFF” のとき

パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC か ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”または“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチが ON のままとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

EV ドライブモード

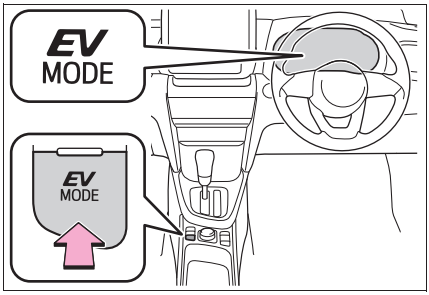
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時

間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.104）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.104）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードに現在切りかえできません” と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EV モードが解除されました” と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

ハイブリッドトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P.308）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.162

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

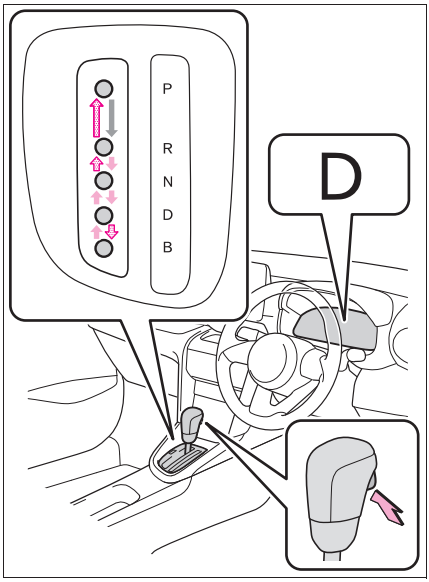
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



⬅：パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

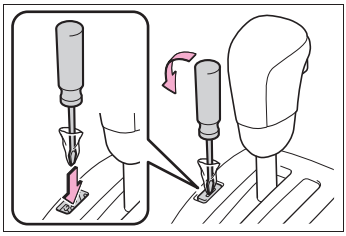
■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

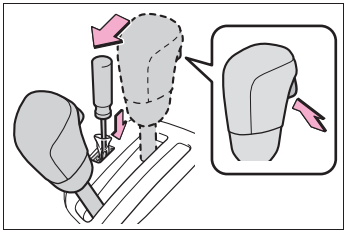
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける
2 パワースイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

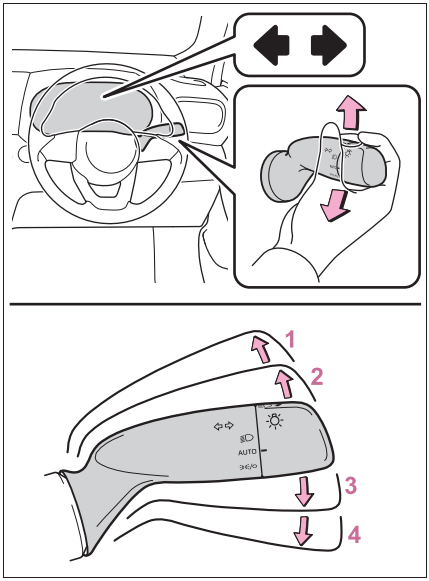
走行モードの選択

→P.308

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

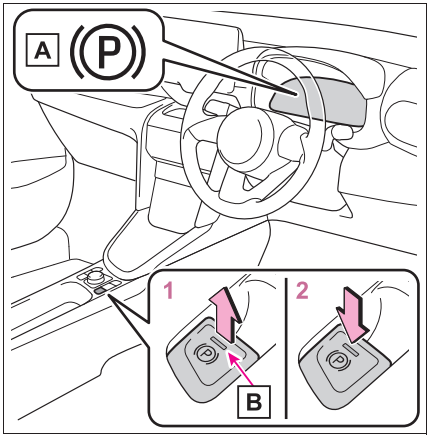
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。
また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

B パーキングブレーキスイッチランプ

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキを

かける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。
（→P.176）

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→P.406）

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

● シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが消灯します。

● シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキスイッチランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。
（→P.175）

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが

自動的に解除されます。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席ドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●シフトレバーがPもしくはN以外の位置にある（アドバンストパーク作動中はシフトレバー位置が P レンジ以外）

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください ” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました ” または “EPB 現在使用できません ” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.157

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています ” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.406

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.328

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.444）

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

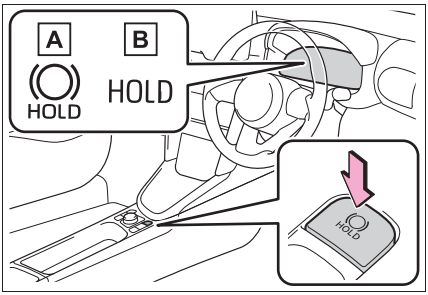
ブレーキホールド

シフトレバーがD・BまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 B（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB動作が途中で停止しました”や“EPB故障　販売店で点検してください”が、表示されている
- パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチをOFFにしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態で

アクセルペダルを踏む

● ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.175）

■ **トヨタ販売店で点検が必要なとき**

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検” または “BrakeHold 故障 販売店で点検してください” と表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ **ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合**

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● “ブレーキホールド作動不可”

ダウンヒルアシストコントロールシステム★が作動中に、ブレーキホールドスイッチを押した場合

● “ブレーキホールド現在使用不可”

ブレーキホールドシステムが作動中に、DAC スイッチ★を操作した場合

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステム★と同時に作動させることができません。

ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは**

→P.411

警告

■ **急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ **すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■ **駐車するとき**

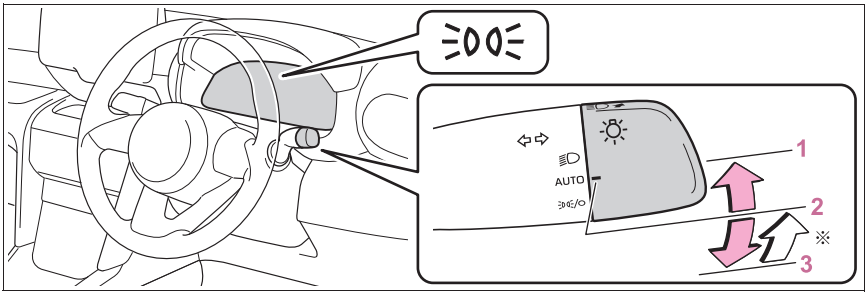
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO※1	LED デイタイムランニングランプ（→P.182）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 /O※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

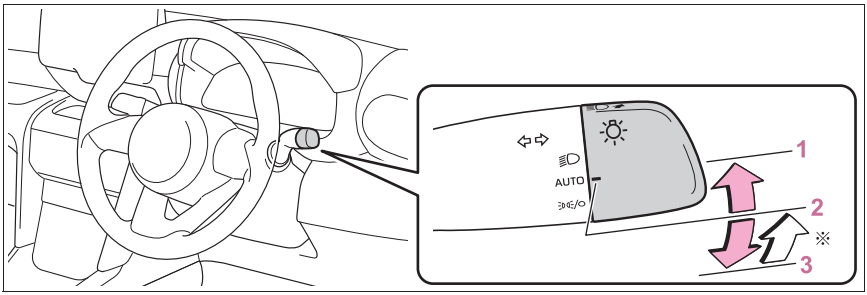
※1 操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 /Oによる点灯状態が切りかわります。

※2 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 /O の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 /O の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 /O	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイタイムランニングランプ（→P.182）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■LED デイタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。

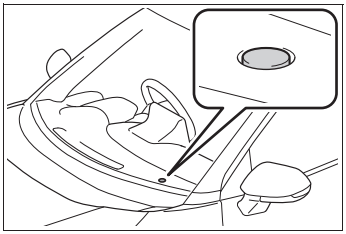
LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にすると自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからDOE/Oまたは

EDの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ドアを解錠するとき（おむかえ照明機能）（LED タイプヘッドランプ装着車）

ランプスイッチがAUTOの位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

ランプスイッチの消灯操作をした場合は、おむかえ照明機能が作動しないことがあります。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能 ※

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはバックドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

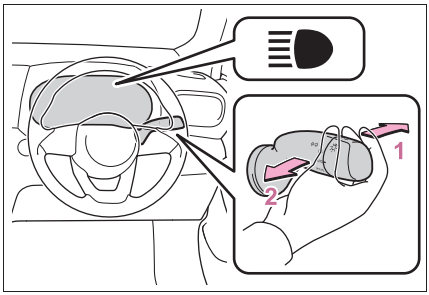
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.466）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

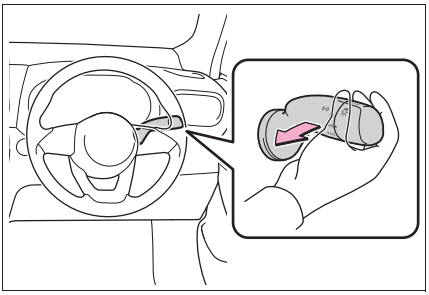
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

ヘッドランプ点灯延長機能

パワースイッチが OFF の状態で、ヘッドランプを 30 秒間点灯させることができます。

パワースイッチを OFF にしたあと、ランプスイッチが AUTO の位置で、レバーを手前に引いて離します。



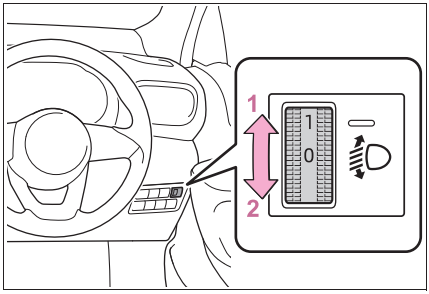
以下の操作でヘッドランプが消灯します。

- パワースイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ランプスイッチを再度手前に引いて離したとき

手動光軸調整ダイヤル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ FF 車かつハロゲンヘッドランプ装着車 ※1

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4

▶ FF 車かつハロゲンヘッドランプ装着車 ※2

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	4

▶ AWD車かつハロゲンヘッドランプ装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	3

▶ FF車かつLEDヘッドランプ装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0.5
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5

▶ AWD 車かつ LED ヘッドランプ装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

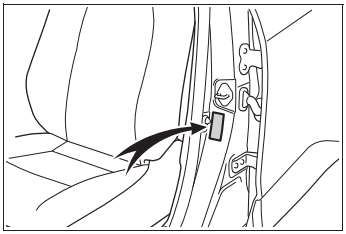
※1 車両型式 MXPJ10-BHXRB, MXPJ10-BHXKB

※2 車両型式 MXPJ10-BHXNB

知識

■車両型式について

車両型式は、助手席側のラベルで確認することができます。



AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

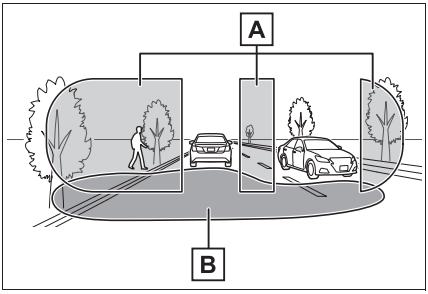
システムの制御

● 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

● カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

● 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



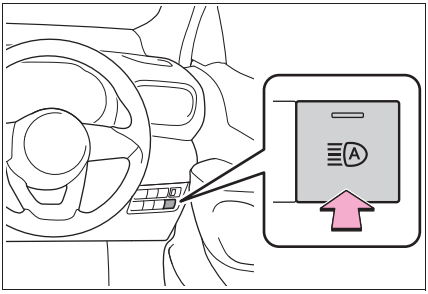
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

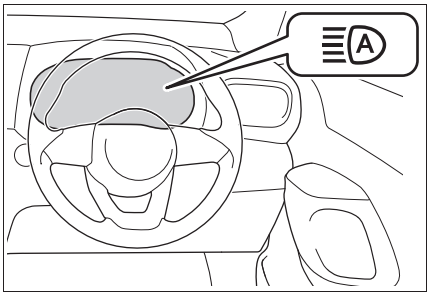
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき

・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.200
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.467）

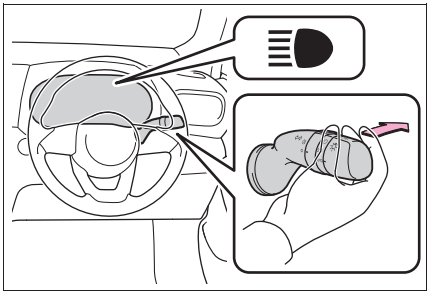
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



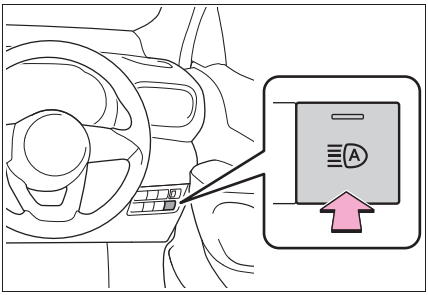
■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯

が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

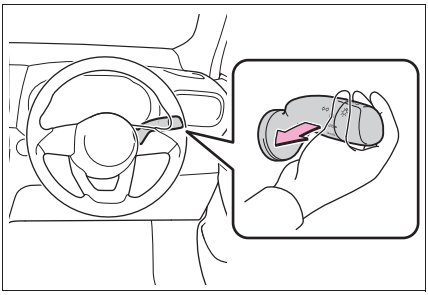


■ 一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

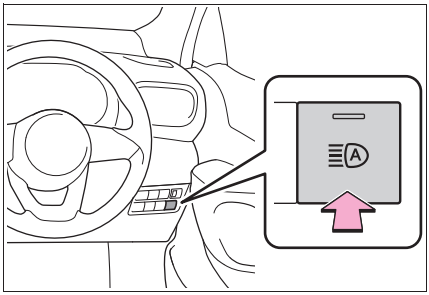
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

オートマチックハイビームを使うには

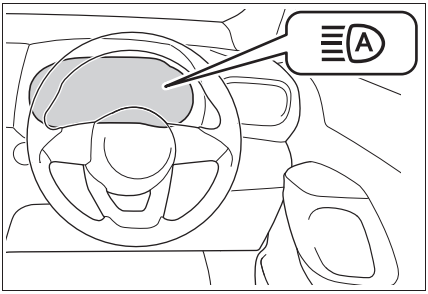
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸が

ずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.200
・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

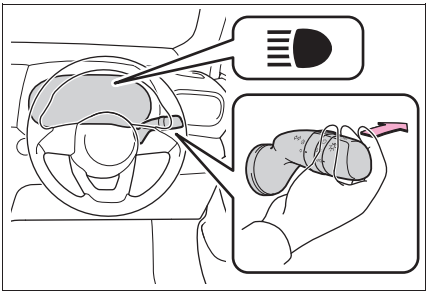
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

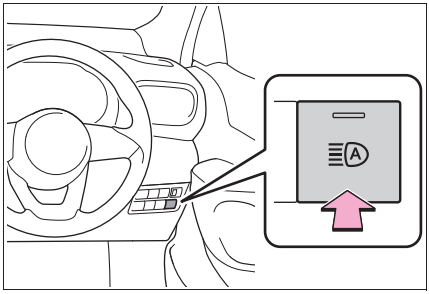


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

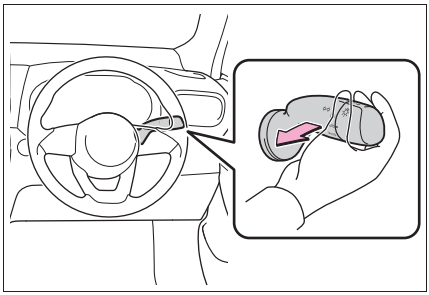


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



フォグランプスイッチ★

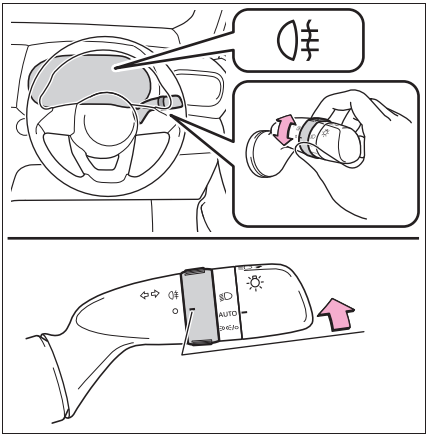
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ○ の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

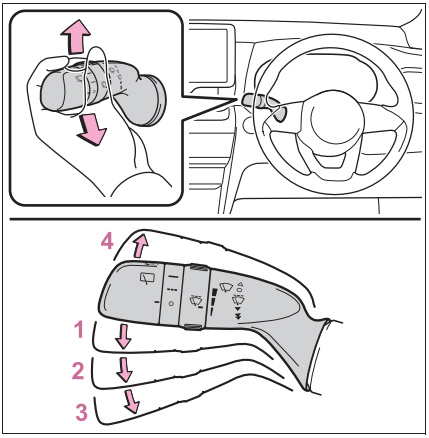
⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



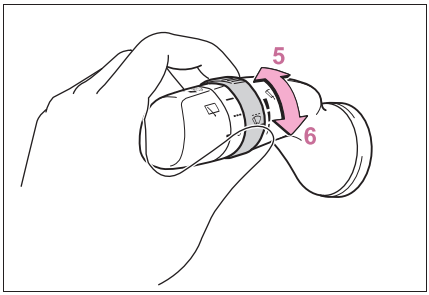
1 間欠作動

2 ▼ 低速作動

3 ▼▼ 高速作動

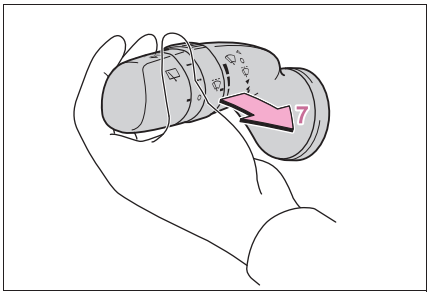
4 △ 一時作動

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。（間欠時間調節式ワイパー装着車）



5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 間欠ワイパーの作動頻度（減）



7 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■**車速による作動への影響**

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

●ワイパーを 1 回のみ作動

●フロントウインドウガラス洗浄用のウォッシャー液を出す（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

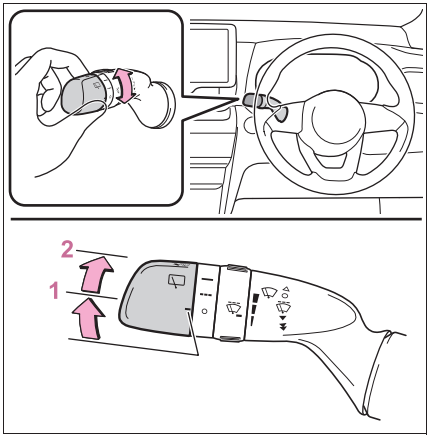
注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

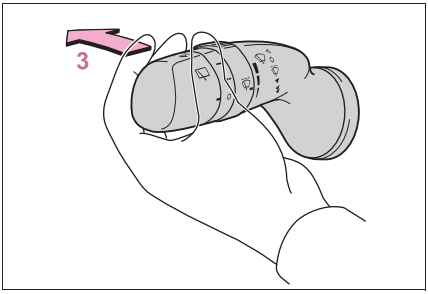
操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ▪▪▪間欠作動

2 ▬▬通常作動



3 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R に入れるとリヤワイパーが 1 回作動します。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.467）

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

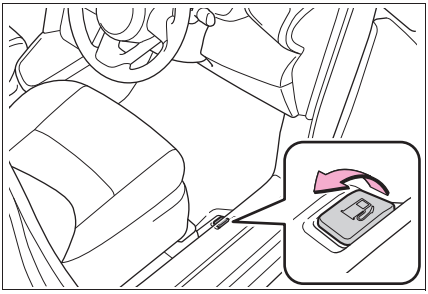
●塗装が損傷する

⚠注意

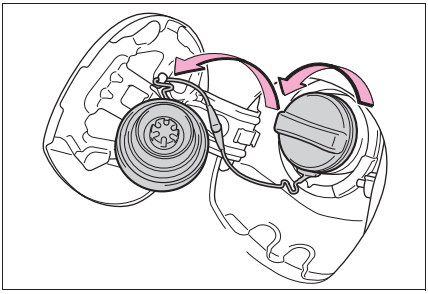
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口を開けるには

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



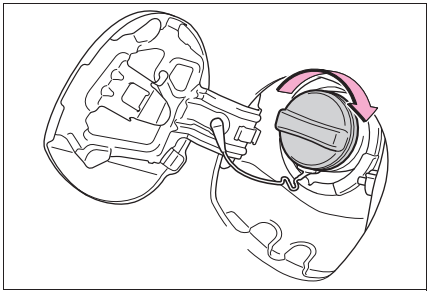
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する（Toyota Safety Sense 設定車）

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

●Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.2 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

納車後にソフトウェア更新がされた場合は、ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

●お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。

●T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

納車後にソフトウェア更新をされた場合には、システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

1 メインメニューの ⁞⁞ にタッチします。

2 “運転支援アップデート” にタッチします。

■ 自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法を読む

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

https://manual.toyota.jp/safetysu/

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する

知識

■デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ソフトウェアアップデートについて留意事項

●一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

●通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

●ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

●次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

・システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※

・法規上の問題が発生したとき ※

・取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

●ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示

●ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

警告

●事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.186

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHB（オートマチックハイビーム）★

→P.189

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.206

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.215

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.219

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

→P.224

■ 発進遅れ告知機能

→P.229

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.231

■ レーダークルーズコントロール

→P.234

■ クルーズコントロール

→P.242

■ ドライバー異常時対応システム

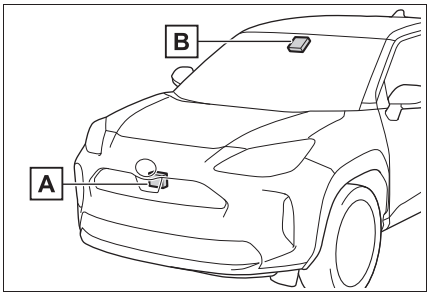
→P.245

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

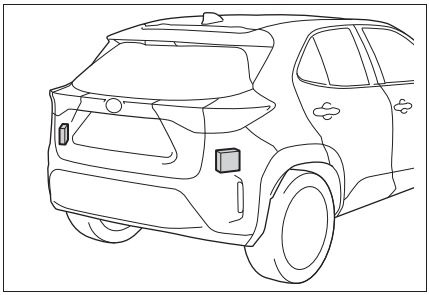
▶ フロント



A 前方レーダー

B 前方カメラ

▶ リヤ（後側方レーダー）★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

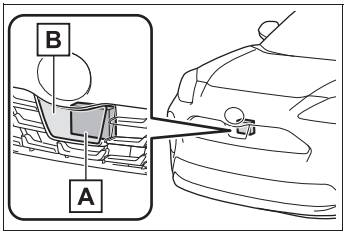
■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダーを脱着や交換したとき

・フロントバンパー・フロントグリルを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

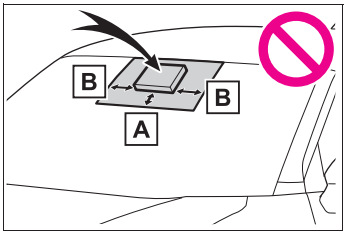
・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

■センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥・雨滴・雪・虫・ゴミなどが付着したとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光・反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

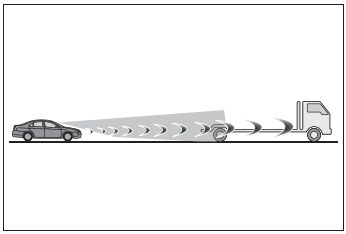
●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・トラス橋
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

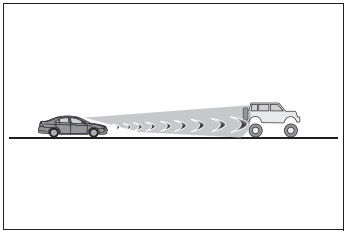
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ・ステアリング等の関連システムに異常を検出したとき

●VSC・TRC 等の安全システムが作動したとき

●VSC･TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.206）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.214）

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→P.200

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車 ※

● 歩行者

● 自動二輪車 ※

● 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

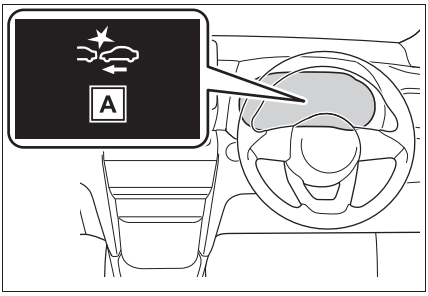
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

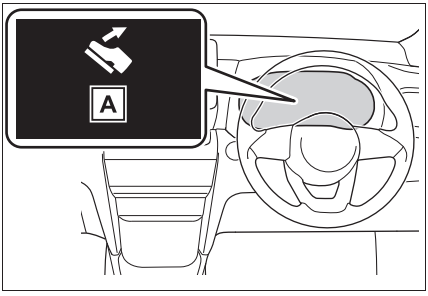
避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。



A “プリクラッシュセーフティ”

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A “アクセルが踏まれています”

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

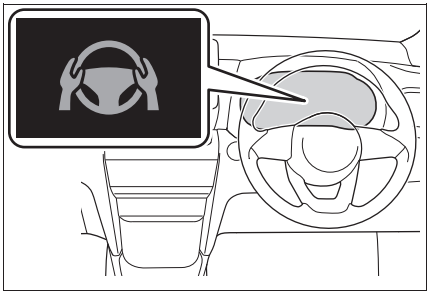
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。
作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

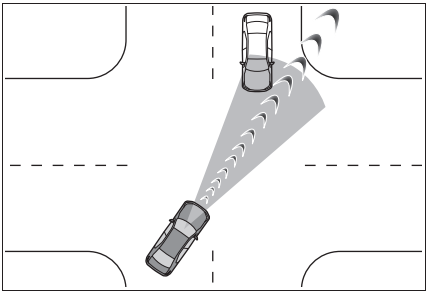


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

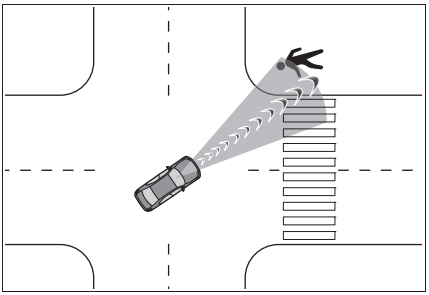
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路

を横切るとき

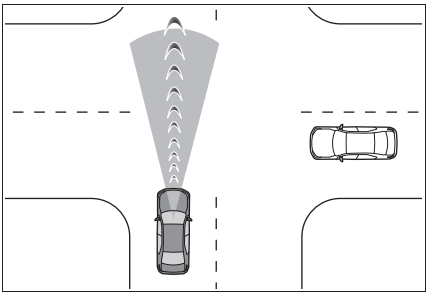


● 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



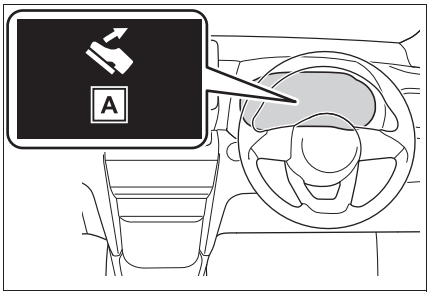
■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ **低速時加速抑制**

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



A “アクセルが踏まれています”

警告

■ **プリクラッシュブレーキについて**

● プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

● プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。

警告

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～180km/h	約 10～180 km/h
自転車	約 30 ～80 km/h	約 30 ～80 km/h
歩行者	約 30 ～80 km/h	約 30 ～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～180 km/h	約 10 ～80 km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h

作動対象	自車速度	相対速度
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約40～80 km/h	約40～80 km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・アクセルペダルを強く踏み込む

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h
歩行者	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 40 km/h
自転車	約 5 ～ 30 km/h	—	約 5 ～ 50 km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h

●交差点衝突回避支援 (出合頭車両)

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 km/h	･自車速度以下 ･約 40km/h 以下	約 5 ～ 60 km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約０～15ｋｍ/ｈ	約０～15ｋｍ/ｈ

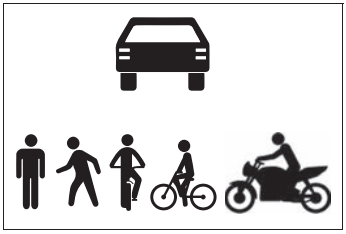
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・アクセルペダルを離す

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

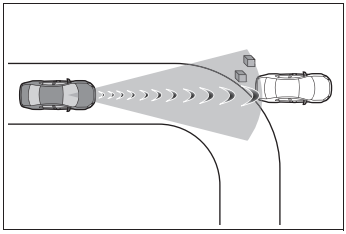
・作動対象などのすぐそばを通過するとき

・車線を変更して作動対象などを追いこすとき

・作動対象などに急接近したとき

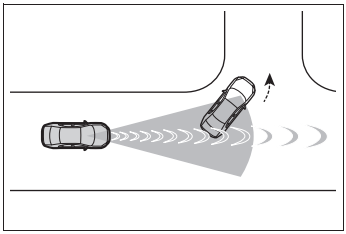
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき

・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

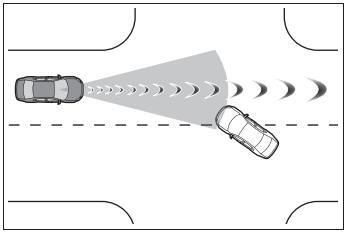


・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



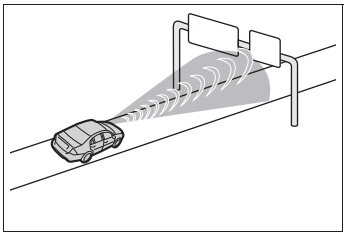
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



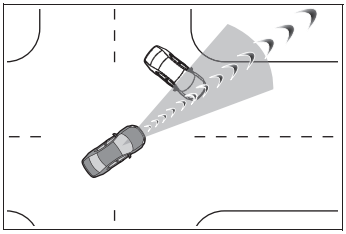
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき

・道路上方に物体（道路標識や看板など）

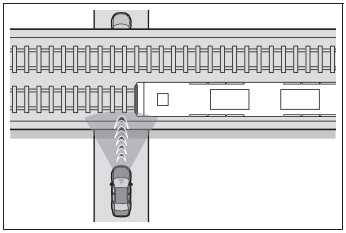
がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車・対向二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車・対向二輪車・横断歩行者・横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車・対向二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



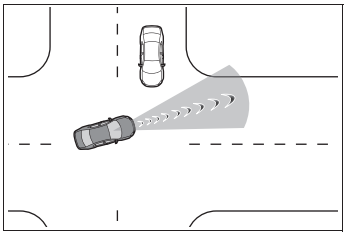
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路上方・下方を移動するものがあるとき



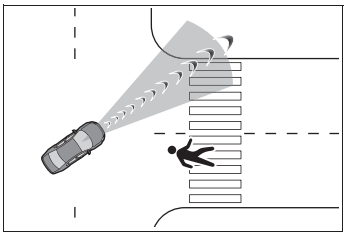
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき (急ハンドル・急加速・急減速など)
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき

・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック・牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.462）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。（→P.462）

● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

● レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が “早い” のタイミングで作動します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車・周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

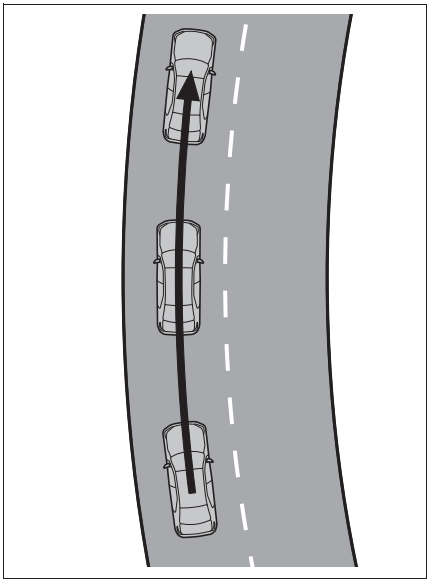
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車・周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

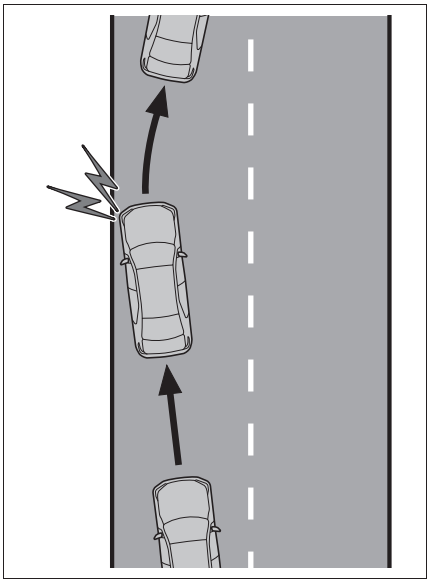
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■機能の作動条件

●次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・システムが車線を認識しているとき、または先行車・周辺車の軌跡を認識しているとき
・レーダークルーズコントロールが作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.216）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.216）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

●LDA の警報手段をハンドル振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

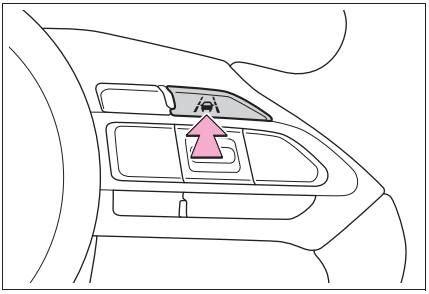
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

システムの ON/OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

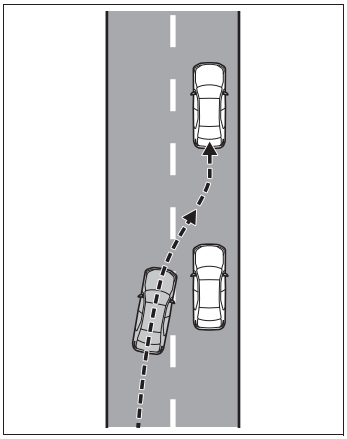


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車・周辺車が車線変更したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



●先行車・周辺車がふらついたとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車・周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

●先行車・周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車・周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）

●横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

警告

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.205
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色 / 白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

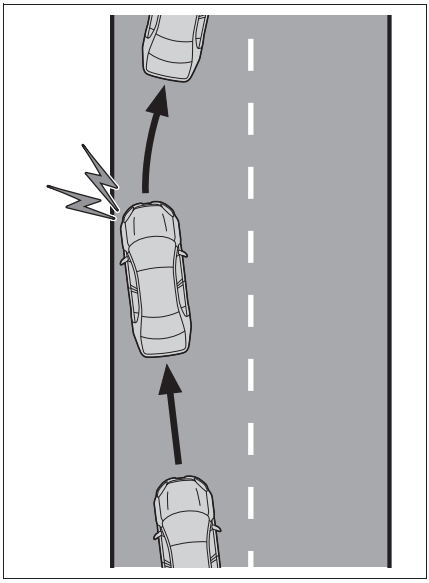
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



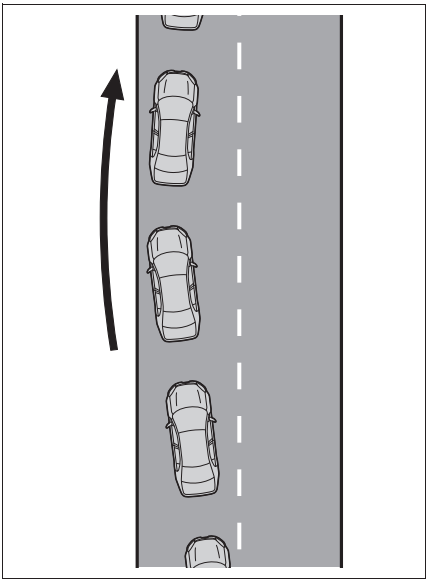
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

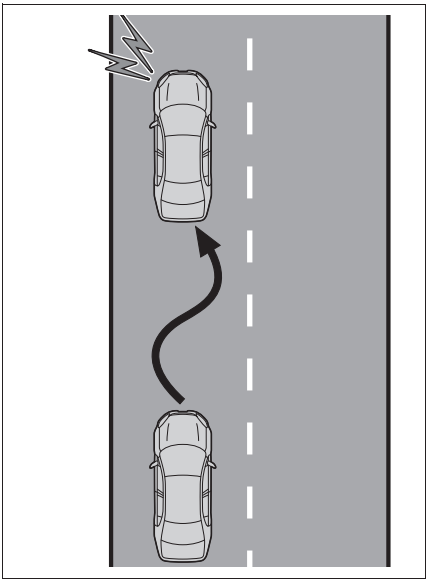
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



警告

■LDA をお使いになる前に

●LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にした時）
・システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ VSC または TRC を OFF にしていない

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.220）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

●車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

●カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

●意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

LDA の設定を変更する

● LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.462）

● カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。（→P.462）

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.205
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.205
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
OFF 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している
黄色点滅	黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
黄色点滅	黄色点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.225）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

●プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。
必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.226）

●プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

●わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

●センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト（OAA）	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
		ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

●先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

●カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

●信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。
・レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・PCS が OFF のとき
・システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.205
・シフトポジションが P、R または N のとき
・運転席シートベルトを着用していない

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
・車速が約 15km/h 以下のとき
・周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。
・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.205

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁・柵・ポール・工事用コーン・ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道・轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換・急加速・急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

●作動対象が複数重なっているとき

●作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

●作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

警告

- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、 作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

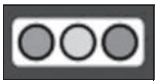
プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動 / 非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.462）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.462）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
 	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	●道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ●操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●道路を横断する作動対象に対する支援

または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停止中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正

しく認識できないとき

- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や、看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON/OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
（→P.462）

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。（→P.462）

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム※（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

※ マルチメディアディスプレイ装着車

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204

ディスプレイ表示機能

● 前方カメラまたはナビゲーションシステム※（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

※ マルチメディアディスプレイ装着車

知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

●一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

●運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき

●システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

●側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●ナビゲーションシステム※の地図情報が古いとき

●ナビゲーションシステム※を利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

※ マルチメディアディスプレイ装着車

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

● 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■告知機能の作動条件

●速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。
・ 最高速度を表示しているとき

●車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき

・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・停止線に対し信号機が遠くにあるとき
・交差点間の距離が近いとき

●表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.462)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.239

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

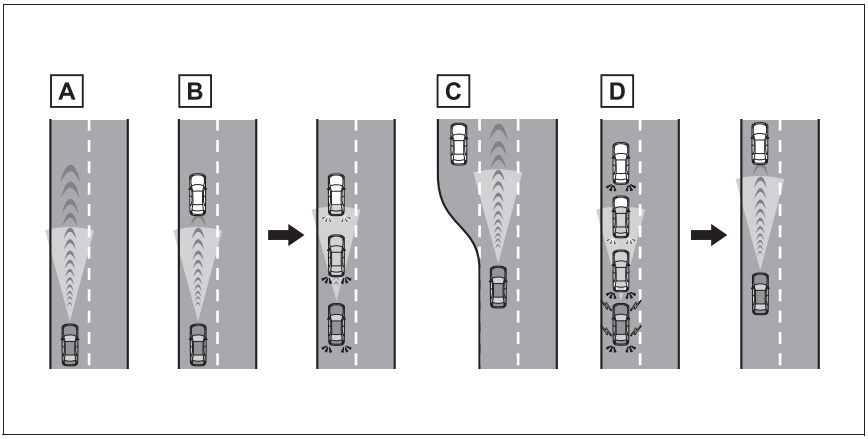
警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.204
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

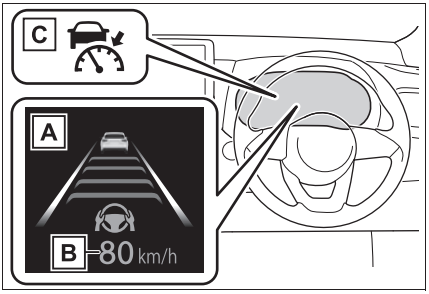
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

システムの構成部品

■ メーター表示

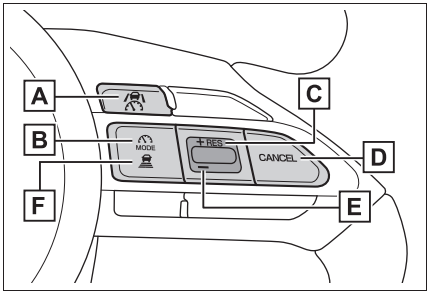


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-” スイッチ

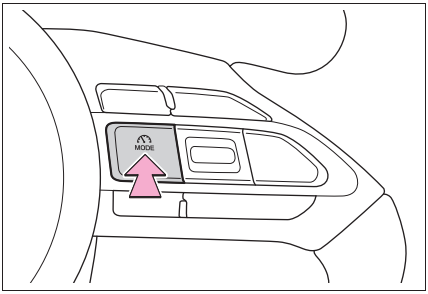
F 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダクルーズコントロールを選択します。

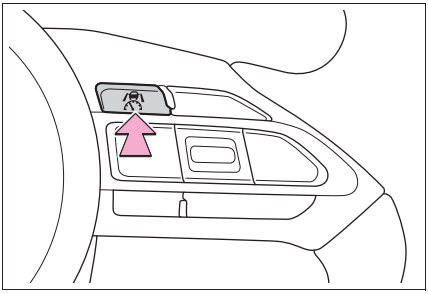
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

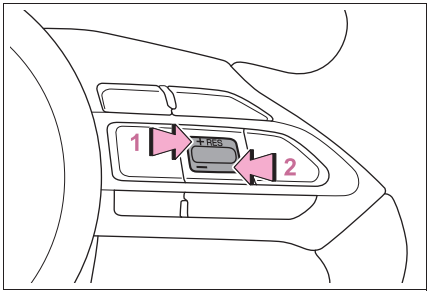
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作をするごとに 1km/h

長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

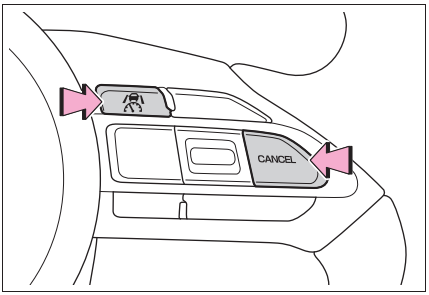
2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを

踏んでも解除されません）

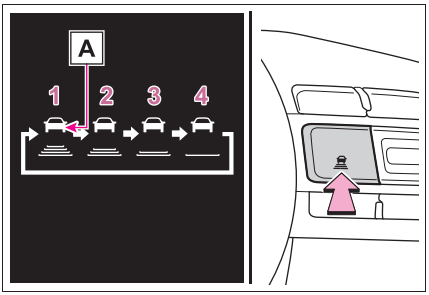


2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
・車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。
・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●走行中に運転席シートベルトを着用していないとき

●プリクラッシュセーフティが OFF のとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない

・ 運転席ドアが開いた
・ 車両が停止したあと約 3 分経過した

自動でパーキングブレーキがかかることがあります。

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.205

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.200

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.239）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

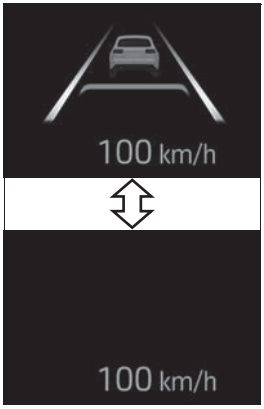
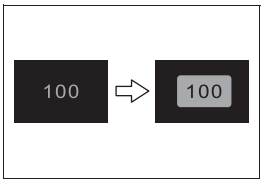
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.462)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中
緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

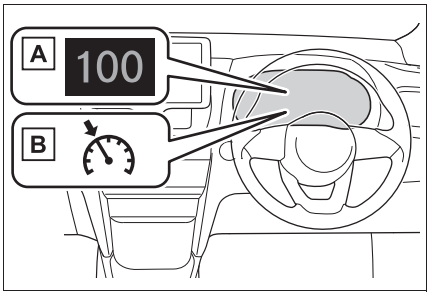
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.200

システムの構成部品

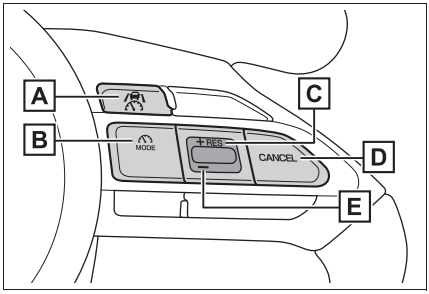
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援スイッチ

B 走行支援モード選択スイッチ

C “+” スイッチ、“RES” スイッチ

D キャンセルスイッチ

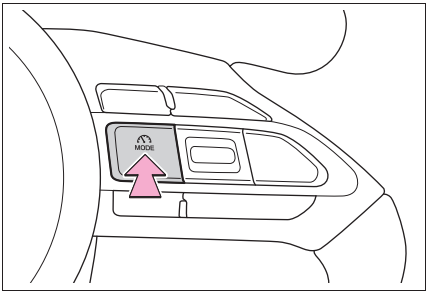
E “-” スイッチ

クルーズコントロールを使用する

■ 速度を設定する

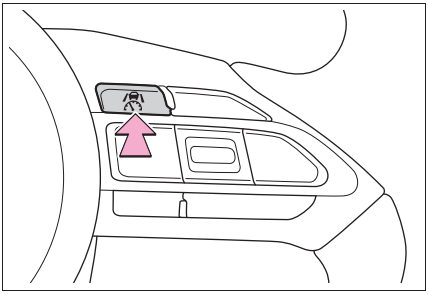
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

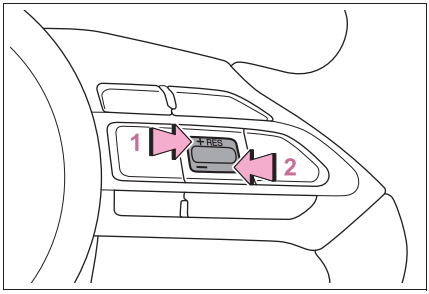
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+” スイッチまたは “-” スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

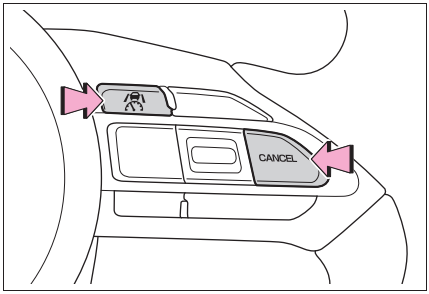
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “+” スイッチを押す

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

知識

■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.205

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーション		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色	100 km/h	設定速度：緑色	定速走行
緑色	100 ⇨ 100	設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは４つの状態に分けられます。「警告１フェーズ」、「警告２フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

●LTA を ON にしているとき

●自車速が約 50km/h 以上

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）

●レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき

●ドライバー操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）

●自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき

●停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき

●パワースイッチをONからOFFにしたとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.205

■作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート (消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊

急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

●LTA

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

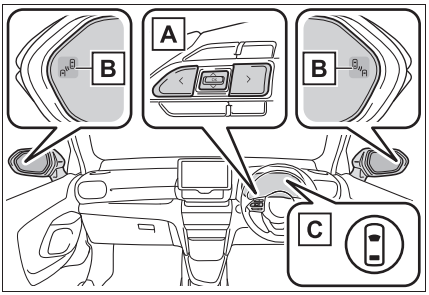
警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.85）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.470）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

警告

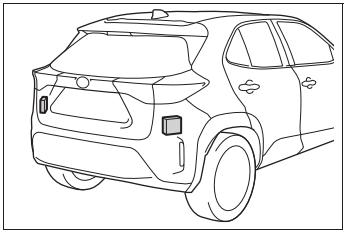
■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.251）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.470）

ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.85）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

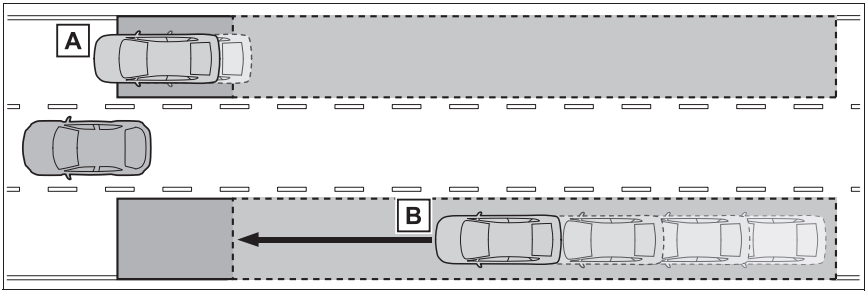
パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を

走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

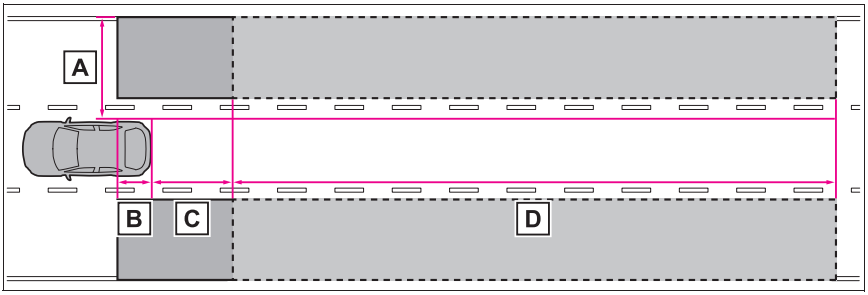


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ **走行中に検知できる範囲**

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細についてはP.219 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●ブラインドスポットモニターがONのとき

●シフトレバーが R 以外のとき

●車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき

●小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

●大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

・けん引しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

安心降車アシスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

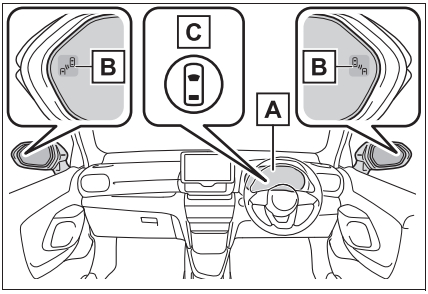
警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.85）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.470）

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.248

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.470）

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

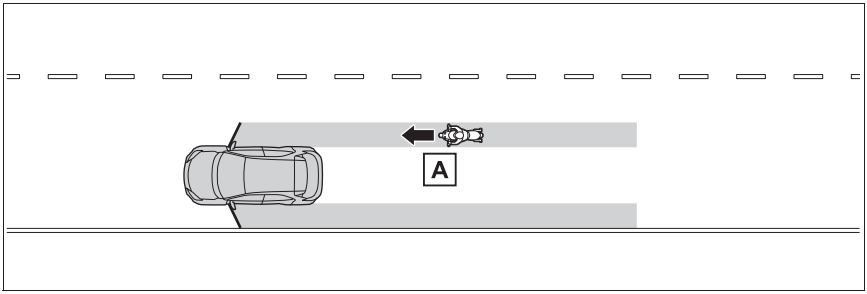
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

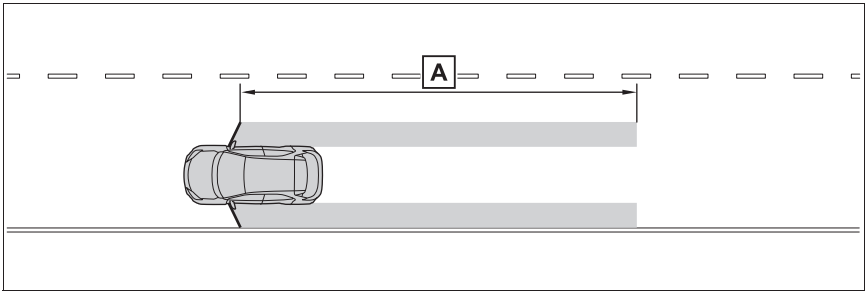
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

●安心降車アシストが ON のとき

●停車中

●シフトレバーが R 以外のとき

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■システムが車両を検知しない条件

●安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。

・接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※
・ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車 ※
・真うしろから接近する車両・自転車 ※
・前方から接近する車両・自転車 ※
・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
・歩行者・動物など ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

・ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・発進した直後の車両や自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき

・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

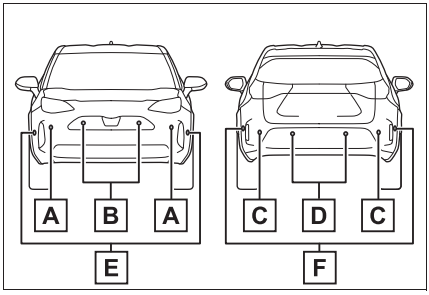
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面★の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

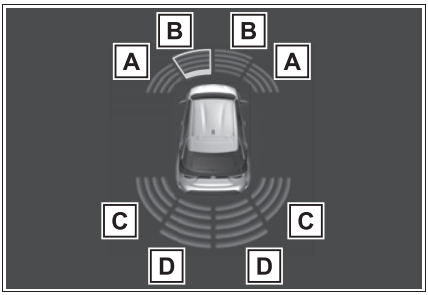
F リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ クリアランスソナーの表示のしかた

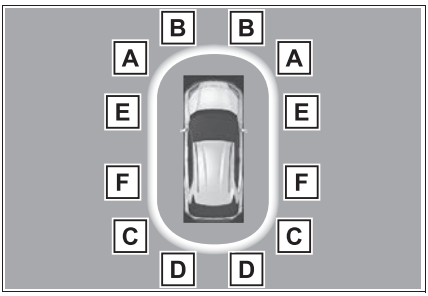
壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、またはマルチメディア画面に表示されます。

マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、静止物を検知しているときに、クリアランスソナー検知表示灯が点灯します（→P.85）

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



▶ マルチメディア画面★の表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

E フロントサイドセンサー作動表示（アドバンストパーク装着車）

F リヤサイドセンサー作動表示（アドバンストパーク装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.470）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.85）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.470）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ただし、マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

またこのとき、クリアランスソナー機能の ON/OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき
- マルチメディアまたはリヤカメラ非装着車は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれが

あります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メータ故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

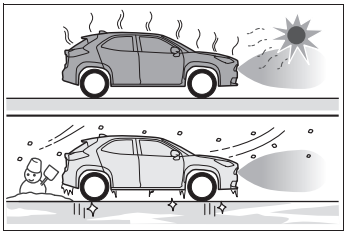
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき (ノーズアップ・ノーズダウンなど)

●事故や故障で自車の走行が不安定なと

き

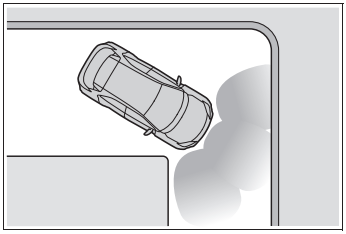
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

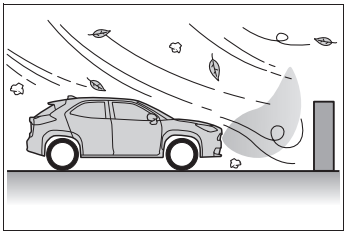
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

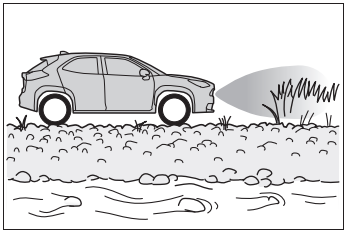
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱 (H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



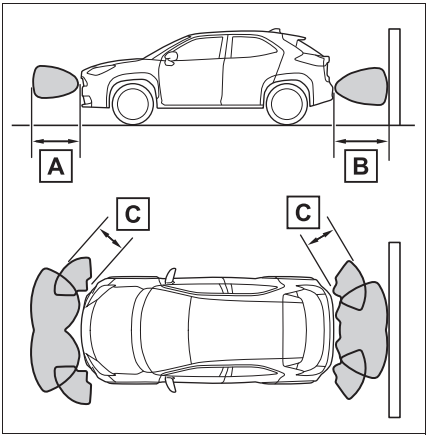
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車



A 約 100cm

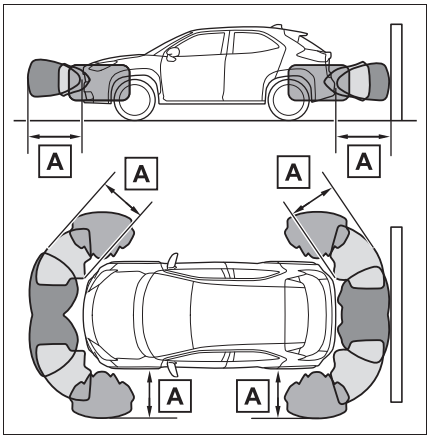
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.262）

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
サイドセンサー以外： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
サイドセンサー以外： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.262）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.470）

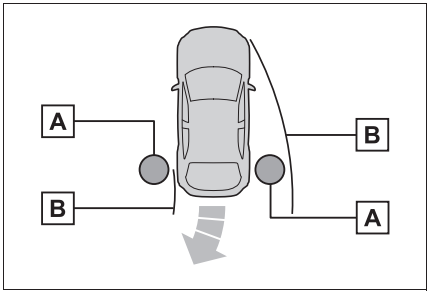
■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

●次の時、自動でミュート（消音）が解

除されます。
・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が一定値以上になったとき
・センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
・使用中の機能を OFF にしたとき
・パワースイッチを OFF にしたとき



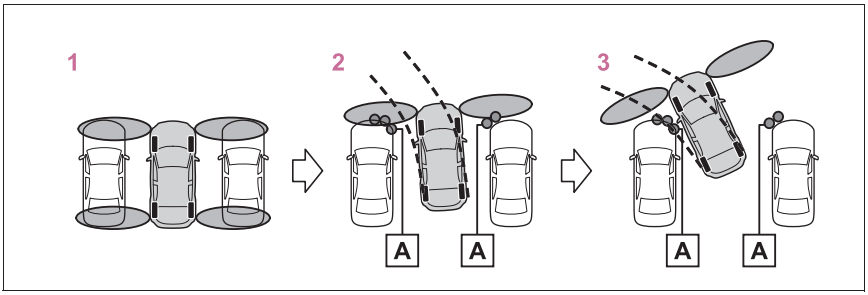
A 静止物

B 計算した車両経路

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

●VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき

●フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチをONにしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

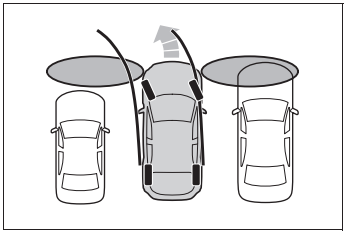
警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合

●ドアミラーが閉じられているとき

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

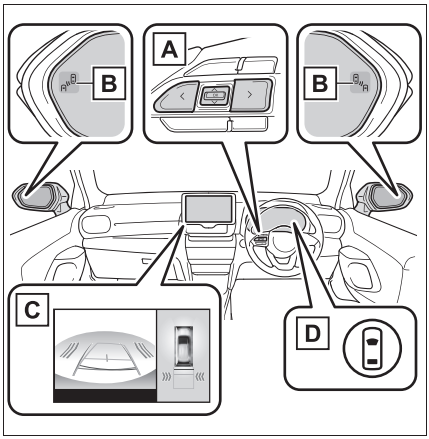
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.248

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.85）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.266）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.470）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報灯（→P.85）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

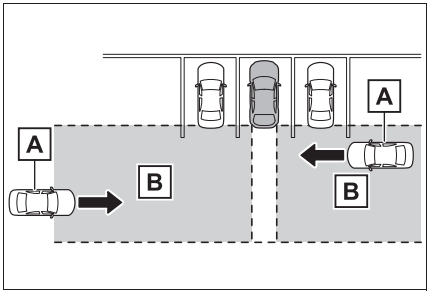
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.248

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



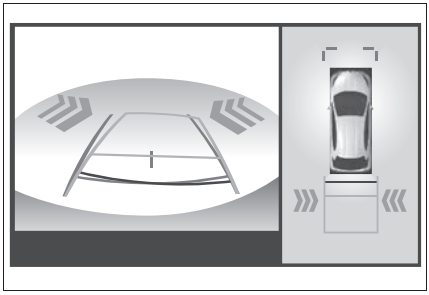
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

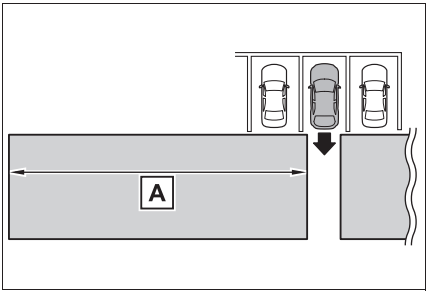
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切り換えることができます。(→P.470)

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

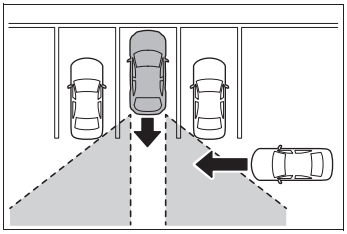
■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

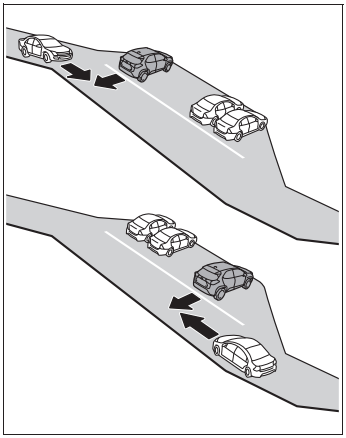
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

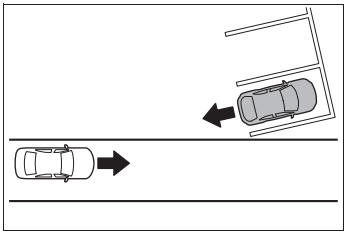
●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき

●けん引しているとき

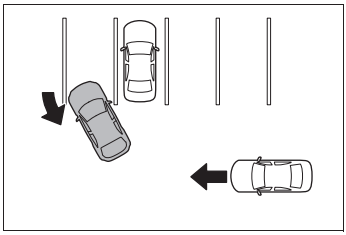
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

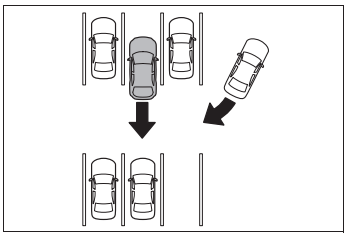
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



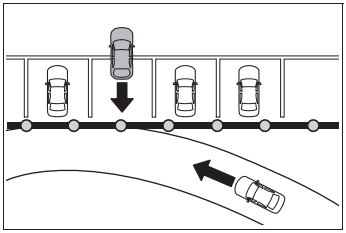
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



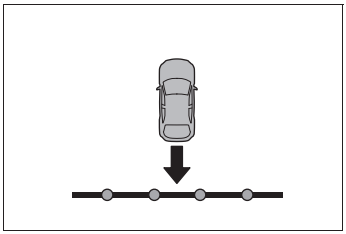
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

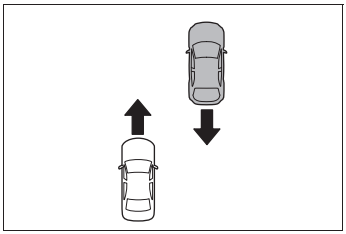


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

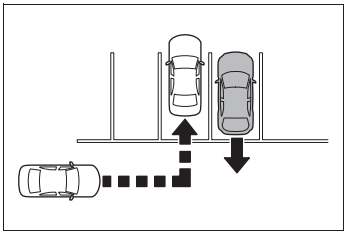


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

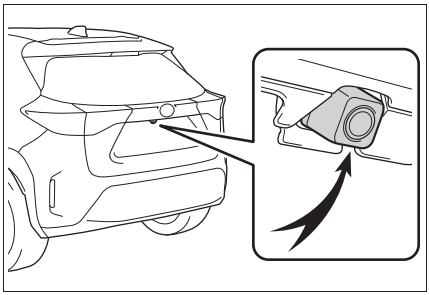
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

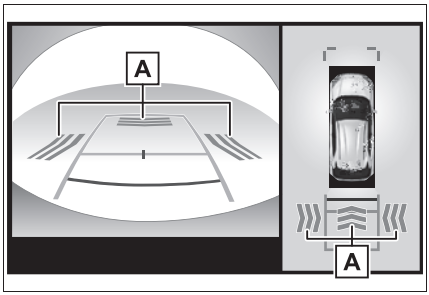
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

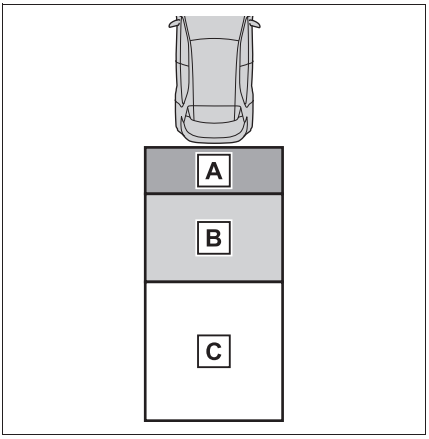
RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.471）

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.85）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.471）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不

可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・けん引しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の電波部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤

等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

● パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）→P.278

● パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★ →P.281

● パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★ →P.283

● パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）→P.278

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの

ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.471）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.85）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.471）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面★およびマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア表示（パノラミックビューモニター装着車、RCD 機能付きバックガイドモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア表示（パノラミックビューモニター装着車、RCD 機能付きバックガイドモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア表示（パノラミックビューモニター装着車、RCD 機

能付きバックガイドモニター装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

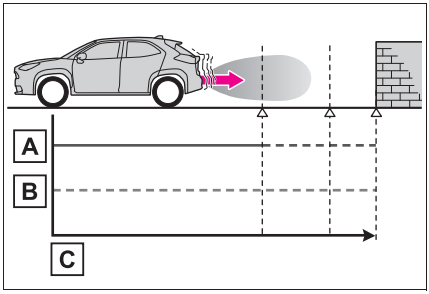
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム 出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

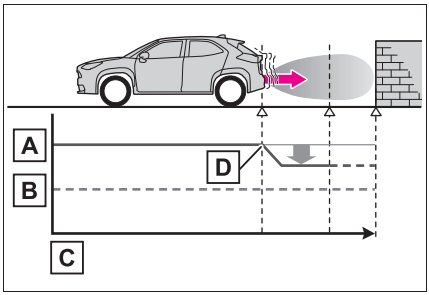


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



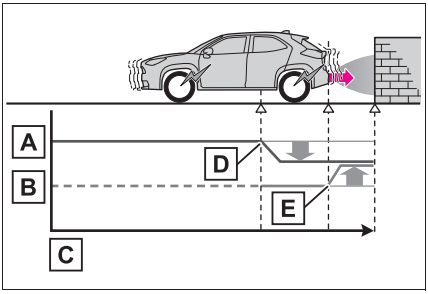
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.85）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.257）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.274）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）

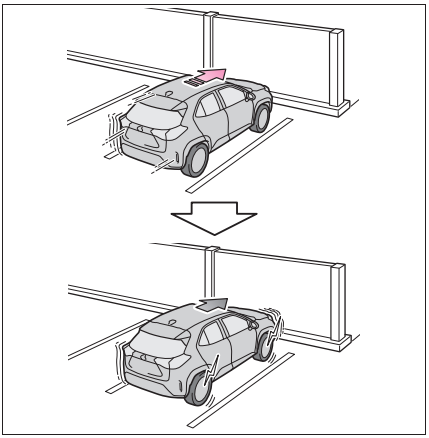
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

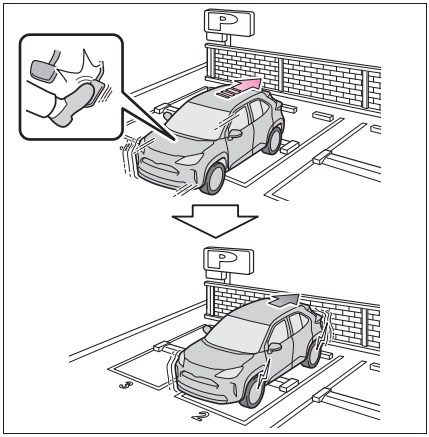
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

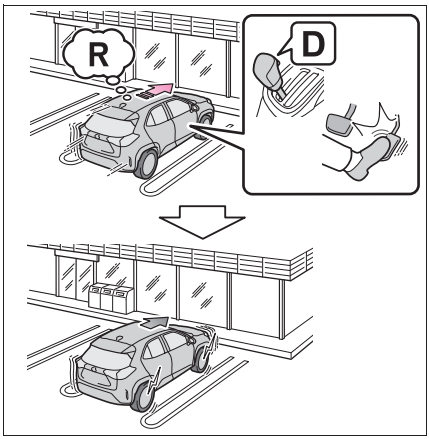
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ **アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき**



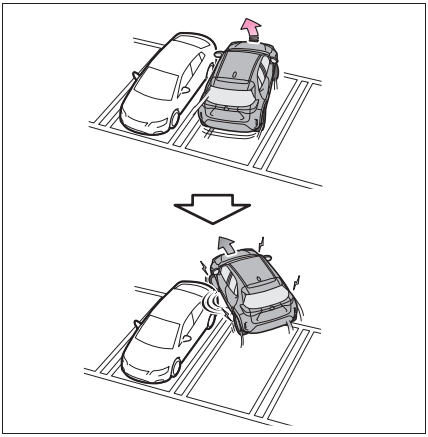
■ **誤ってシフトポジションをＤにして前進してしまったとき**



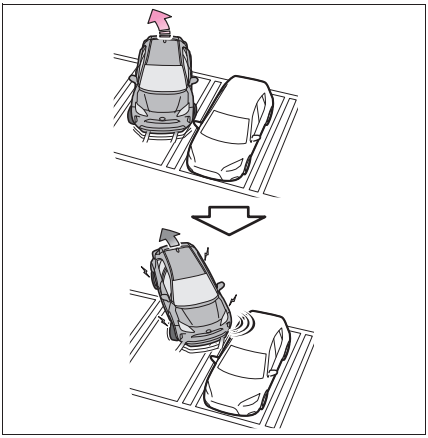
システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.256

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.258

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.277

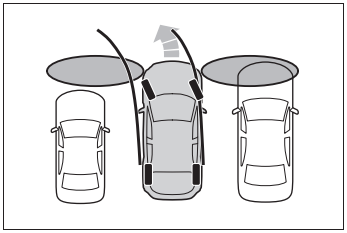
■洗車時の注意

→P.258

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて（アドバンストパーク装着車）

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合

●ドアミラーが閉じられているとき

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.84, 85）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が 7m 前進するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が 7m 前進するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.261）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.259

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.260

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件（→P.280）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しない恐れがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せする場合（→P.296）

■サイドエリアの静止物の検知について（アドバンストパーク装着車）

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

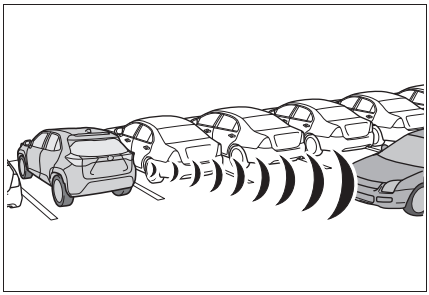
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.248

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.248

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.84, 85）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.268

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.269

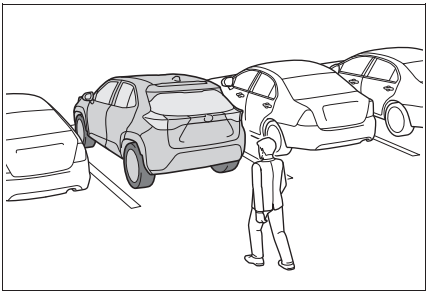
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

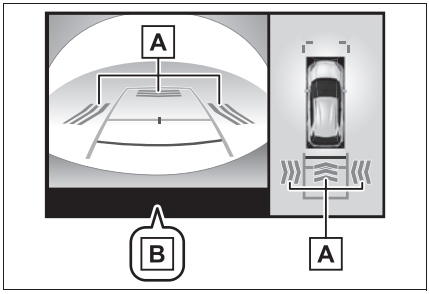
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！“

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.270

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.84, 85）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいるとき
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断し

たとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.277

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.271）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.272

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.272

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。（シフトチェンジ操作は運転者が行ってください。）また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.292）

■ 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.294）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.296）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.299）

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.301）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

警告

●駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●次のようなもの・場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

・細いもの（針金・フェンス・ロープ・ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板・自転車など）

・音波を吸収しやすいもの（綿・雪など）

・鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）

・背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）

・背が高く上部が張り出しているもの（梁など）

・地面に対し垂直でないもの

・障害物に対して斜めに接近する場合

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

警告

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地・砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜・段差・穴・側溝のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨の場合

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

警告

・けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

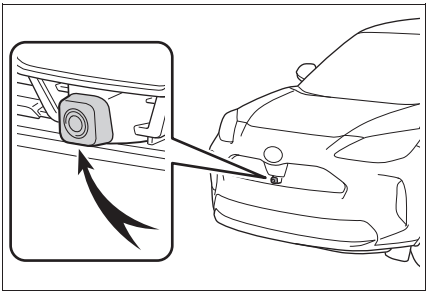
■アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください

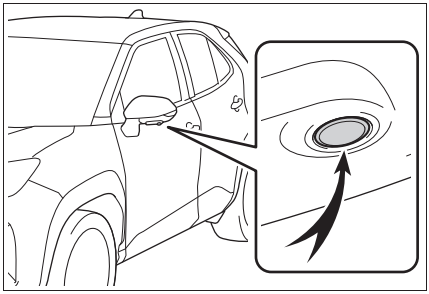
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

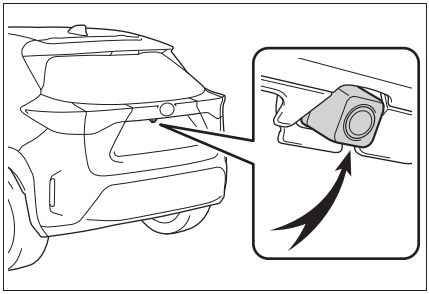
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.256

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できな

いことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■センサーの検知について

→P.258

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.259

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.259

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.260

警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。）

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.258）

警告

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

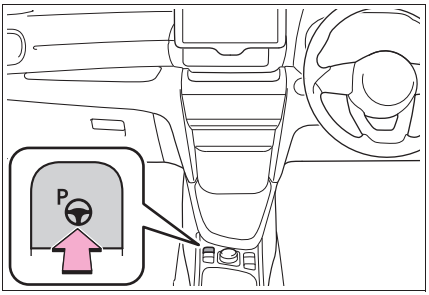
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークの ON/OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

●ブレーキペダルを踏んでいる

●停車している

●運転席シートベルトを着用している

●ハンドルを操作していない

●アクセルペダルを踏んでいない

●ドアおよびバックドアが閉まっている

●ドアミラーが格納されていない

●パーキングブレーキがかかっていない

●レーダークルーズコントロールが作動していない

●ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない

●急勾配でない

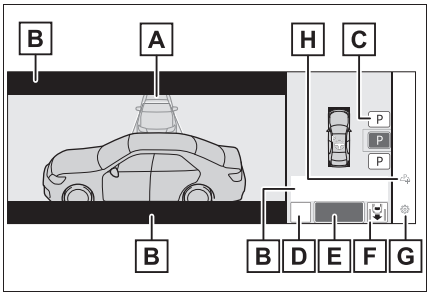
●TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。（→P.307）

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変

更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

：並列前向き・バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能／縦列駐車機能の切りかえます。（→P.303）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

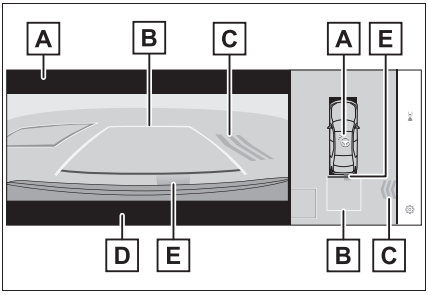
G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。（→P.306）

H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！” と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.257

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.257）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある静止物または障害物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

●ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

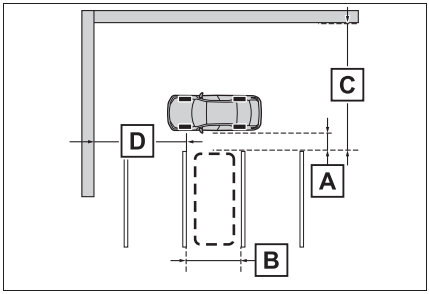
アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

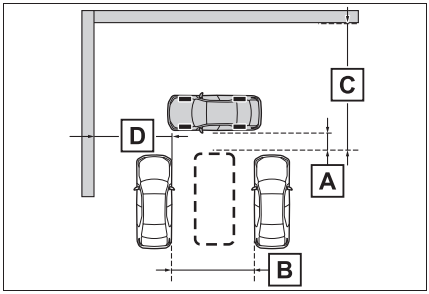
C 約 5m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上 ※

C 約 5m 以上 ※

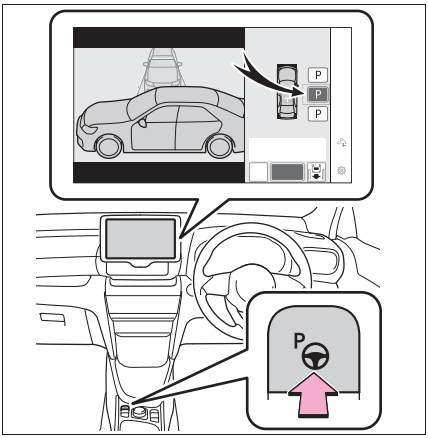
D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動

します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する。



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

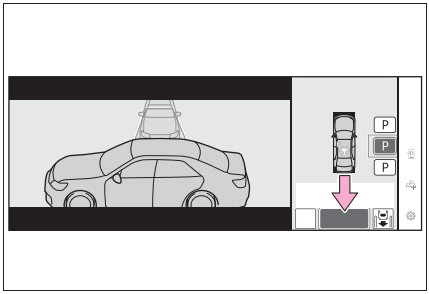
● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

● 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくは、にタッチすると、駐車の向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.294

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

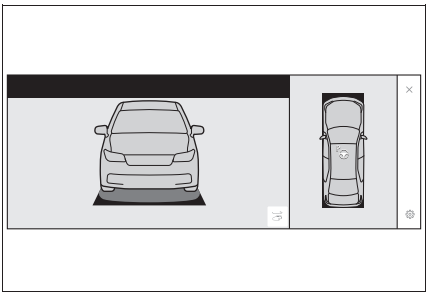
車両が停車したら、シフトポジションを P にすると、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

シフトポジションを P にする前にシートベルトをはずす、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。
さらに、運転席シートベルトをはずして、ブレーキペダルを離すと、ホーンが鳴り

ます。
シフトポジションをＰにして、アシストを終了してください。

マルチメディア画面の にタッチする

と、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

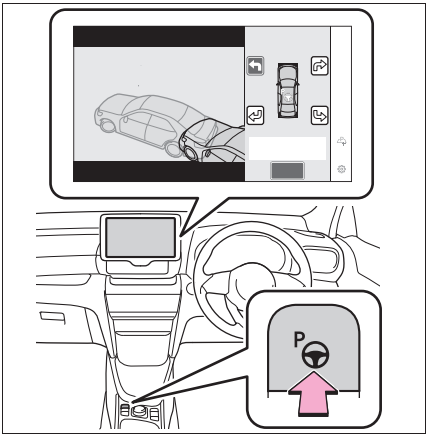
アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションがＰの状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫

方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

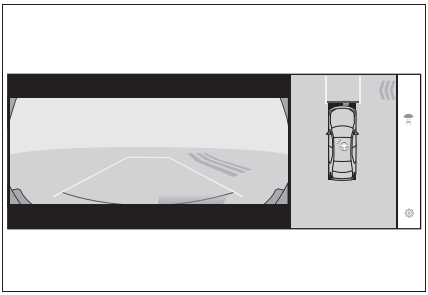


2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



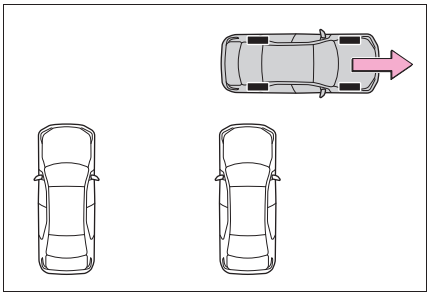
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.295

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.294

■並列前向き・バック出庫機能について

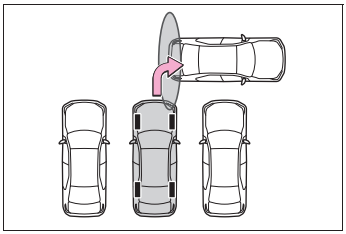
並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

■並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況

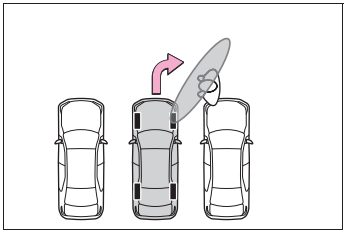
次のような状況では並列前向き・バック

出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両がある場合



●フロントまたはリヤのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合



■ブレーキが作動したとき

→P.294

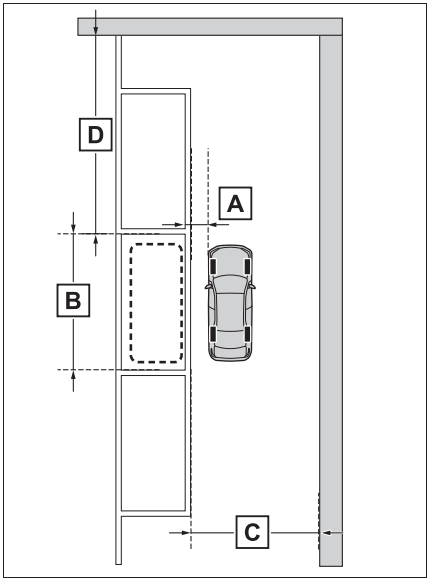
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

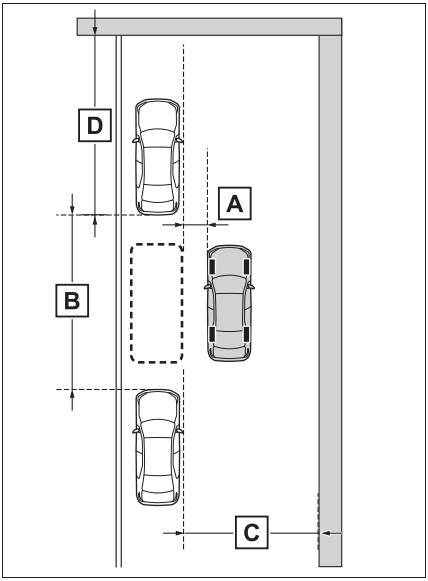
B 約 5m※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m※

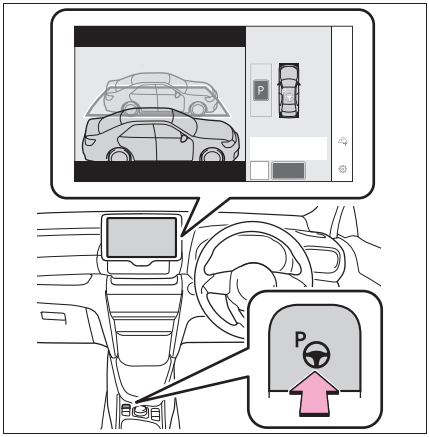
B 約 6m 以上 ※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

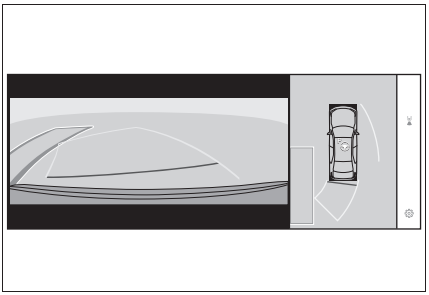
● 並列前向き・バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Ⓟにタッチすると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.298

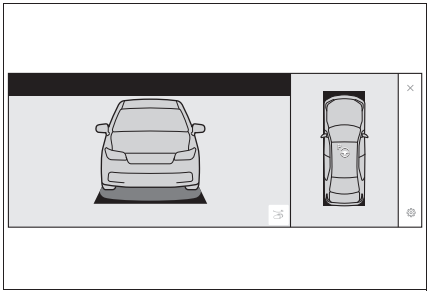
4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、シフトポジションを P にすると “Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

シフトポジションを P にする前にシートベルトをはずす、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。

さらに、運転席シートベルトをはずして、ブレーキペダルを離すと、ホーンが鳴ります。シフトポジションを P にして、アシストを終了してください。

マルチメディア画面の にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



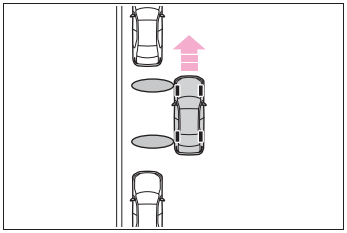
知識

■ **周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは**

→P.294

■ **“駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは**

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ **ブレーキが作動したとき**

→P.294

注意

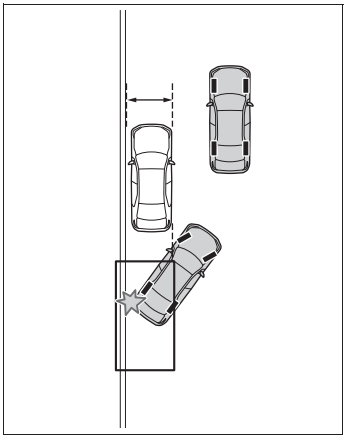
■ **縦列駐車機能を使用するときは**

● 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

⚠注意

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



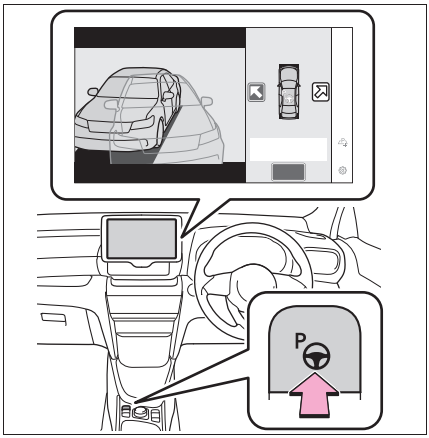
●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

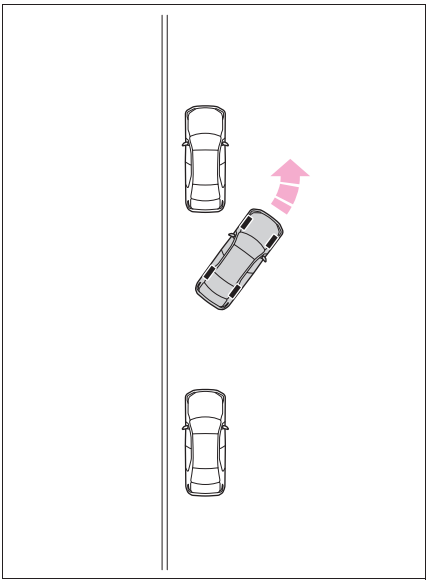
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近い

と感じたときは：→P.300

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.294

■縦列出庫機能について

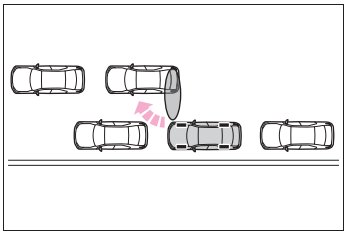
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。

万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

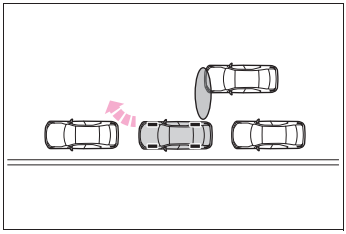
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

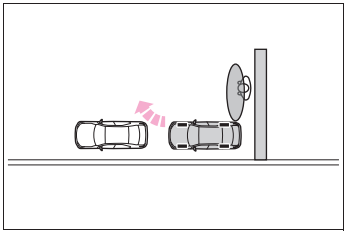
●出庫方向に信号待ちの車両がある場合



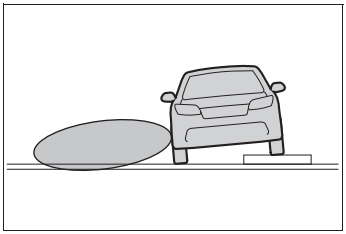
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や人がいる場合



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合



●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

■**ブレーキが作動したとき**

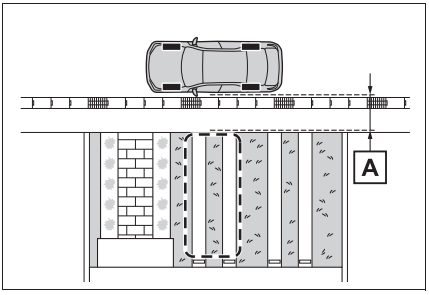
→P.294

アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。
登録できる駐車スペースは3つです

駐車スペースの登録

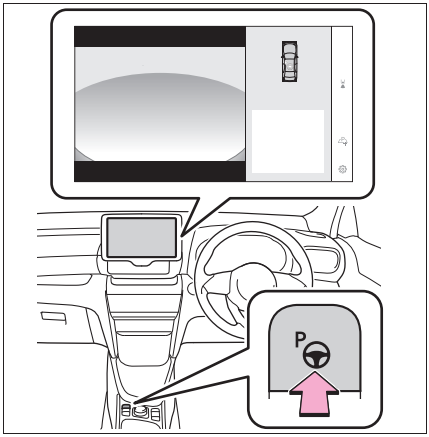
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する。



A 約 1m

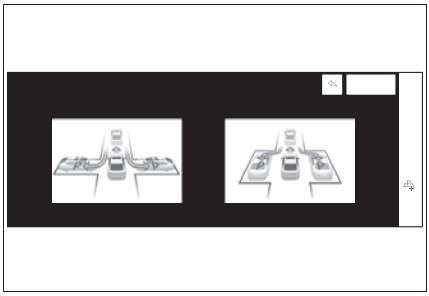
2 アドバンストパークメインスイッチを押し、Pにタッチする

区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、”駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてPにタッチしてください。



3 並列（前向き・バック）駐車または縦列駐車を選択する

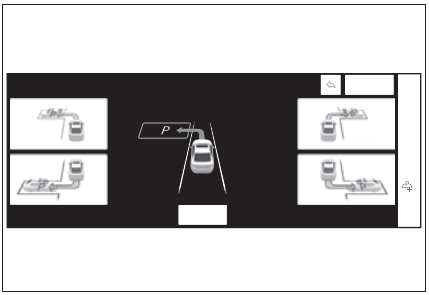
アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。



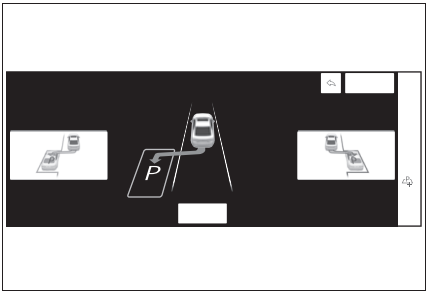
4 駐車の向きを選択する

手順 **3** で並列（前向き／バック）駐車を

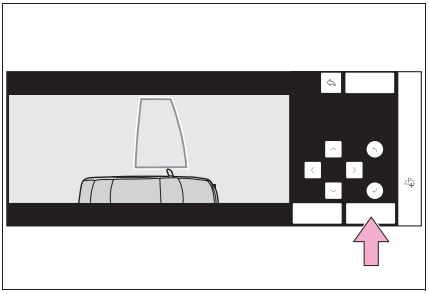
選択した場合：



手順 **3** で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了” スイッチにタッチする



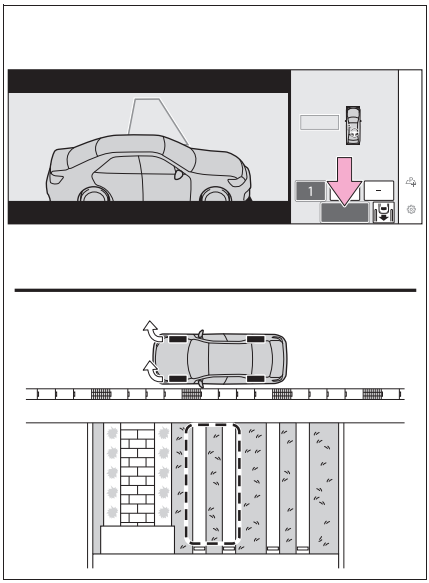
6 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

シフトポジションが D 以外のとき、“シフトをドライブにしてください” の音声案内と表示が出ます。

ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.303



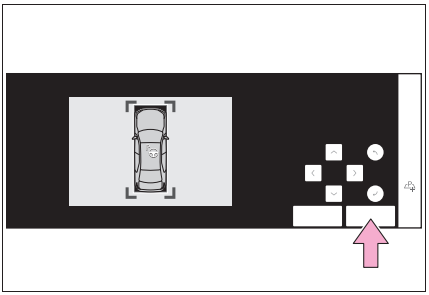
7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したらシフトポジションを P にする

9 登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録” スイッチにタッチする

マルチメディア画面に “登録が完了しま

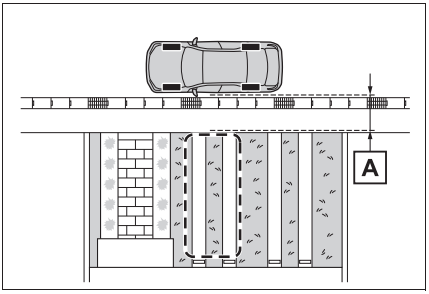
した” と表示されます。



- 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 調整できる範囲には限りがあります。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

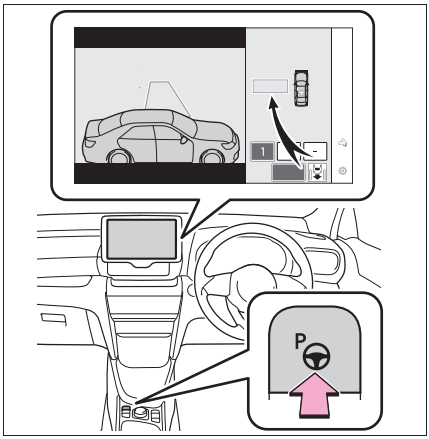
1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する



A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE” スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。



3 駐車したいスペースを選択して、“開始” スイッチにタッチする

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 **3** 以降と同じです。(→P.292)

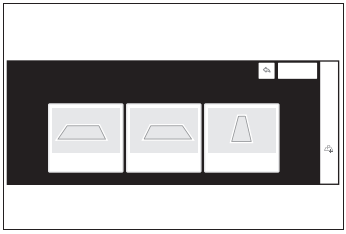
知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.294

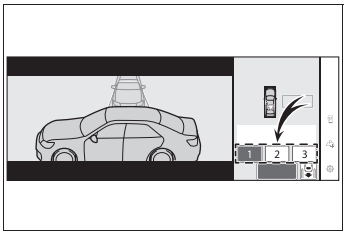
■登録した駐車スペースを上書きするときは

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で、にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”スイッチにタッチする



■ブレーキが作動したとき

→P.294

注意

■メモリ機能を使用するときは（→P.294, 298）

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（周囲が暗いとき）

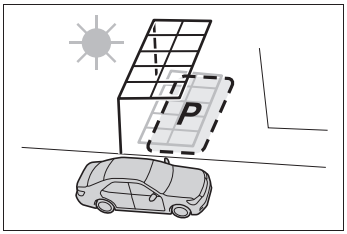
●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

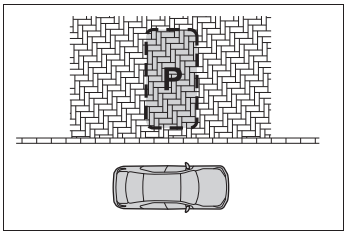
●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

注意

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき
・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）
・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
・勾配がある駐車場
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が見つかりません” と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

●カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークの中止・中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムがアドバンストパークのアシストを行えないと判断した場合、マルチメディア画面に “中止” が表示されます。必ず “中止” を選択してアシストを中止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

● アドバンストパークメインスイッチを押した
● シフトポジションを P に変更した
● パーキングブレーキをかけた
● ドアまたはバックドアを開けた

- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC・VSC を OFF にした
- TRC・VSC・ABS が作動した
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディア画面上で“中止”にタッチした

■ **アシストが中断されるとき**

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- 走行中にシフトポジションを変更した（P 除く）
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディア画面の ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ **音声案内**

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ **速度モード**

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ **障害物回避距離**

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ **優先駐車方法**

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ **優先駐車向き**

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ **優先出庫方向（並列）**

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ **優先出庫方向（縦列）**

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ **駐車時の映像**

並列前向き・バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ **出庫時の映像**

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物・車止め・縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “ 速度が調整できません ” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。平坦な場所で使用してください。

■ “ 障害物を検知しました ” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の “ 再開 ” スイッチにタッチしてください。

■ “ 登録に必要な駐車目標が見つかりません ” が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で

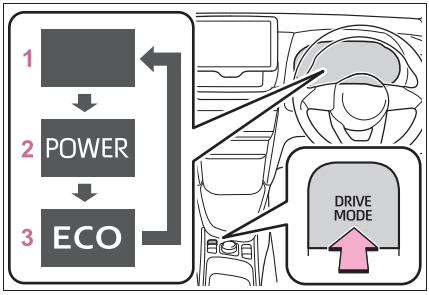
P をタッチしたときに表示されます。システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.301）

ドライブモードセレクトスイッチ

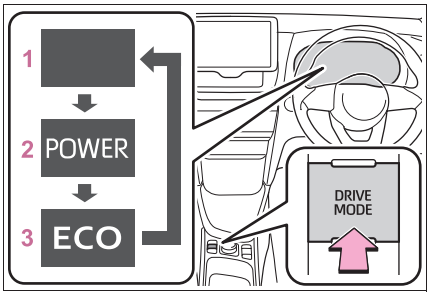
走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ アドバンストパーク非装着車



▶ アドバンストパーク装着車



ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコドライブモードの順で切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.333）
- 風量を調整する（→P.332）
- エコドライブモードを解除する

■パワーモードの自動解除

パワーモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

トレイルモード（AWD車）

トレイルモードは、AWD・ブレーキ・駆動力などを統合制御し、タイヤの空転を抑えます。凹凸のある路面を走行するときに、使用してください。

警告

■トレイルモードをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

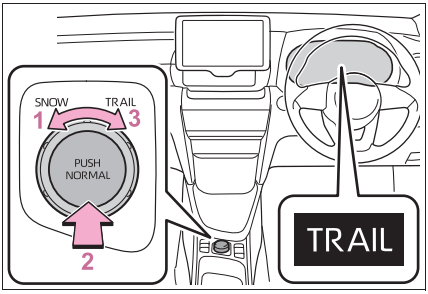
- トレイルモードは悪路を走行する場合のみに使用してください。
- トレイルモード表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。
- トレイルモードは、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

■トレイルモードを正常に作動させるために

トレイルモードを長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

トレイルモードを ON にするには



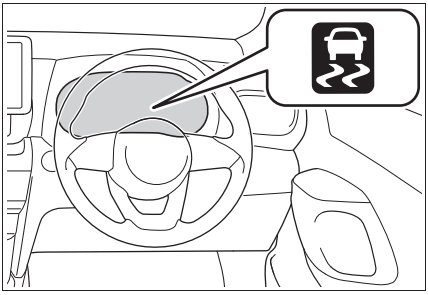
1 スノーモードに切りかわる（→P.311）

2 ノーマルモードに切りかわる

3 トレイルモードに切りかわる

トレイルモードが作動しているとき

タイヤが空転しているときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。



知識

■ トレイルモードについて

● トレイルモードは悪路の走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、トレイルモードが OFF の状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

● トレイルモードを長時間使用すると、走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されますが、通常走行は可能です。しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの “TRC Off しました” の表示が消えればシステムが正しく作動します。

■ トレイルモードが解除されるとき

次の場合は、トレイルモードを選択していても自動で解除されます。

● 走行モードを切りかえたとき。（→P.308）

● ハイブリットシステムを再始動したとき。

■ トレイルモードの作動音と振動

トレイルモードが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

● 車体やハンドルに振動を感じる

● エンジンルームからの音が聞こえる

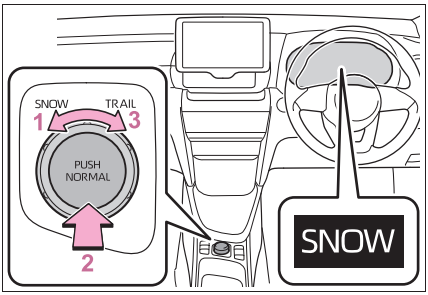
■ トレイルモード表示灯が点灯しないときは

トレイルモードを選択してもトレイルモード表示灯が点灯しないときは、システムの故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スノーモード（AWD 車）

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに適しているモードです。

スノーモードに切りかえるには



1 スノーモードに切りかわる
2 ノーマルモードに切りかわる
3 トレイルモードに切りかわる
（→P.309）

知識

■スノーモードの自動解除について

スノーモードは、パワースイッチを OFF にする、もしくはドライブモードを切りかえる、またはトレイルモードを選択すると自動的に解除されます。

ダウンヒルアシストコントロールシステム（AWD 車）

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。

システムはブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

警告

■ダウンヒルアシストコントロールを使うときは

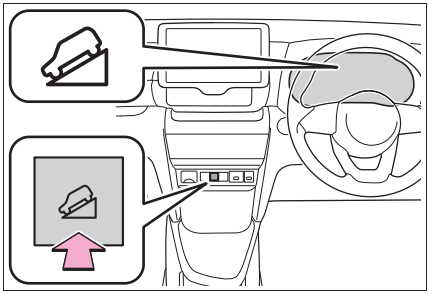
ダウンヒルアシストコントロールを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。

システムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトレバーが P 以外のときに作動します。

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。
・シフトレバーが P にあるとき
・アクセルペダルかブレーキペダルを操作しているとき
・車速が約 30km/h をこえたとき
・ブレーキシステムが異常過熱したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。
・シフトレバーが N にあるとき
・ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときに DAC スイッチを押したとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”が表示されます。（通常走行は可能です）

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、“TRC Off しました”の表示が消えればシステムが使用可能となります。

■作動音や振動について

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●パワースイッチをONにしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●スリップ表示灯が点灯する

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●泥、砂利の道路などのすべりやすい路面

●凍結路

●未舗装路

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車

両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式 AWD システム）★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から AWD（４輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性・走行安定性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

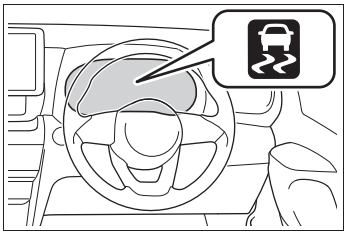
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

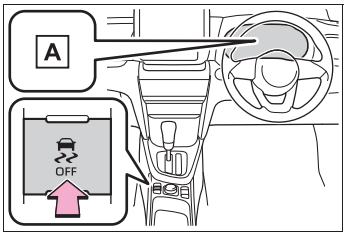
このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す。

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました” と表示されます。

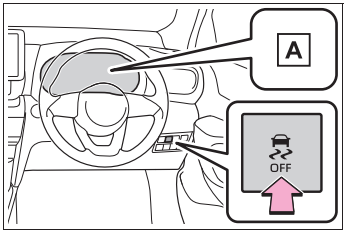
もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

▶アドバンストパーク非装着車



A “TRC OFF しました ”

▶アドバンストパーク装着車



A “TRC OFF しました ”

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

OFF を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC OFF しました ” と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）の各機能の作動も停止します。（衝突警報のみ作動可能状態になります。）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.210）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- ●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない
- ●パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●シフトレバーをPまたはNの位置にした
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- ●パワースイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車両が約 0km/h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

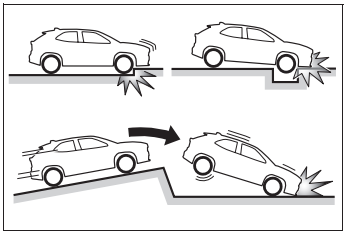
●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき

・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき

※アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに AWD システムに関するメッセージが表示されたとき（AWD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

● “AWD 高負荷走行を控えてください 2WD 走行に切り替わります ”

AWD システムが過熱しています。HV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “AWD システム高温 2WD 走行に切りかわりました ”

過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかりました。HV システムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、AWD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “AWD システム故障 2WD 走行になります　販売店で点検してください ”

AWD システムに異常が発生しています。すみやかに販売店で点検を受けてください。

※停車時は表示が消えるまで HV システムを停止しないでください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
（→P.460）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

警告

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートはお客様の運転を補助し、より安心なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加※でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

※グレード、オプションなどにより、追加の有無があります。

■ **機能の追加**

● 急アクセル時加速抑制

● 交差点対向車注意喚起

■ **音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）**

対象機能：

● PCS（プリクラッシュセーフティシステム）

● RSA（ロードサインアシスト）

● 急アクセル時加速抑制

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティシステム）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- RSA（ロードサインアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- RCTA（リアクロストラフィックアラート）★
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- 安心降車アシスト★
- クリアランスソナー

★：グレード、オプションなどにより、追加の有無があります。

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

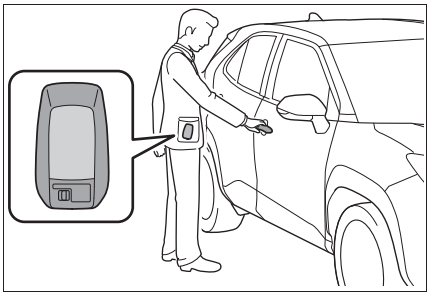
サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを起動する

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する。（→P.108, 114）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



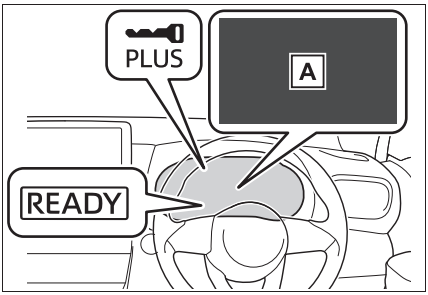
2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動します。（→P.166）

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認

してください。



A “プラスサポートで起動中　急加速を制限します”

4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にします。

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを施錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■プラスサポートを正しく使用するために

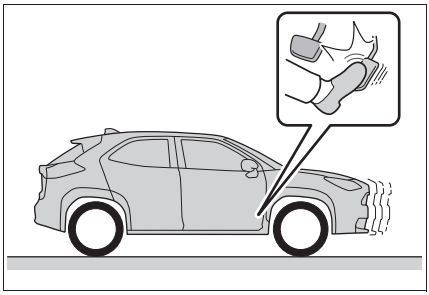
●必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。

●サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。

●ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→P.85）
プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

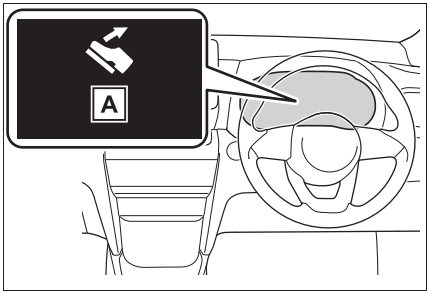
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



A “アクセルが踏まれています”

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度

と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間

●急な上り坂に自車がいるとき

●アドバンストパーク作動中は、急アクセル時加速抑制が作動しません。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P.308）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
（→P.89）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.373）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。
市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■寒冷時にドアミラーを「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、マニュアル作動で作動させるか、手で動かしてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ ブレーキホールドシステム

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、必ず輪止め※をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをＰに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→P.175）

パーキングブレーキスイッチを押しながら、パワースイッチをOFFしてください。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないことを確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

オートエアコン 332

ステアリングヒーター／シートヒーター 337

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 339

5-3. 収納装備

収納装備一覧 341

ラゲージルーム内装備 344

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 347

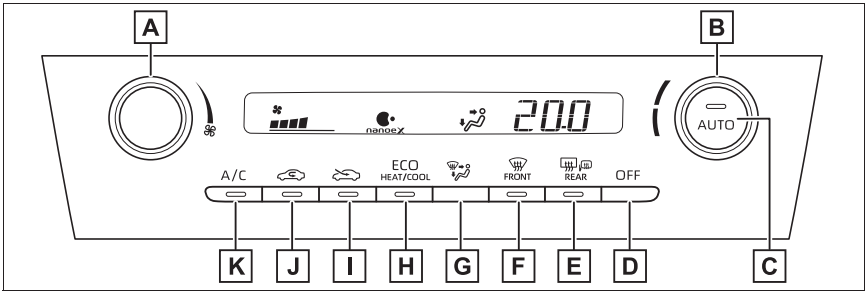
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム 351

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 359

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A 風量調整ダイヤル

B 温度調整ダイヤル

C AUTO スイッチ

D OFF スイッチ

E リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ★

F フロントデフロスタースイッチ

G 吹き出し口切りかえスイッチ

H エコ空調スイッチ

I 外気導入スイッチ

J 内気導入スイッチ

K 冷房・除湿スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

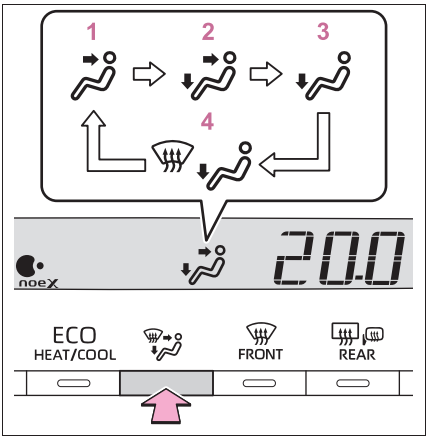
風量を増やすときは風量調整ダイヤルを右へまわし、減らすときは風量調整ダイヤルを左へまわす

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

● 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

● 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ ナノイー X[※1, 2] について

エアコンにはナノイー発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。[※3]

● ファンが作動すると、自動的にナノイー X が作動します。

● ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風の時

・ 運転席窓側の吹き出し口が開いている時

● ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

● ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 nanoe 、ナノイー及び nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2 ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

知識

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。（→P.308）

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

● エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・エコ空調モードを OFF にする（→P.333）
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する（→P.308）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.376

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.462）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ナノイー X 発生装置★について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。
修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ナノイー X 発生装置★の損傷を防ぐために

運転席窓側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 冷房・除湿スイッチを押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON/OFF が切りかわります。

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

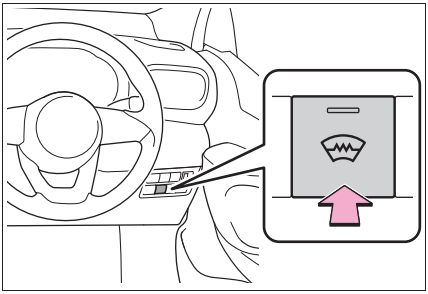
知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロントワイパーデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

警告

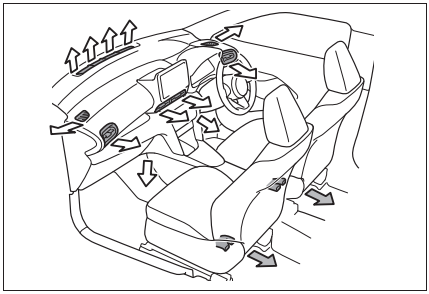
■ウインドシールドデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

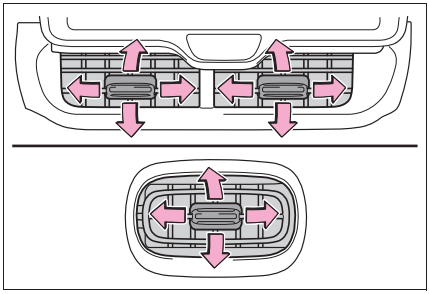
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



⬅：仕様により設定の有無あり

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



ノブを上下左右に動かしてください。

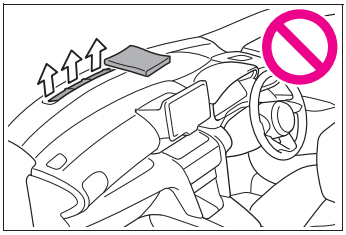
センター吹き出し口：ノブを左側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます。

サイド吹き出し口：ノブを外側いっぱいまで動かすと吹き出し口を閉じることができます。

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■ステアリングヒーター／シートヒーターの損傷を防ぐために

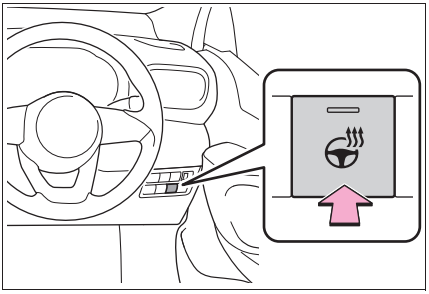
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切り替える



作動中は作動表示灯が点灯します。

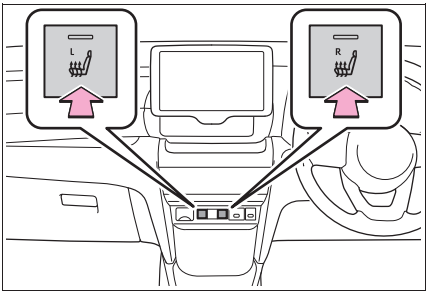
知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

シートヒーター

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、スイッチを軽く押してください。作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

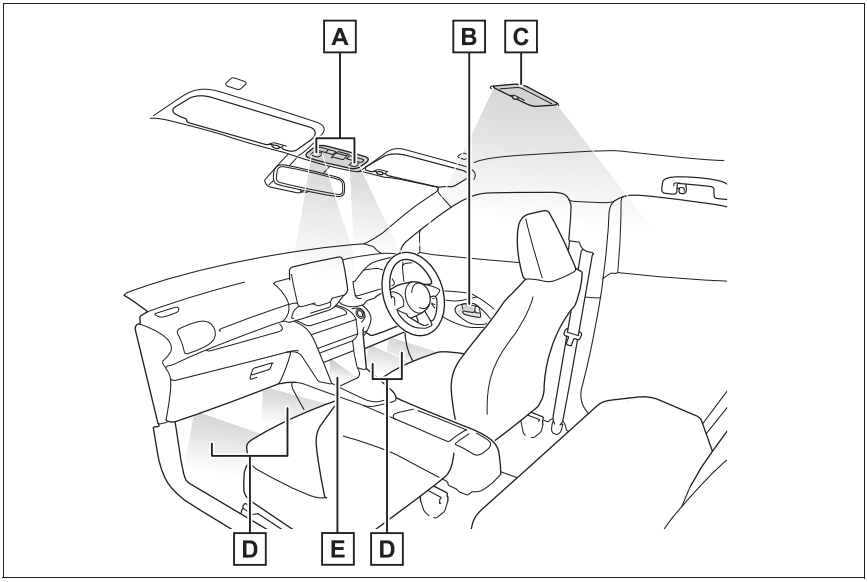
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリア／パーソナルランプ（→P.339, 340）

B ドアトリム照明★

C リヤインテリアランプ（→P.340）

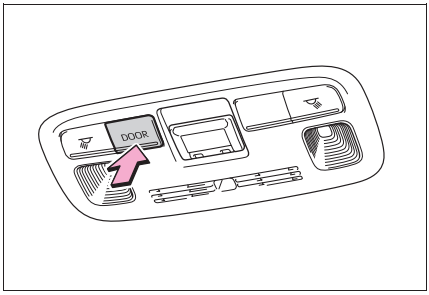
D 足元照明★

E センタートレイ照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

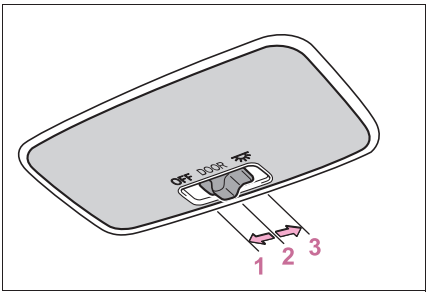
インテリアランプを操作するには

■ フロント



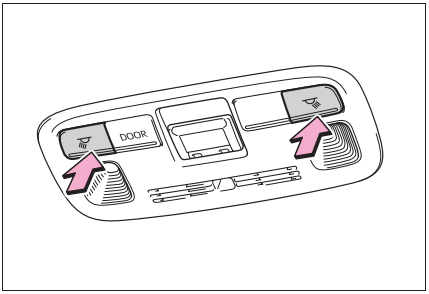
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

■ リヤ



1 ランプを消灯する
2 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる
3 ランプを点灯する

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。
手動操作で消灯することもできますが、2 次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.472）

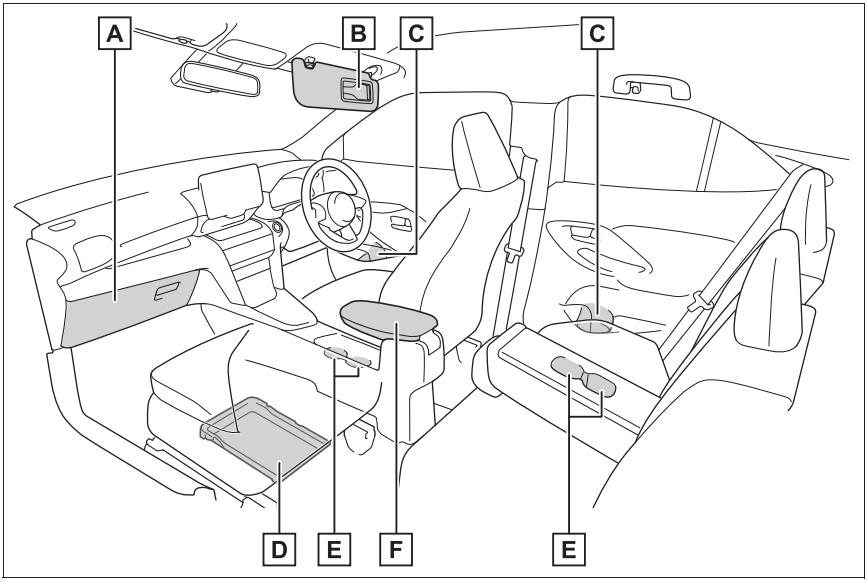
注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A グローブボックス（→P.342）

B カードホルダー★（→P.343）

C ボトルホルダー（→P.343）

D 助手席シートアンダートレイ★（→P.343）

E カップホルダー★（→P.342）

F コンソールボックス★（→P.343）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

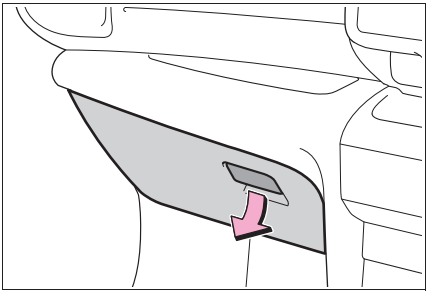
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

警告

●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



レバーを引いて開ける

警告

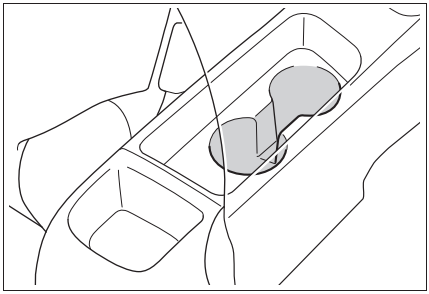
■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

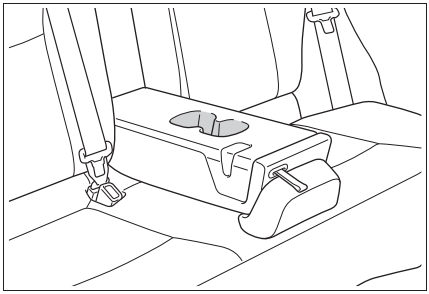
カップホルダー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ フロント



▶ リヤ



ストラップを引いて前方へ倒す

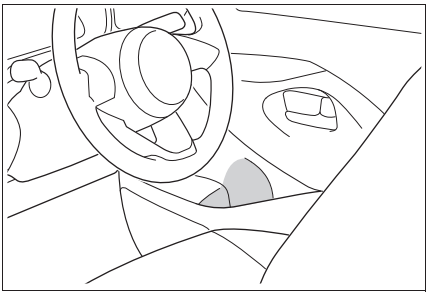
警告

■収納してはいけないもの

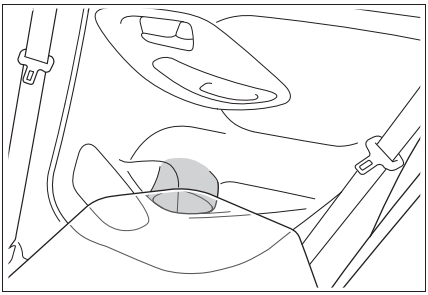
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

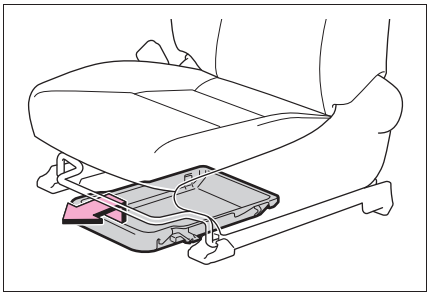
警告

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

助手席シートアンダートレイ★

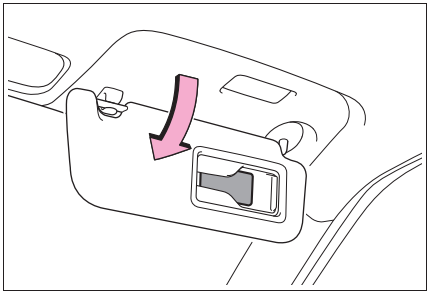
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



トレイを上に持ち上げ、前に引き出す。

カードホルダー★

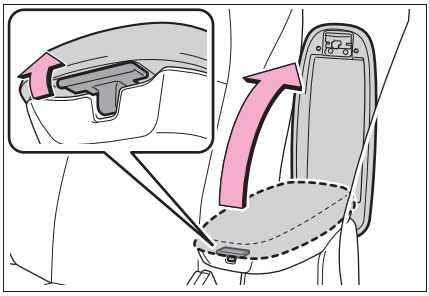
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



バイザーを下ろす。

コンソールボックス★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

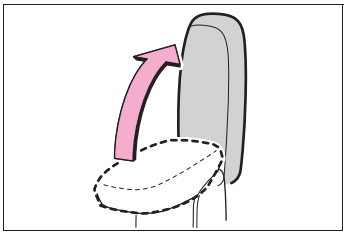


レバーを引いてロックを解除し、フタを持ち上げて開く

知識

■コンソールを使用しないときは

コンソールボックスを持ち上げると、カップホルダーを使用できます。



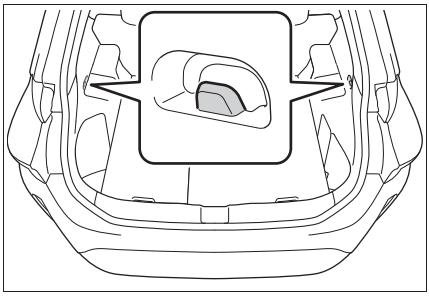
警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

買い物フック



警告

■買い物フックの破損を防ぐために

2kg 以上のものを買い物フックに吊り下げないでください。

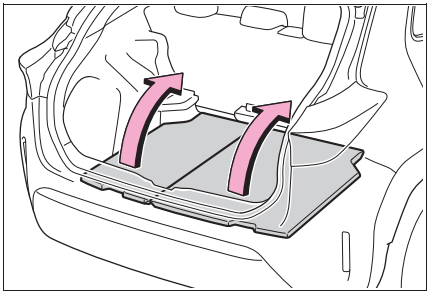
デッキボード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

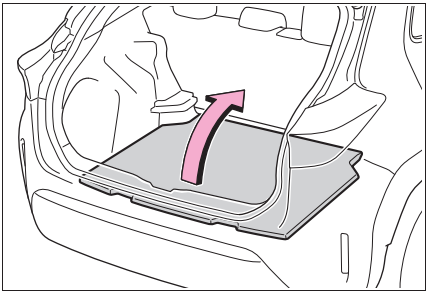
■ デッキボードの開け方

デッキボードを持ち上げる

▶ FF 車

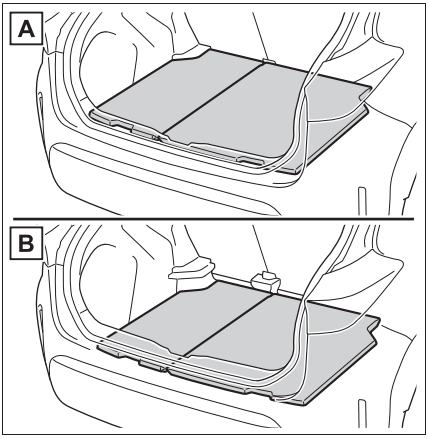


▶ AWD 車



■ **荷室床面の高さを調節する（アジャスタブルデッキボード装着車）**

デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



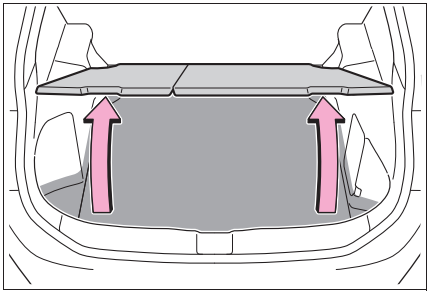
A 上段

B 下段

デッキアンダートレイを使うには

■ **上段★**

デッキボードを持ち上げる

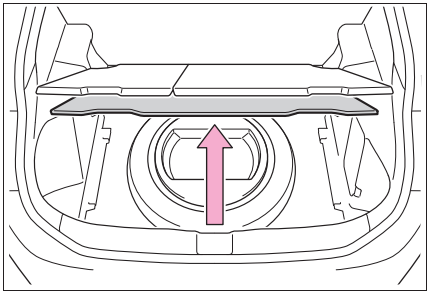


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

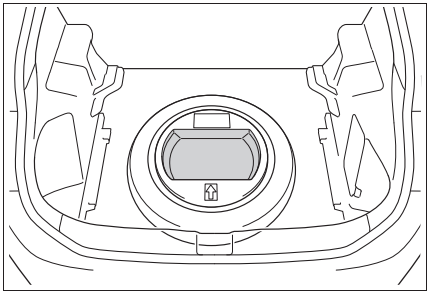
■ **下段**

フロアカバー★を持ち上げる

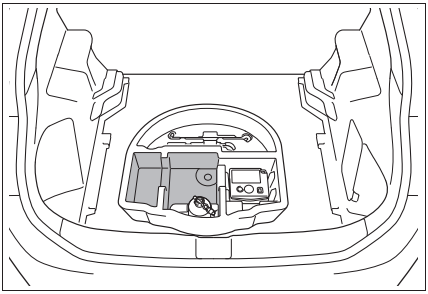
必要に応じてデッキボードを取りはずしてください。



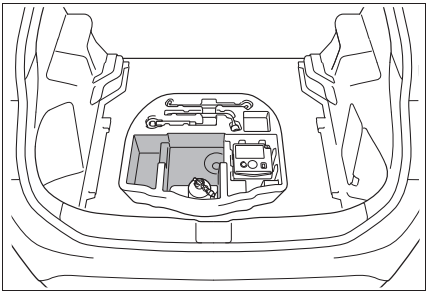
▶ タイプ A



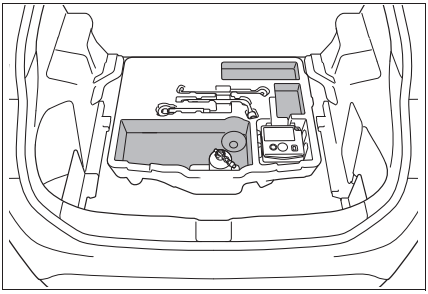
▶ タイプ B



▶ タイプ C



▶ タイプ D



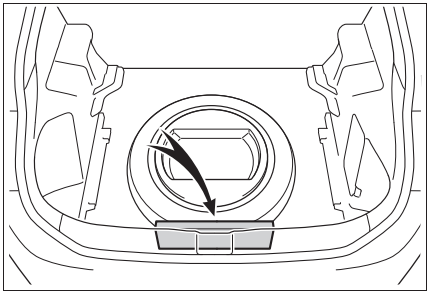
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

停止表示板収納スペース

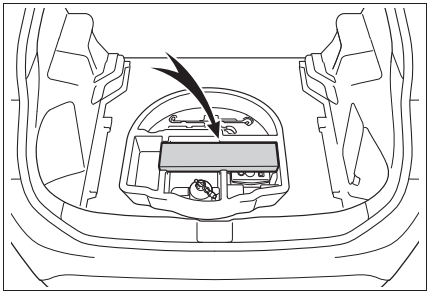
ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

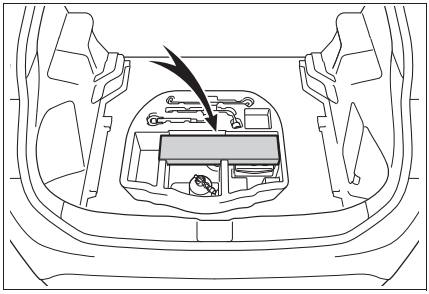
▶ タイプ A



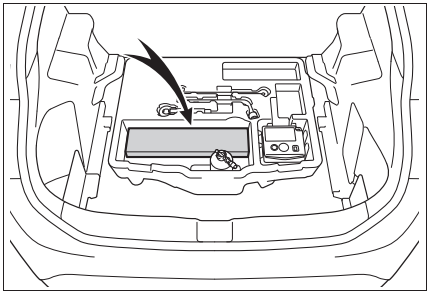
▶ タイプ B



▶ タイプ C



▶ タイプ D



その他の室内装備

充電用 USB Type-C 端子を使うには★

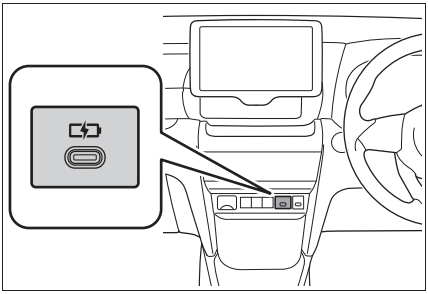
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

アクセサリーソケットを使うには

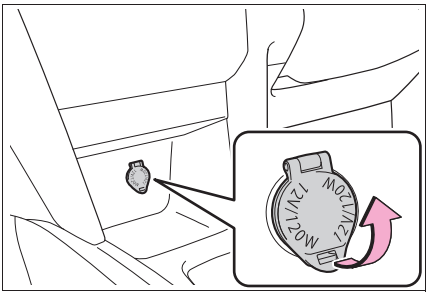
DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合

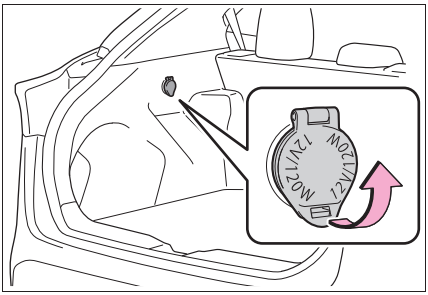
計を 120W 未満にしてください。

フタを開けて使用する

▶ フロント



▶ ラゲージルーム★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

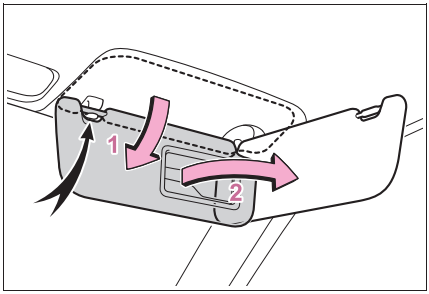
■ショートや故障を防ぐために

アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

サンバイザーを使うには



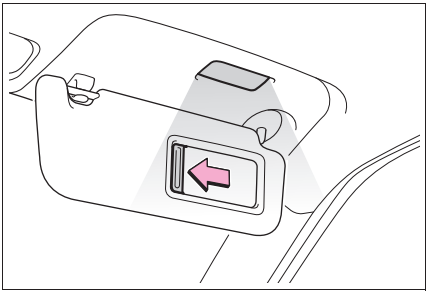
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

ランプ★が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

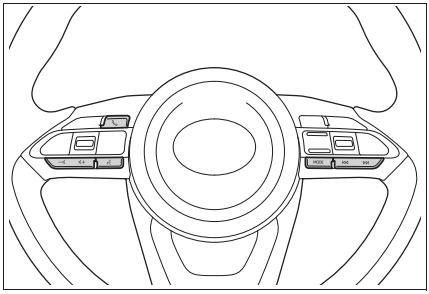
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



警告

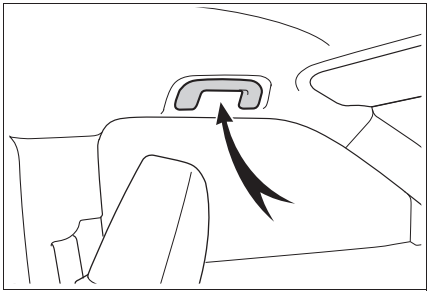
■運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

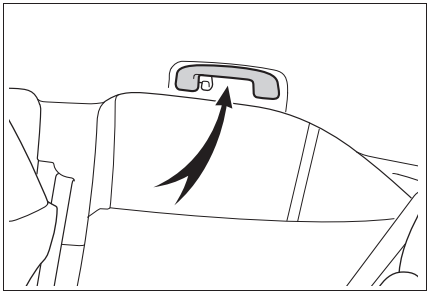
アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

▶ フロント



▶ リヤ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

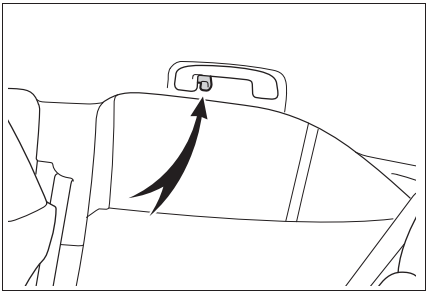
■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

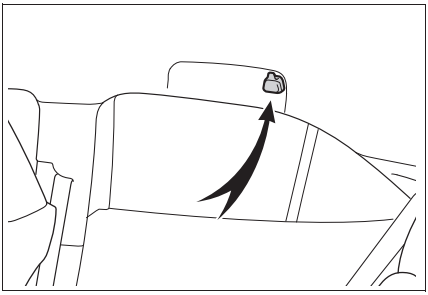
コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。（タイプ A のみ）

▶ タイプ A



▶ タイプ B



警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★・非常時給電システム

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.352）

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.353）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.353）

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

● システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること

● 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

● ボンネットが閉まっていること

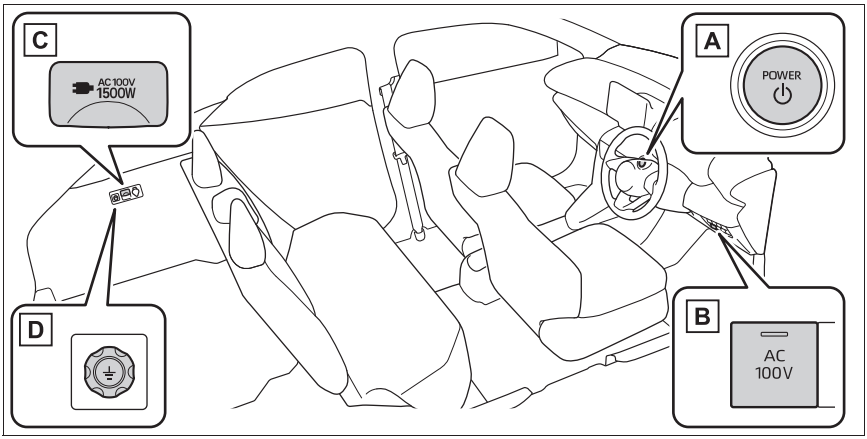
● パーキングブレーキがかかっていること

● シフトポジションが P になっていること

● パワースイッチが OFF になっていること

● 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A パワースイッチ（→P.166）

B AC100V スイッチ

C ラゲージルーム内コンセント

D アース端子

アクセサリーコンセントを使用するには

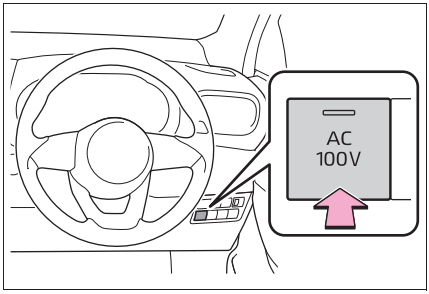
■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.166）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、“AC100V” スイッチを押す

“AC100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

“AC100V” スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む（→P.353）

■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

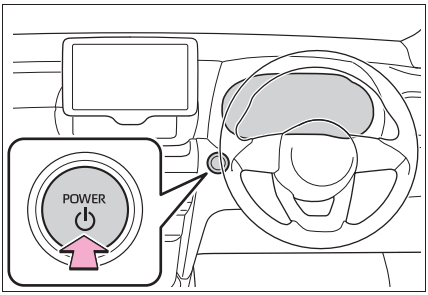
2 “AC100V” スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（→P.166）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケータが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

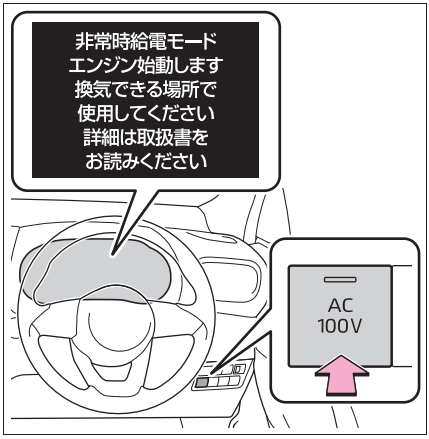


2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“AC100V” スイッチを 3 回連続で押す

“AC100V” スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

“AC100V” スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“AC100V” スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.353）

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 “AC100V” スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってくださ

い。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

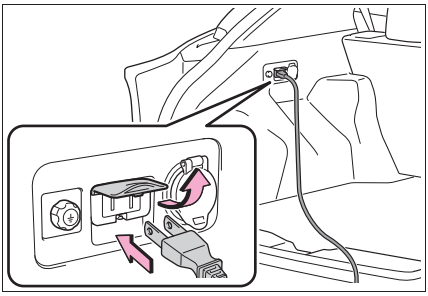
1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。
また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

コンセントはラゲージルーム内にあります。

電気製品の接続されていることがわかるように窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

知識

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用中、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください

●非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●非常時給電システム起動後は、メカニカルキー（→P.442）で施錠・開錠することができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

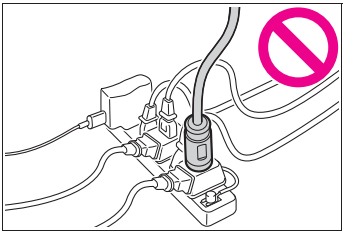
●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

警告

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●走行中の振動により、電気製品が故障する可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションをＰから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

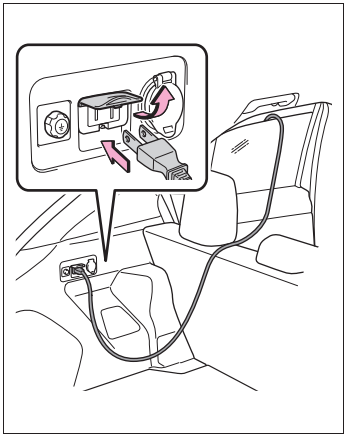
●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。

警告

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■走行中に使用するとき

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

⚠注意

■駐車中または停車中に使用するとき

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）★または非常時給電システムが使用できないときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を充てん後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチがACCになっている	パワースイッチがOFFの状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチをONにしてください。(→P.166) マルチインフォメーションディスプレイに“パワーON”と表示されていることを確認してください。
AC100Vスイッチを押す間隔が長すぎる、またはAC100Vスイッチを3回よりも多く押している	AC100Vスイッチは1秒以上間隔をあけずに3回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

■ “シフトポジション切りかえにより給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
シフトポジションが P から切りかわった	シフトポジションを P に戻した後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 364
内装の手入れ 367

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 370
ガレージジャッキ 372
ウォッシャー液の補充..... 373
タイヤについて 373
タイヤ空気圧について..... 375
エアコンフィルターの交換..... 376
駆動用電池冷却用吸入口の清掃378
キーの電池交換 381
ヒューズの点検・交換..... 383
電球（バルブ）の交換..... 387

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- パワーバックドア★を停止する
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。
- パーキングブレーキの解除が必要なときは、ブレーキホールドシステムをOFFにしてシフトレバーをNに入れたあとにパーキングブレーキを解除してパワースイッチをACCにしてください。（→P.175）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.131）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない

・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ブレーキキャリパーの塗装について★

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メッキ部品のお手入れについて★

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約５％に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

●BSM★

●RCTA★

●安心降車アシスト★

●PKSB

●クリアランスソナー

●Toyota Safety Sense

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV・IR カットガラスについて★

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P.78）
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P.32）
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

注意

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。
(→P.201)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパーUV・IR カットガラス★を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日

陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

AIRNUBUCK®※ 部分の手入れをするには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 粘着テープなどでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

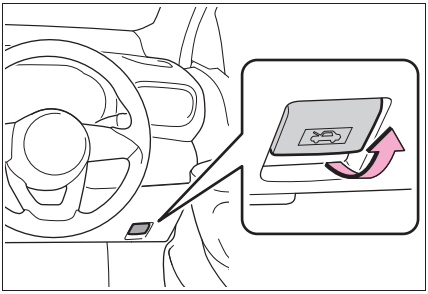
※ AIRNUBUCK® はセーレン株式会社の登録商標です。

ボンネット

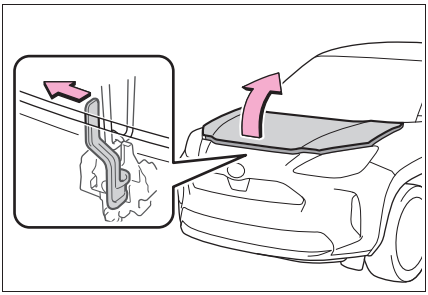
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

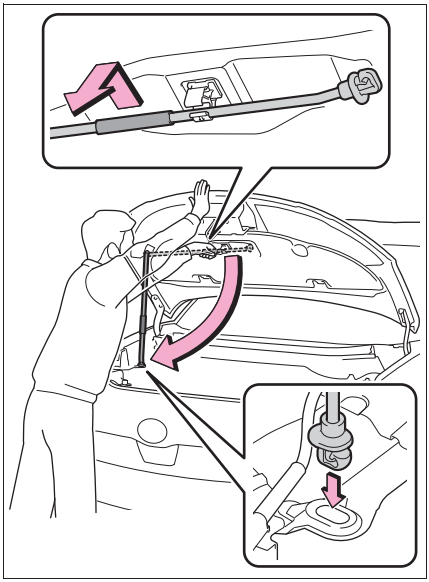
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

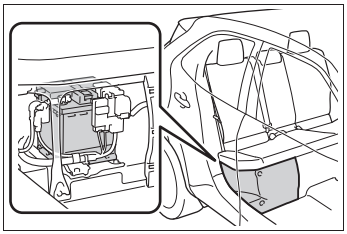


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはリヤシート下側にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.444）



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

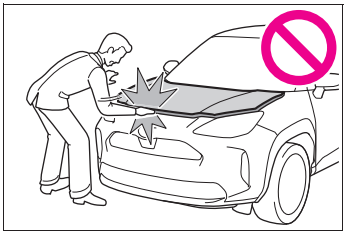
■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき



手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

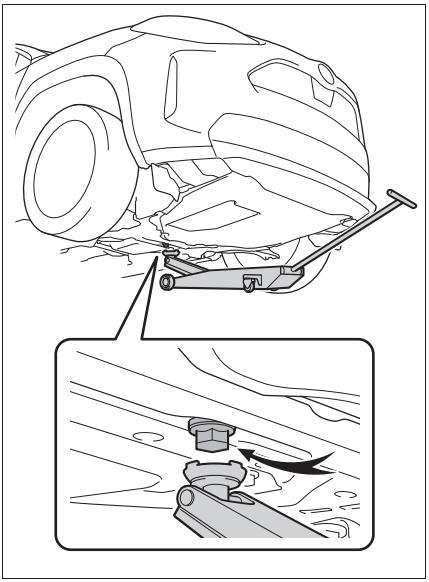
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが挿し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

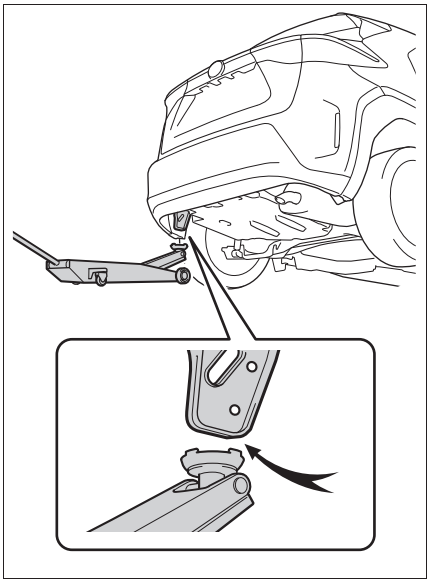
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

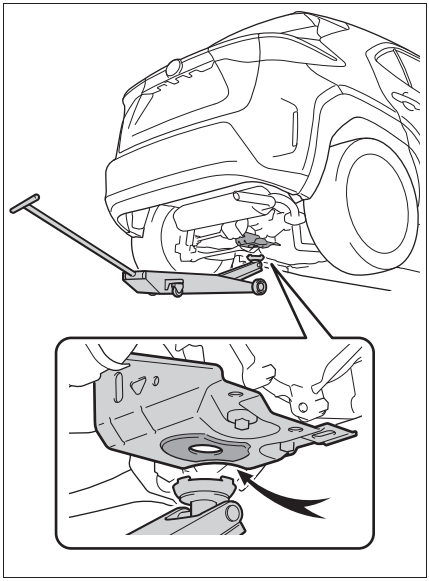


■ リヤ側

▶ FF 車



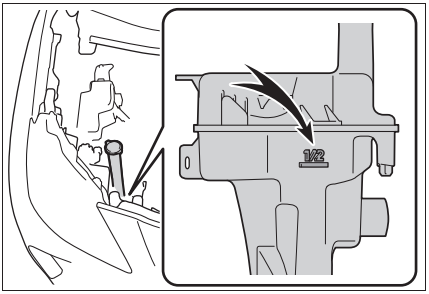
▶ AWD 車



ウォッシャー液の補充

補充をするには

液面が 1/2 の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

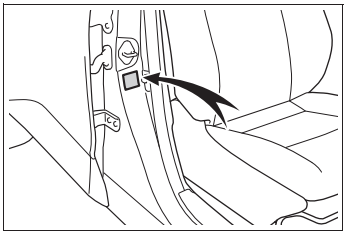
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→P.437）
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
  オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

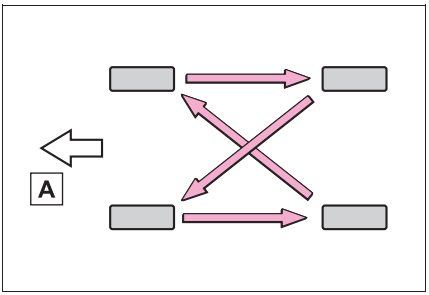
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**(→P.460)**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 安全性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

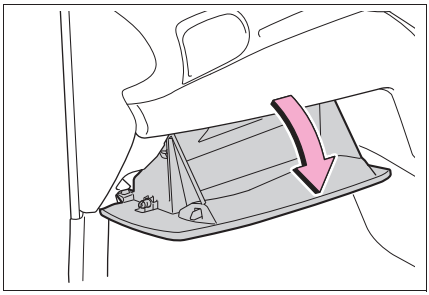
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

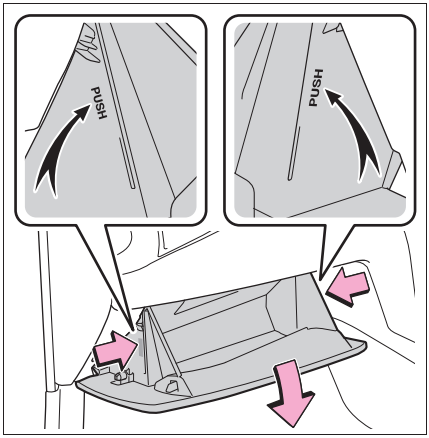
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

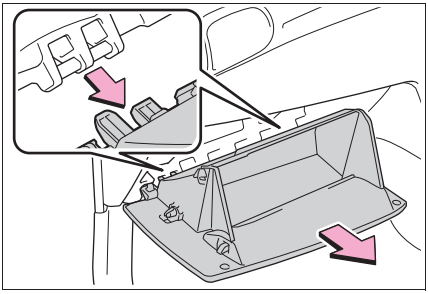
1 パワースイッチを OFF にする
2 グローブボックスを開く



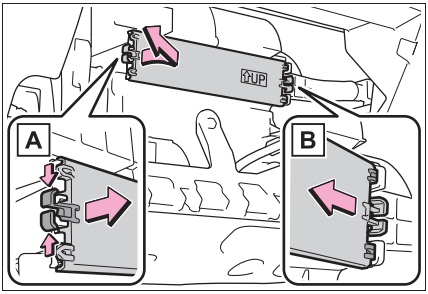
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす



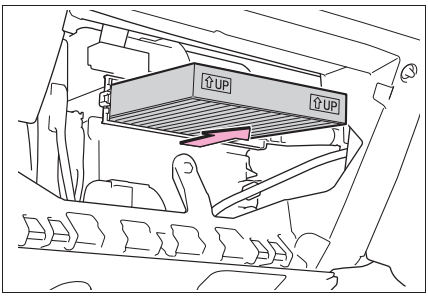
4 下部のツメをはずして取りはずす



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

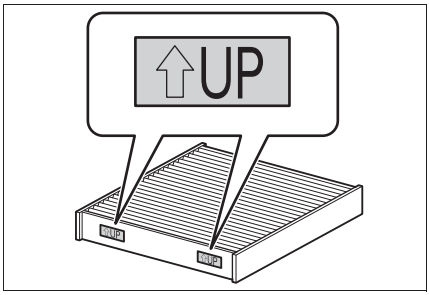


6 フィルターを取りはずす



7 新しいフィルターと交換する

“⇧UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

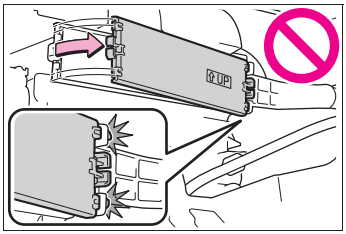
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

注意

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

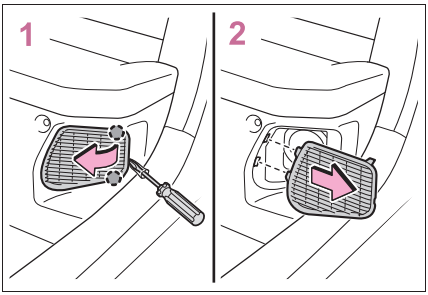
すみやかに清掃してください。
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 吸入口カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

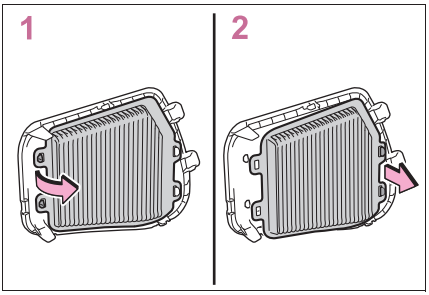


1 吸入口カバーを車両の前側に押して、図で示す 2ヶ所のツメを右端からはずす

2 吸入口カバーを車両の横側に引いて取りはずす

3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。

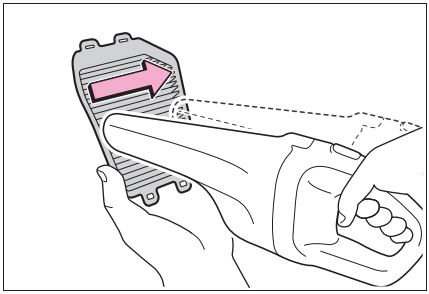


1 図で示す 2ヶ所のツメからフィルターをはずす

2 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす

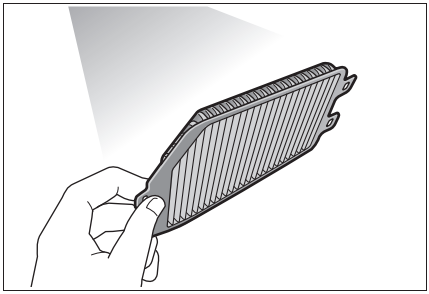
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。

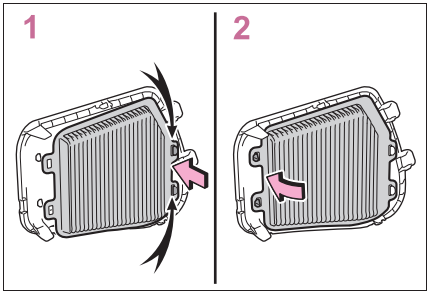


5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



6 吸入口カバーにフィルターをもと通りに取り付ける



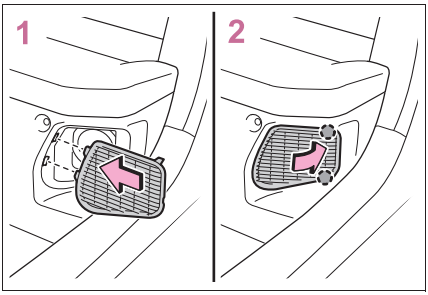
1 図で示す 2ヶ所のツメにフィルターを引っかける

2 残り 2ヶ所のツメにフィルター

を取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

7 吸入口カバーを取り付ける



1 吸入口カバー左端のガイドを差し込む

2 図で示す 2ヶ所のツメを取り付ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”と表示されていたとき

8 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。
しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

警告

■吸入口の清掃をするときは

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

●吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

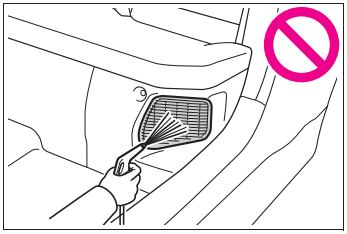
■吸入口カバーを取りはずすときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→P.76）

注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。
ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●吸入口に水や異物などが入らないように注意する

注意

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

●エアブローなどを使用しない

●掃除機などをフィルターに強く押し付けない

●金属製など、硬いブラシを使用しない

●フィルターの折り目をつぶさない

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

事前に準備するもの

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池

・CR2450

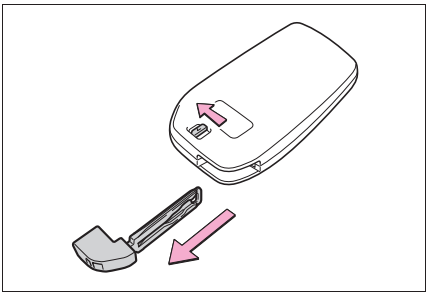
知識

■リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

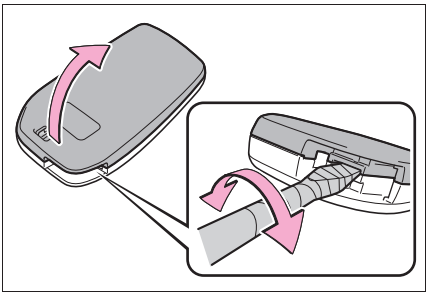
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

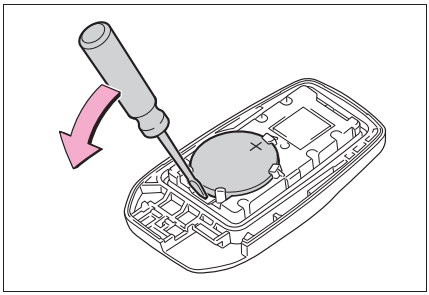


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 ボタン（🔒または🔓）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

⚠警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

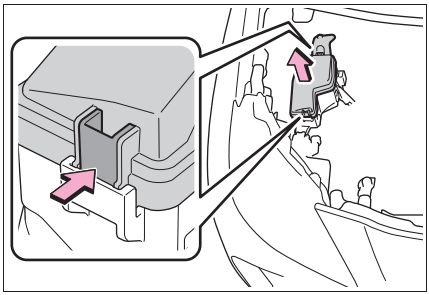
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

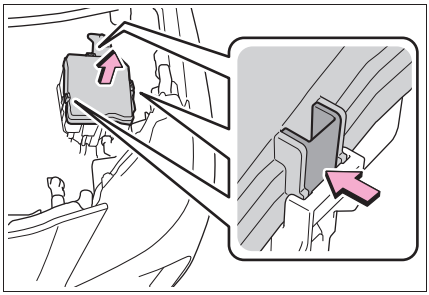
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム（助手席側）

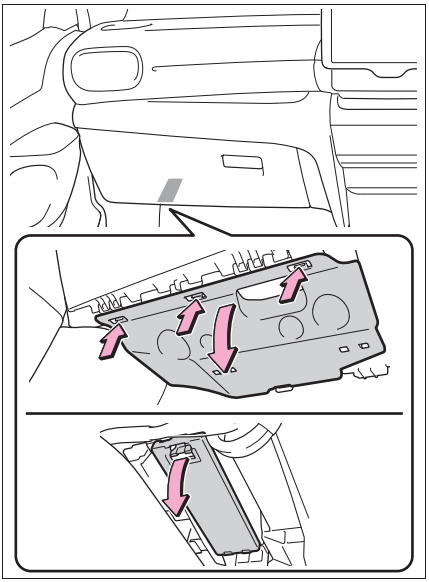
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元（足元照明非装着車）

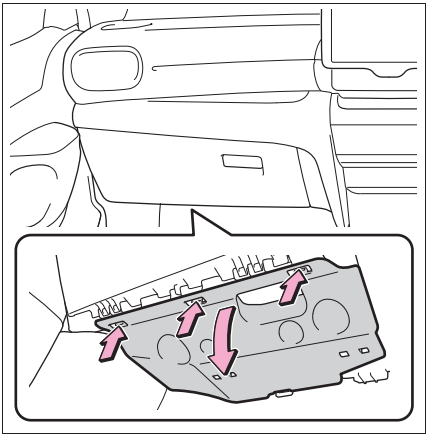
足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

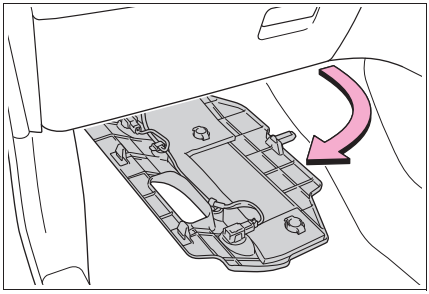


▶ 助手席足元（足元照明装着車）

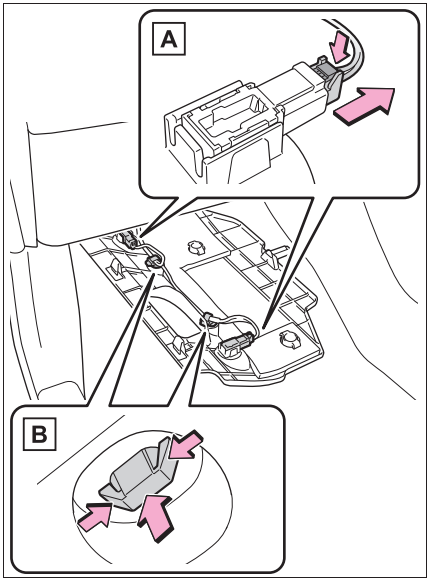
足元のカバーをとりはずす



足元のカバーを時計回りに 90 度回転させる

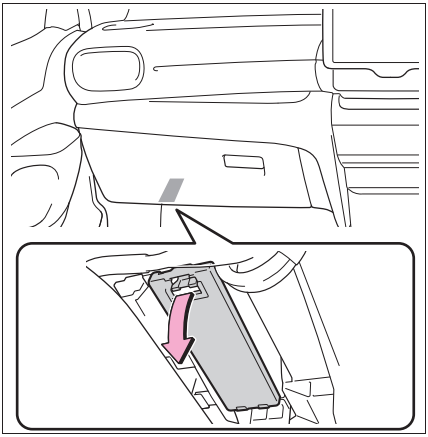


足元照明のコネクター A とクランプ B をとりはずす



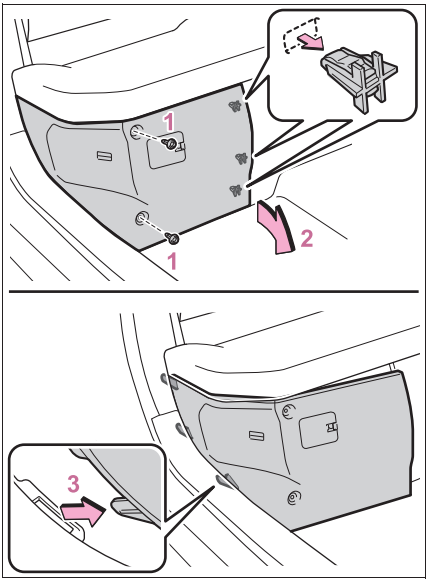
ヒューズボックスのカバーをとりはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



▶ リヤシート（運転席側）

バッテリーカバーをとりはずす



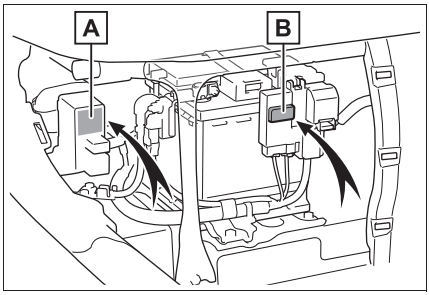
1 ねじをとりはずす

2 クリップをとりはずす

3 ガイドから引き抜く

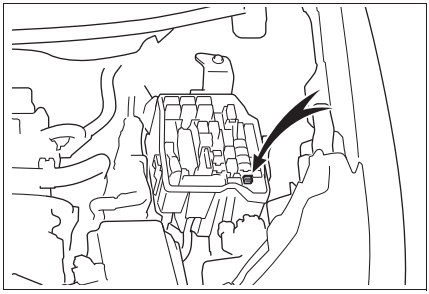
ヒューズ A は、お客様ご自身で点検・交換をすることができます。

ヒューズ B を、点検・交換する際は補機バッテリーの取りはずしが必要になります。誤った取り扱いをすると部品が損傷するおそれがあります。お客様ご自身での点検・交換に不安がある場合は、トヨタ販売店で点検・交換することをおすすめします。

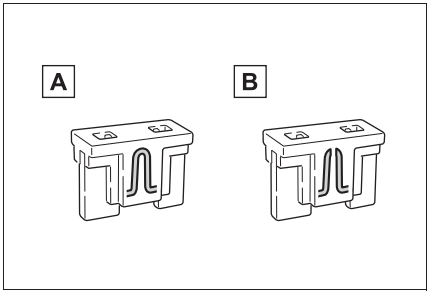


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

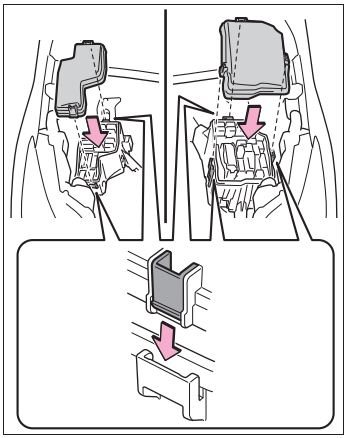
注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ヒューズボックスカバーを取り付けるときは（エンジンルームヒューズボックス）

すべてのツメの位置を合わせてから、ヒューズボックスカバーを押して取り付けてください。
ヒューズボックスカバーのツメが破損するおそれがあります。



電球（バルブ）の交換

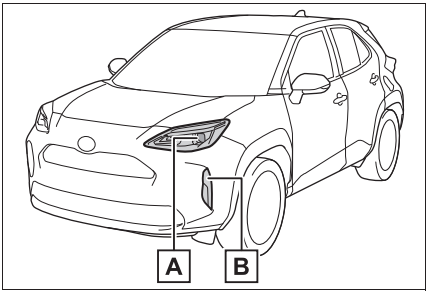
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.460）

バルブ位置

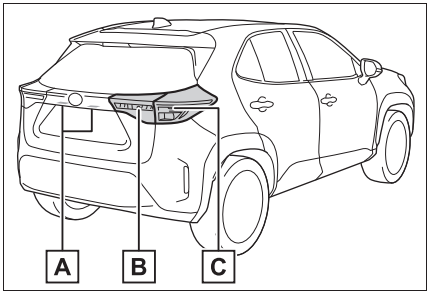
■ **フロント**



A ヘッドランプ（バルブタイプ）

B フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

■ **リヤ**



A 番号灯

B 後退灯（バルブタイプ）

C リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

■ **トヨタ販売店で交換が必要な電球**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（LED タイプ）
- 車幅灯
- LED デイタイムランニングランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- リヤフォグランプ★
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯（LED タイプ）
- ハイマウントストップランプ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外は、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

●ヘッドランプ（バルブタイプ）

●フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

●リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

●番号灯

●後退灯（バルブタイプ）

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

■電球（バルブ）を交換するとき

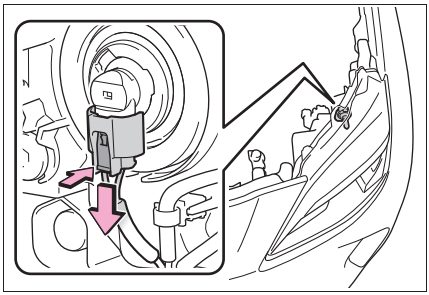
→P.386

電球交換のしかた

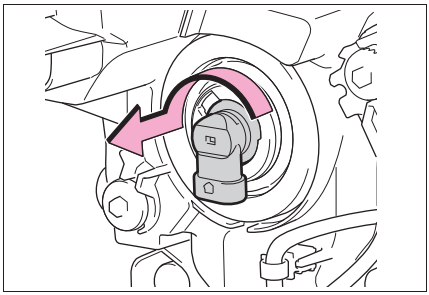
ヘッドランプ、フロント方向指示灯／非常点滅灯はボンネットを開けてから作業してください。

■ ヘッドランプ（バルブタイプ）

1 コネクターを取りはずす



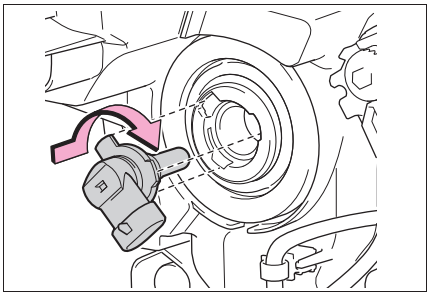
2 ソケットをまわして取りはずす



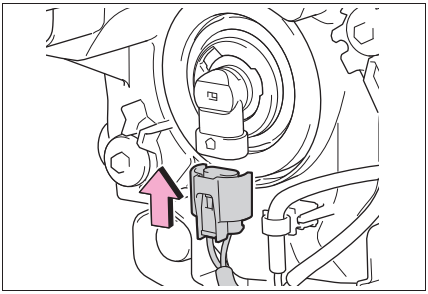
3 電球を交換する

4 ソケットを取り付ける

取り付け部を電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、まわして固定します。

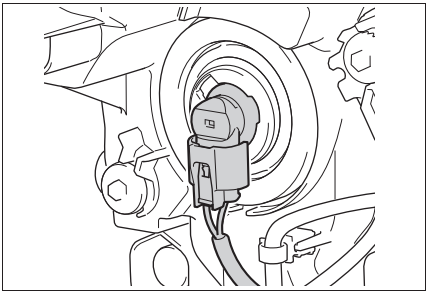


5 コネクターを取り付ける



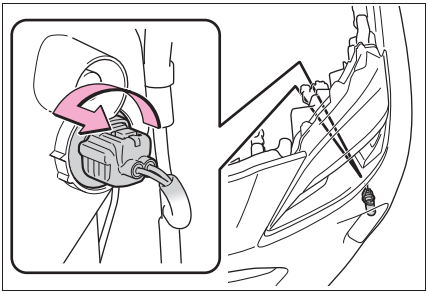
6 取り付け確認をする

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれてないことを目視確認してください。

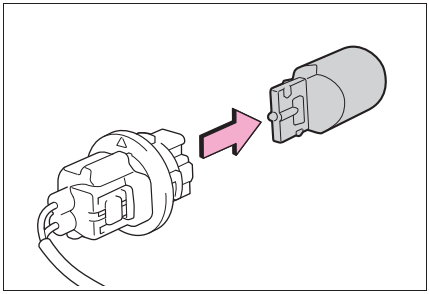


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

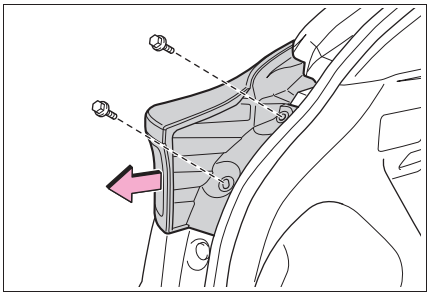


3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

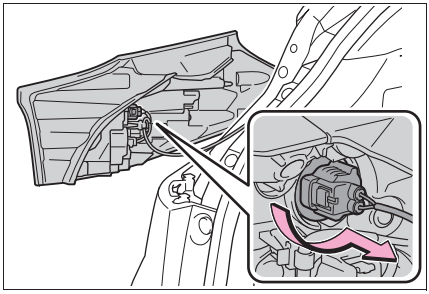
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 バックドアを開ける

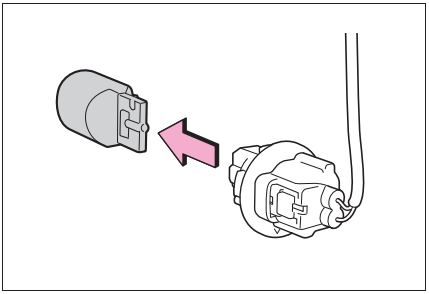
2 ボルト（2 本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



3 ソケットをまわして取りはずす



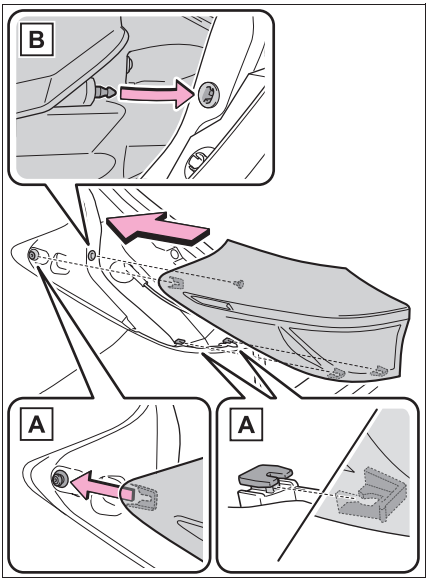
4 電球を取りはずす



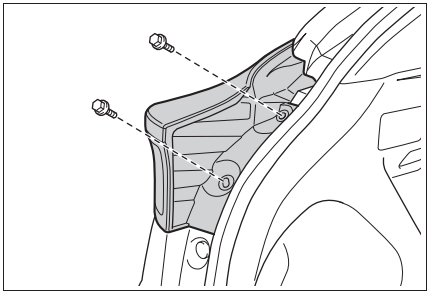
5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

6 ランプ本体を取り付ける

外側と下側のツメ A とクリップを合わせてからピン B を合わせて取り付けてください。



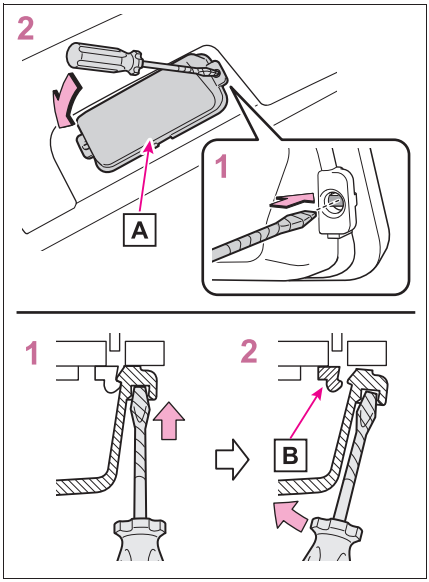
7 ボルト（2 本）を取り付ける



■ 番号灯

1 番号灯が見えるまでバックドアを開ける（→P.120）

2 レンズを取りはずす



1 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

2 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

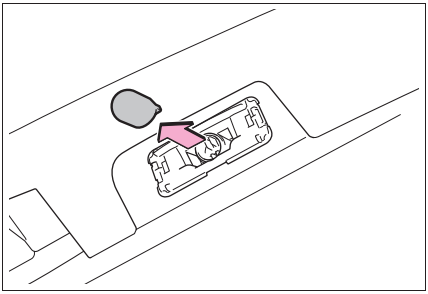
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナ

スドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。

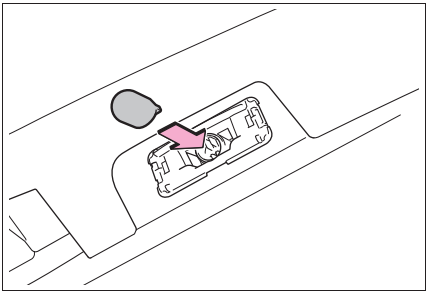
A レンズ

B かん合部

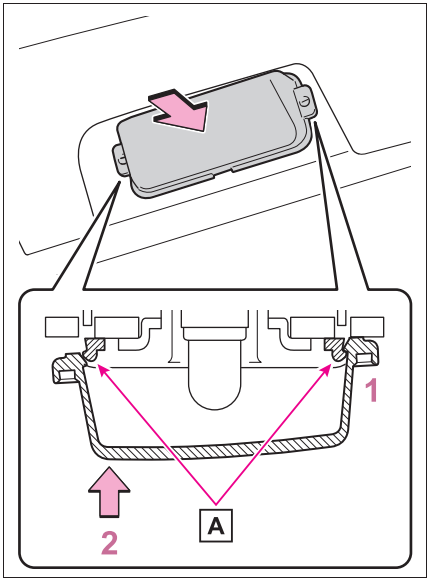
3 電球を取りはずす



4 新しい電球を取り付ける



5 レンズを取り付ける



1 レンズを左右どちらかのかん合部に引っかける

2 レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズを軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。

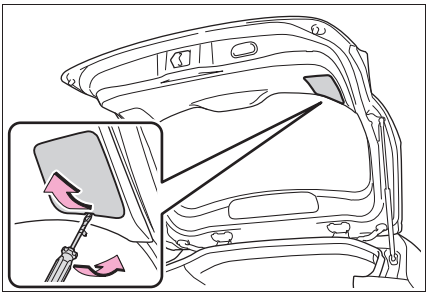
A かん合部

■ 後退灯（バルブタイプ）

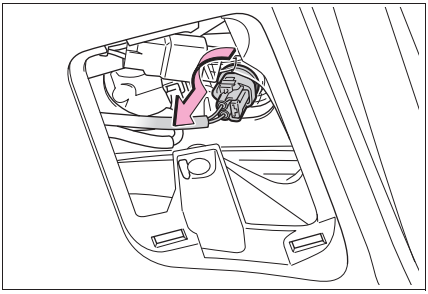
1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなど

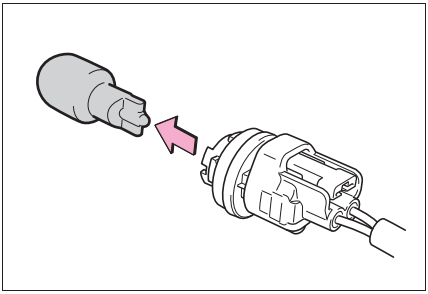
を巻いて保護してください。



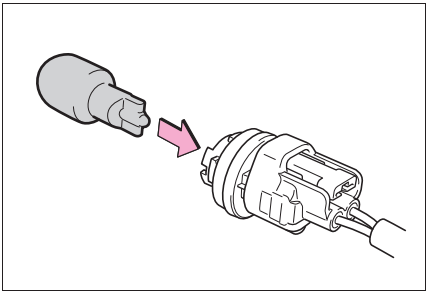
2 ソケットをまわして取りはずす



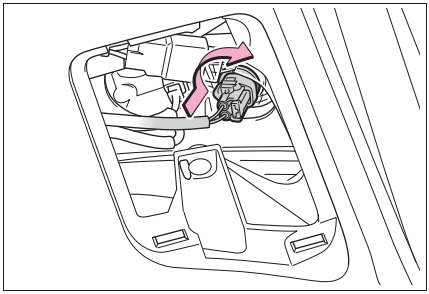
3 電球を取りはずす



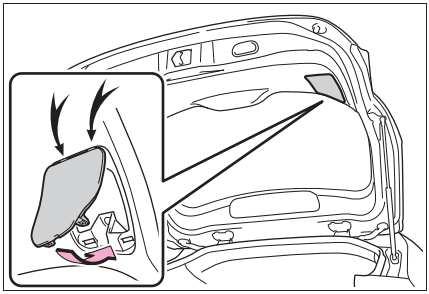
4 電球を交換し取り付ける



5 ソケットをまわして取り付ける



6 カバーを取り付ける



警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

警告

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 396
非常点滅灯（ハザードランプ）397
発炎筒..... 397
車両を緊急停止するには..... 398
水没・冠水したときは..... 399
車中泊が必要なときは..... 400

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 401
警告灯がついたときは..... 406
警告メッセージが表示されたときは 413
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 419
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 432
ハイブリッドシステムが始動できないときは 440
キーをなくしたときは..... 441
電子キーが正常に働かないときは 442
補機バッテリーがあがったときは 444
オーバーヒートしたときは..... 449
スタックしたときは..... 452

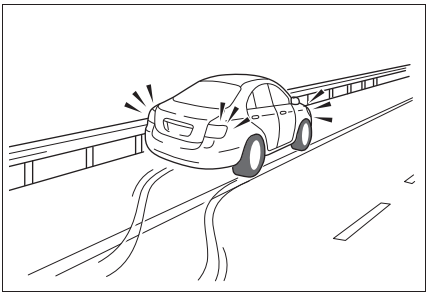
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.397）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



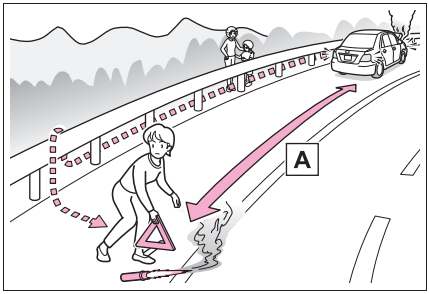
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.397）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

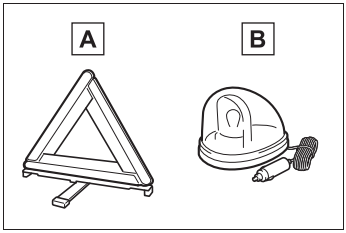


3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

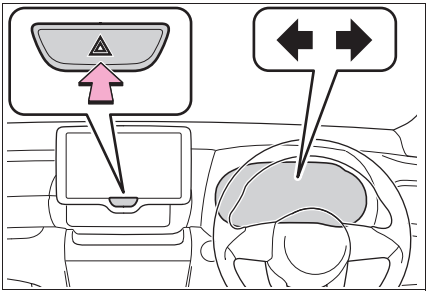
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READYインジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

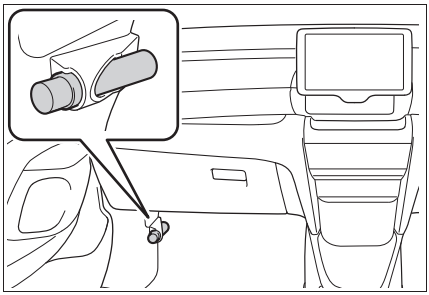
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

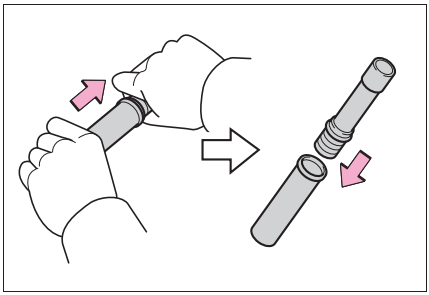
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



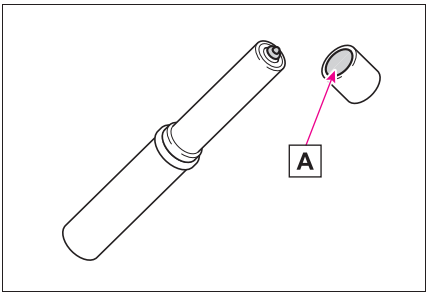
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

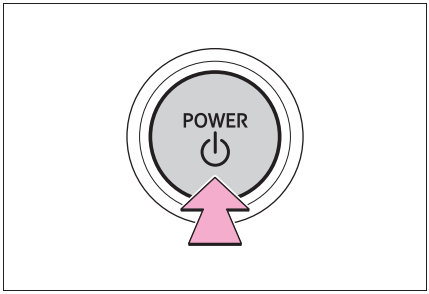
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

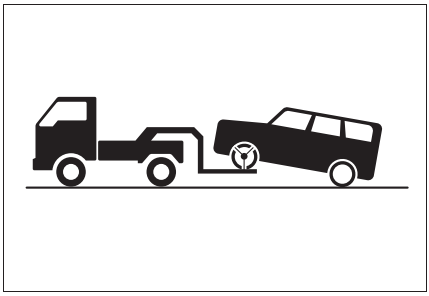
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

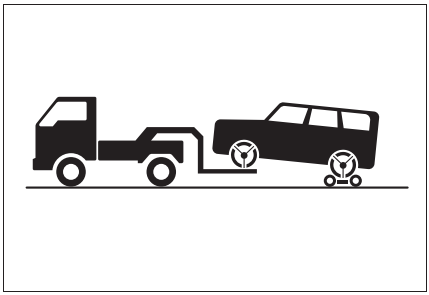
▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



パーキングブレーキを解除する

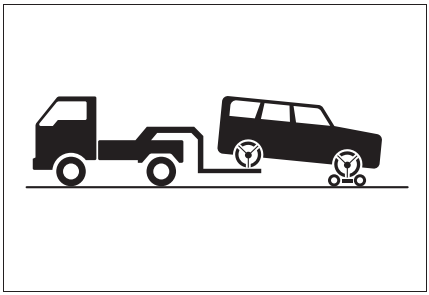
オートモードを OFF にしてください。（→P.176）

▶ 前向きにけん引するときは（AWD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

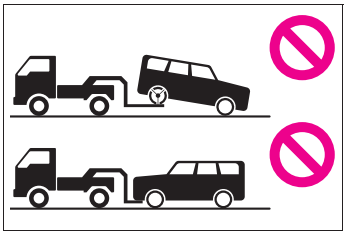
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

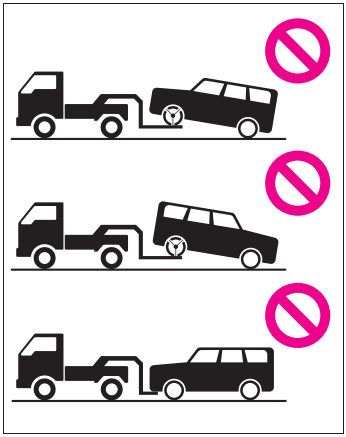
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶AWD 車

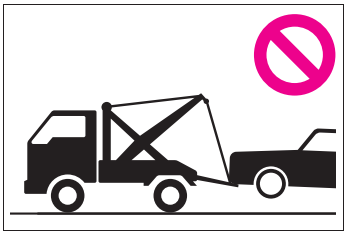
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



注意

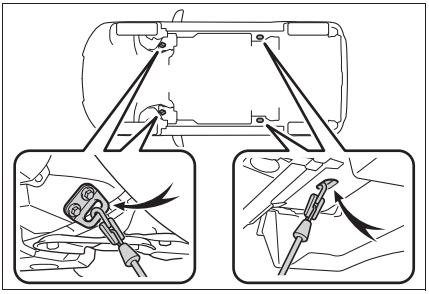
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

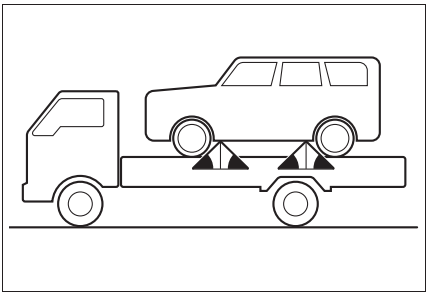


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

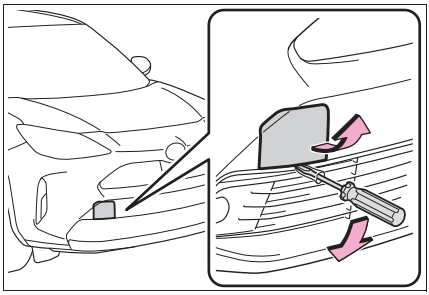
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.421，433）

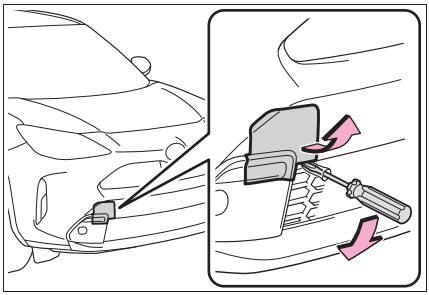
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

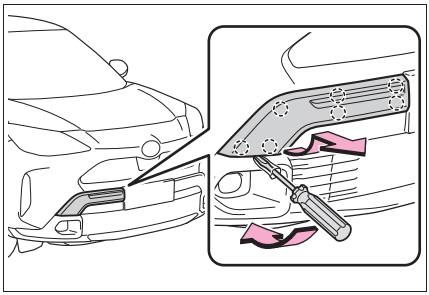
▶ 標準仕様



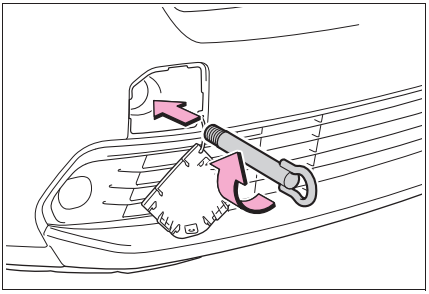
▶ GR SPORT 仕様



▶ Adventure 仕様



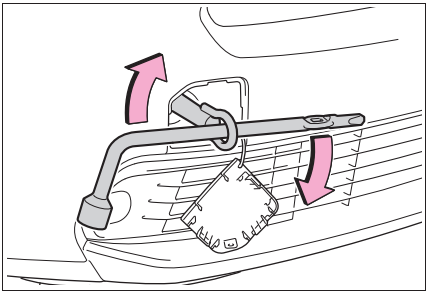
3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチ★※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができます。



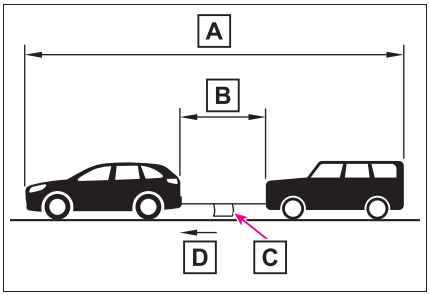
5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.176）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。
シフトレバーがシフトできないときは：→P.173

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチ★※ について

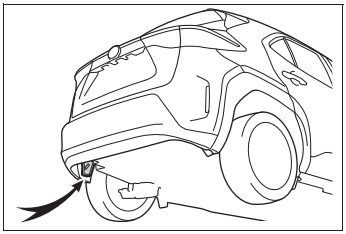
ラゲージルームに搭載されています。
(→P.421, 433)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.449）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 → **安全な場所に停車し、対処方法（→P.449）に従ってください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 5.4L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 **→ ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）★ ●BSM（ブラインドスポットモニター）★ ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ ●安心降車アシスト★ → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
P OFF	クリアランスソナーの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → **マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.417）**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ●トレイルモード★の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動し

ないことがあります。

■リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

●リヤドアを開閉すると約60秒間点灯します。

●いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約60秒後に消灯します。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABSまたはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.406）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ **“ エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください ” が表示されたときは**

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ **“ ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります ” が表示されたときは**

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ **“ ハイブリッドシステム 高温出力制限中です ” が表示されたときは**

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.449

■ **“駆動用電池保護が必要Nレンジの使用を控えてください ” が表示されたときは**

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ **“駆動用電池保護が必要Pレンジにして再始動してください ” が表示されたときは**

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ **“駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは**

シフトポジションが P 以外でパワース

イッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●RCD（リヤカメラディテクション）★

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

- AHB（オートマチックハイビーム）★
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 安心降車アシスト★
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止　取扱書を確認”が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LTA（レーントレーシングアシスト）

- AHB（オートマチックハイビーム）★
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- RSA（ロードサインアシスト）
- 発進遅れ告知機能
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
- 安心降車アシスト★
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- RCD（リヤカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。

・補機バッテリー電圧を確認する

・バックドアが開いていないか確認してください

・Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.201）

・BSM（ブラインドスポットモニター）★、RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★、安心降車アシスト★で使用するセンサー周辺のリヤバンパーに付

着物がないか確認し、あった場合は取り除いてください。（→P.248）

センサーが正しく作動していないおそれがあります。（→P.204, 251, 255, 259, 272, 280, 282, 284）

・クリアランスソナー、PKSB で使用するセンサーとカメラに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.253）

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方カメラ視界不良　取扱書を確認” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

・エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

・ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **“機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは**

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●RSA（ロードサインアシスト）

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります

・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー汚れ　汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.201）

・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外　常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LDA（レーンディパーチャーアラート）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●レーダークルーズコントロール

●発進遅れ告知機能

●PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.201）

・レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■ “ 機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認 ” が表示されたときは

次のいずれのシステムが停止しています。

● RCD（リヤカメラディテクション）★

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “ クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください ” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● レーダークルーズコントロール

● クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ “ アクセルを戻してください ” が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

● ドライブスタートコントロール（→P.162）

● プラスサポート★（→P.322）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● “ エンジン冷却水高温 ” が表示されたときは、対処方法（→P.449）に従ってください。

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ “ スマートエントリー＆スタートシステム故障 ”
・ “ ハイブリッドシステム故障 ”
・ “ エンジン系故障 ”
・ “ バッテリー系故障 ”
・ “ アクセル系故障 ”
・ “ ハイブリッドシステム停止 ” ※
・ “ エンジン停止 ” ※

※ ガス欠になっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は給油してください。（→P.196）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・ “ 故障のためブレーキ力が低下します ”
・ “ シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認 ”
・ “ 補機バッテリー充電システム異常 ”
・ “ エンジン油圧不足 ”

● “ 補機バッテリー（始動用）充電不足

”　が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。

・数秒後※に表示が消えたときは：
ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。

・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.444）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

● “ 駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認 ”　が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

・駆動用電池冷却用吸入口を清掃する（→P.378）

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■ “ 補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください ”　がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.419）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

● 地面が固く平らで安全な場所に移動する

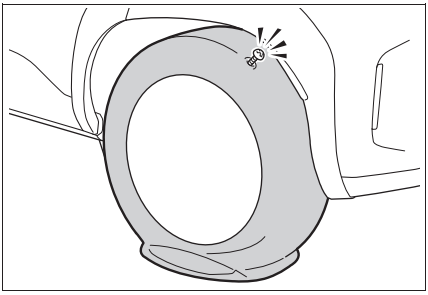
● パーキングブレーキをかける

● シフトレバーを P にする

- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.397）
- パワーバックドア装着車は設定を OFF にする（→P.129）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

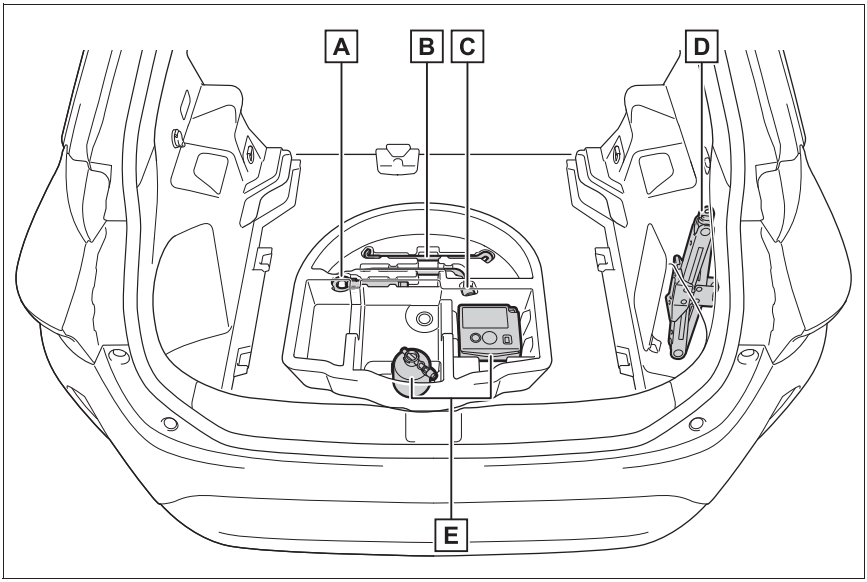
■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF 車



A けん引フック

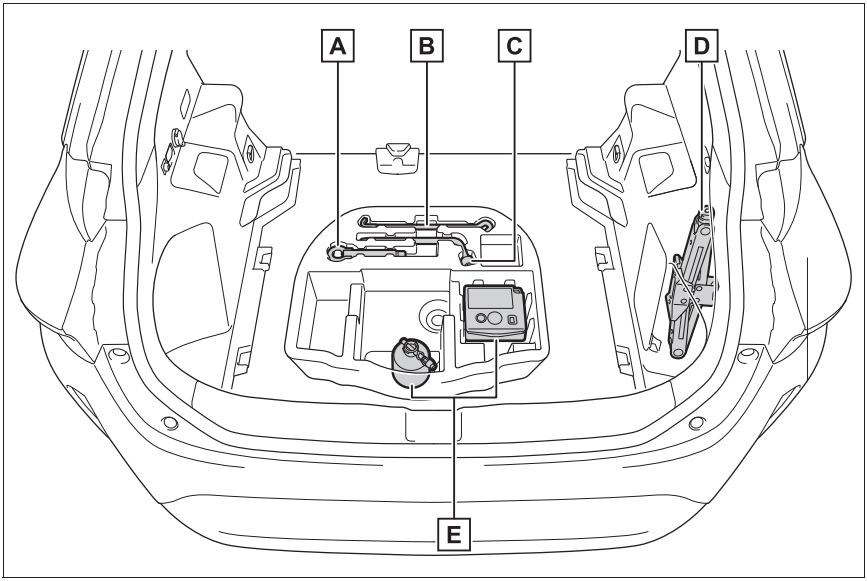
B ジャッキハンドル ※1

C ホイールナットレンチ ※1

D ジャッキ ※1, 2

E タイヤパンク応急修理キット

▶ FF 車（アクセサリーコンセント [AC100V・1500W] 装着車）



A けん引フック

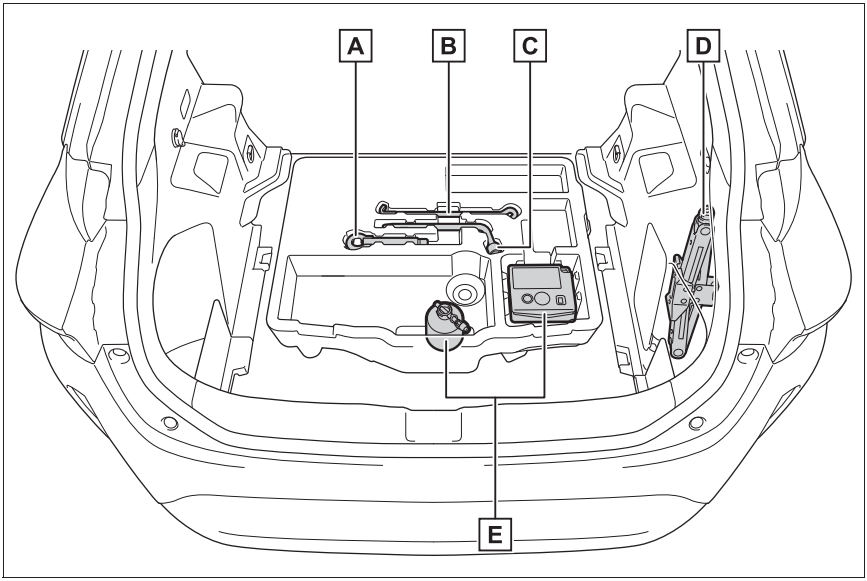
B ジャッキハンドル ※1

C ホイールナットレンチ ※1

D ジャッキ ※1, 2

E タイヤパンク応急修理キット

▶ AWD 車



A けん引フック

B ジャッキハンドル ※1

C ホイールナットレンチ ※1

D ジャッキ ※1, 2

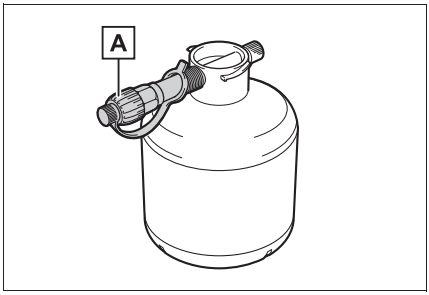
E タイヤパンク応急修理キット

※1 トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※2 ジャッキの使い方（→P.435）

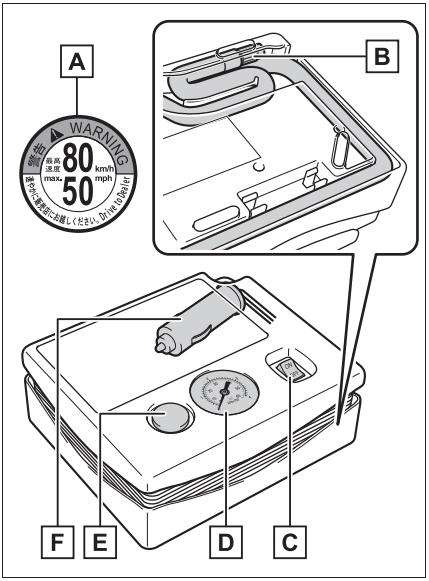
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル



A ノズル

▶ コンプレッサー



A 速度制限ラベル

B ホース

C 電源スイッチ

D 空気圧計

E 空気逃がしボタン

F 電源プラグ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

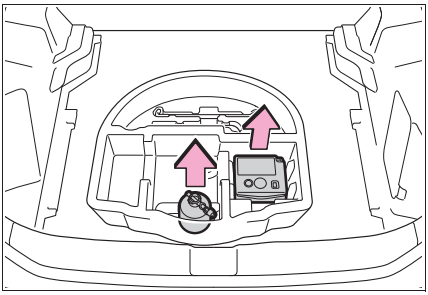
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

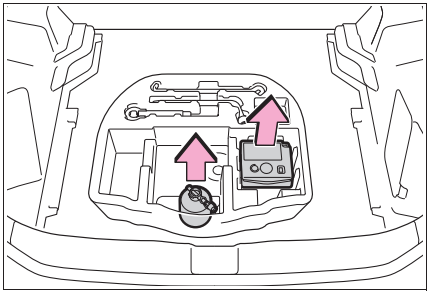
1 デッキボードとフロアカバーを持ち上げる（→P.344）

2 応急修理キットを取り出す（→P.421）

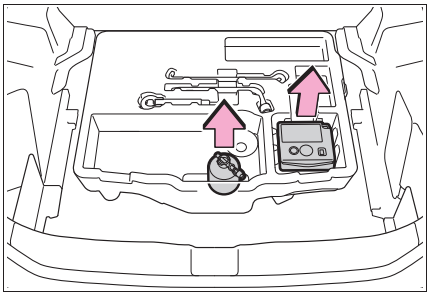
▶ FF 車



▶ FF 車（アクセサリーコンセント[AC100V・1500W] 装着車）

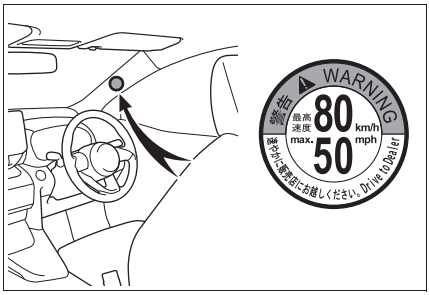


▶ AWD 車

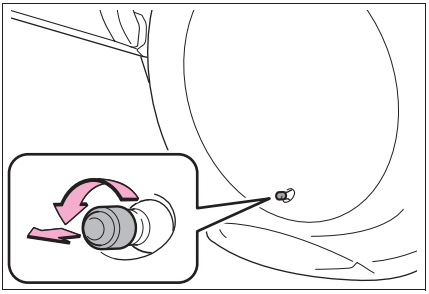


応急修理するときは

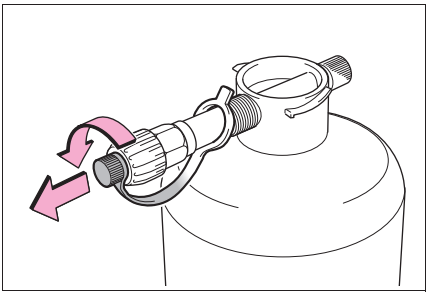
1 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける



2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



3 ノズルからキャップを取りはずす

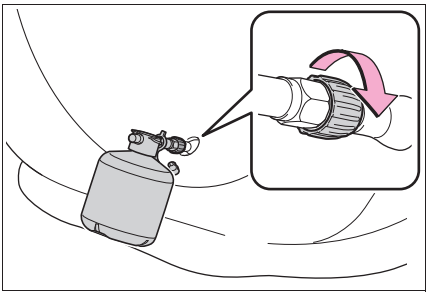


4 ノズルをパンクしたタイヤのバルブに接続する

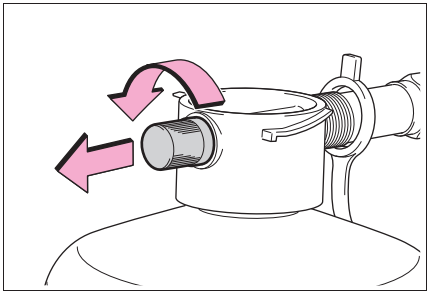
ノズル先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込む。

ボトルは垂直にぶら下がるように取り付け、地面と接触させない。

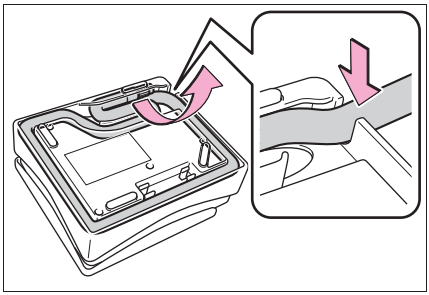
もし垂直にできない場合は、バルブの位置が適正になるように車両を移動させる。



5 ボトルのキャップをはずす

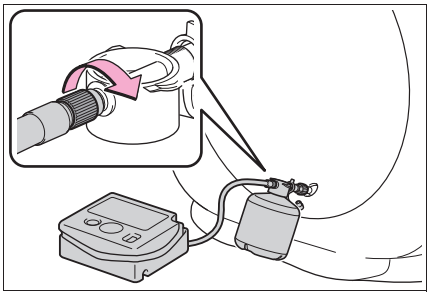


6 コンプレッサーからホースを取りはずす

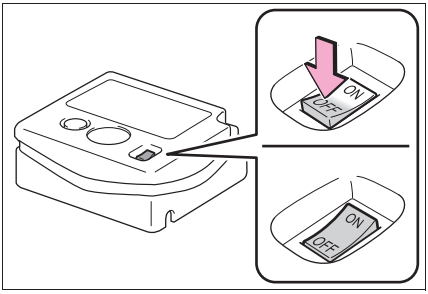


7 コンプレッサーのホースをボトルに取り付ける

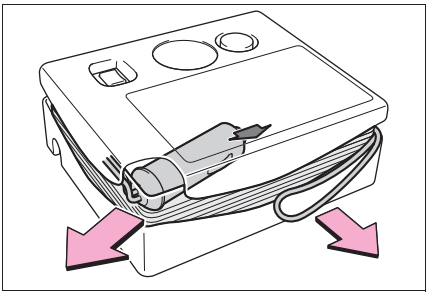
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



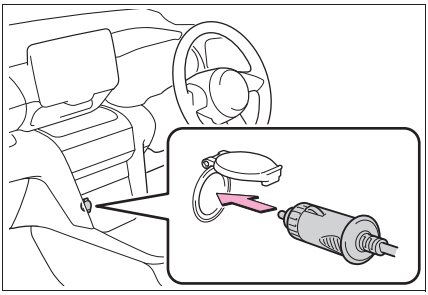
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーから電源プラグを取りはずす

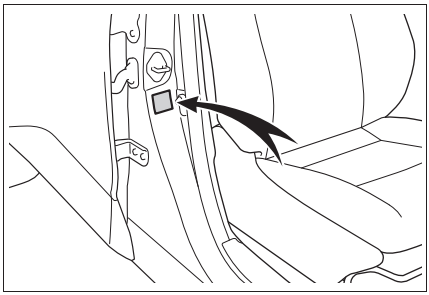


10 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.347）



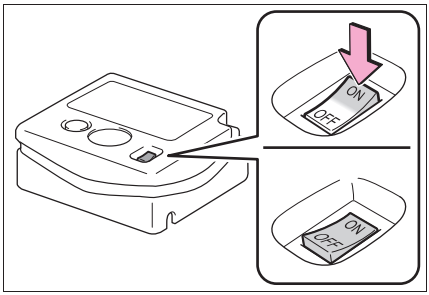
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.373）

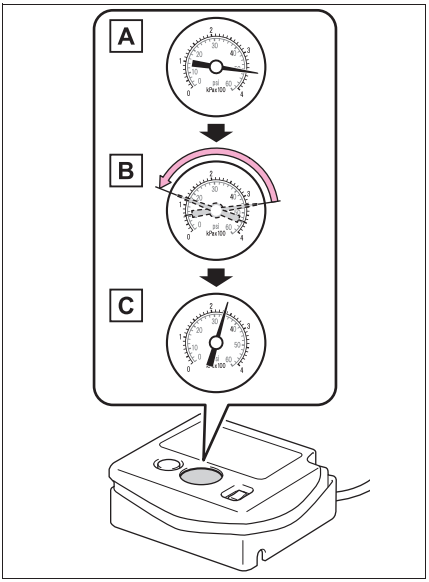


12 ハイブリッドシステムを始動する（→P.166）

13 コンプレッサーのスイッチをON にし、パンク補修液と空気を充填する



14空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

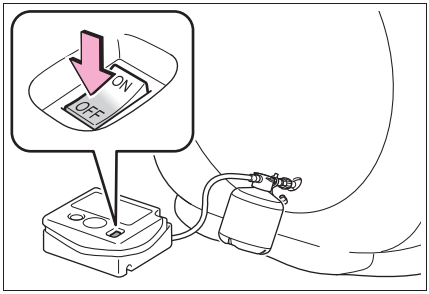
C 指定空気圧になるまで充填する

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

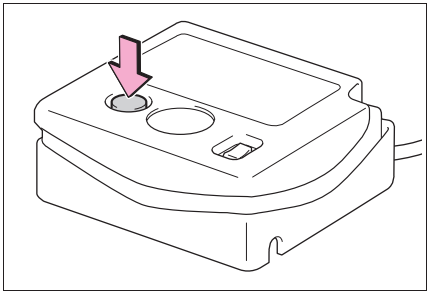
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.430, 460)

15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからノズルを取りはずす

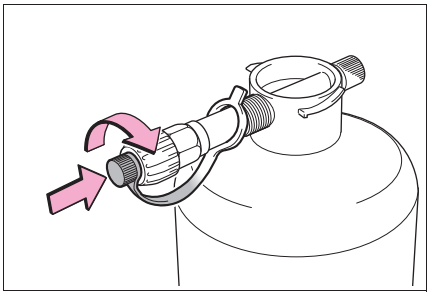
ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。



16空気圧逃がしボタンを押して、ボトル内部の圧力を抜く



17ノズルのキャップを取り付ける

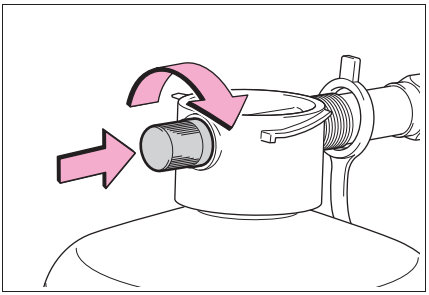


18パンクしたタイヤのバルブキャップを取り付ける

19ホースをボトルから取りはずし、ボトルのキャップを取り付ける

キャップを取り付けないとパンク補修液

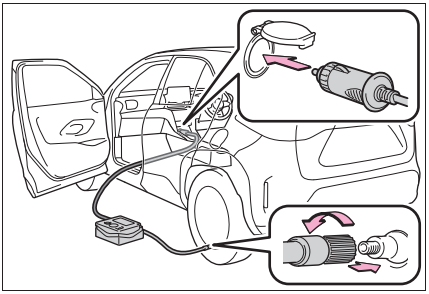
がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



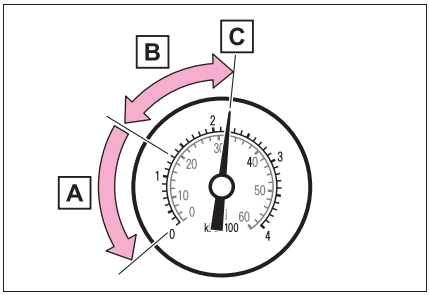
20 いったん、ボトルとコンプレッサーをラゲージルームに収納する

21 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

22 走行後、平坦な場所に停車して再度、コンプレッサーを接続する



23 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**24**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.460）の場合：手順**25**へ

24 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**22**から実施する

25 コンプレッサーをラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

26 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下

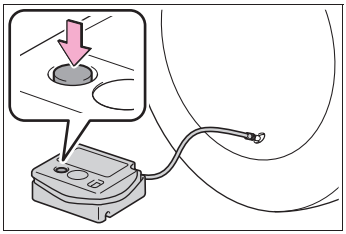
の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 空気圧逃がしボタンを押して空気を抜く



2 コンプレッサーのスイッチを数秒間ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

警告

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●破裂や修理剤が漏れるおそれがあるため、ボトルを落下させたり、傷つけたりしないでください。
使用する前にボトルを目視で確認してください。ひびや傷、修理剤の漏れがあったり、衝撃を与えたボトルは使用しないでください。
その場合、すぐにボトルを交換してください。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

注意

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.373 を参照してください）

警告

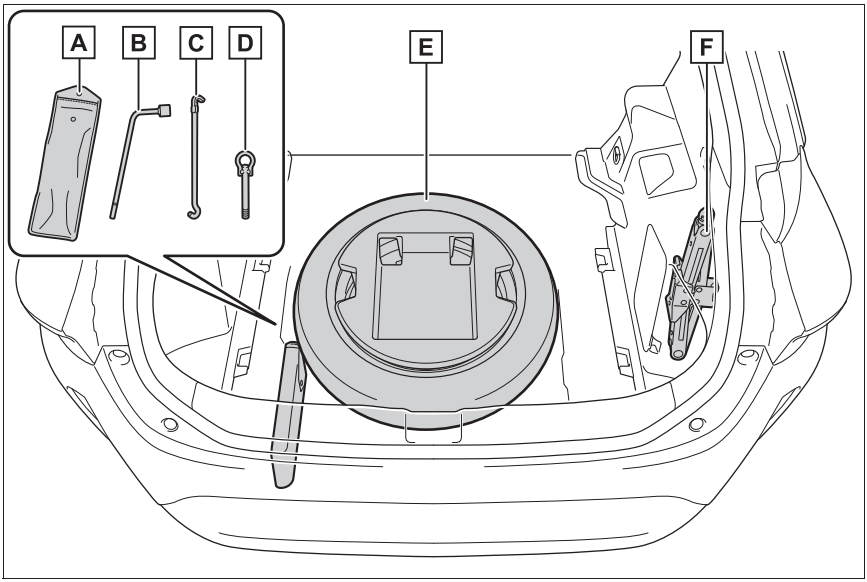
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.397）
- パワーバックドア装着車は設定を OFF にする（→P.129）

工具とジャッキの位置



A ツールバッグ

B ホイールナットレンチ

C ジャッキハンドル

D けん引フック

E 応急用タイヤ

F ジャッキ

警告

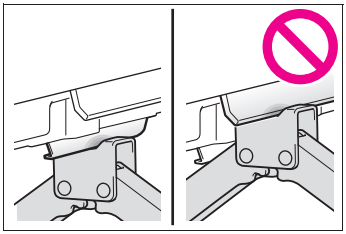
■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキはお客様の車専用のため他の車に使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない

警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける（→P.435）

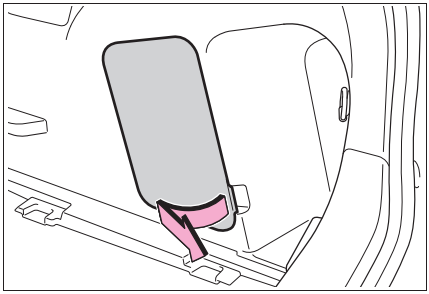


- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

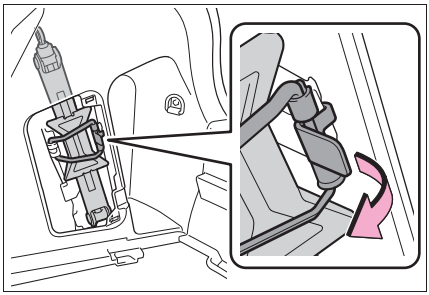
ジャッキの取り出し方

1 デッキボードとフロアカバーを持ち上げる（→P.344）

2 カバーをはずす



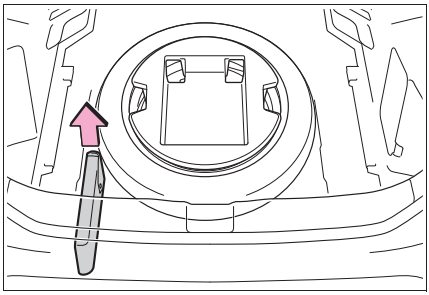
3 ゴムバンドをフックからはずし、ジャッキを取りはずす



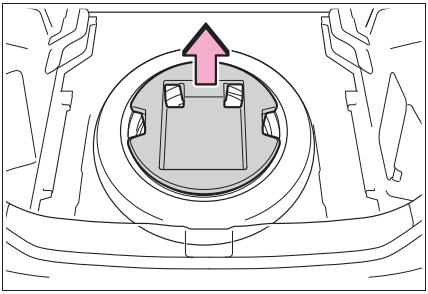
応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードとフロアカバーを持ち上げる（→P.344）

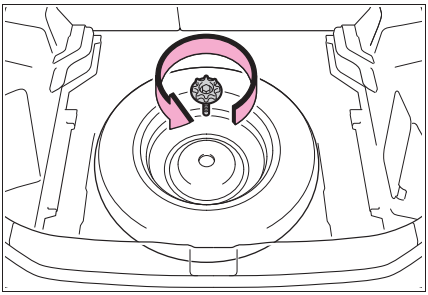
2 ツールバッグを取りはずす



3 クッションを取りはずす



4 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す



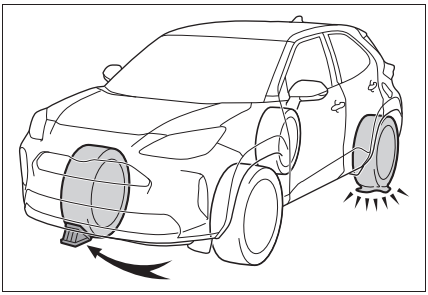
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

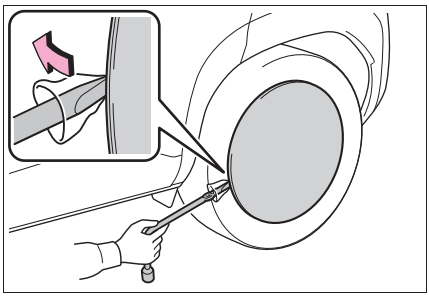


パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

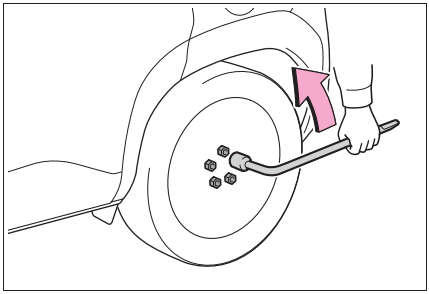
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

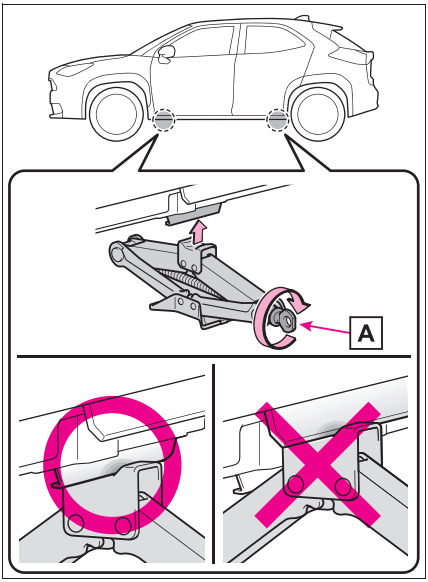


3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

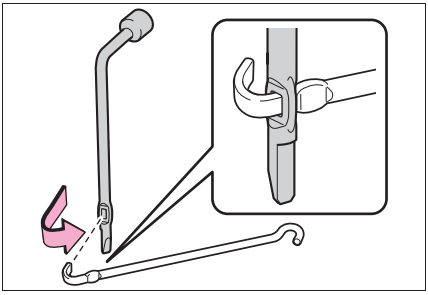


4 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あた

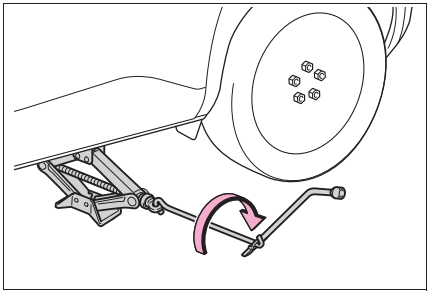
りに軽くあたるまで、ジャッキの A 部を手でまわす



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

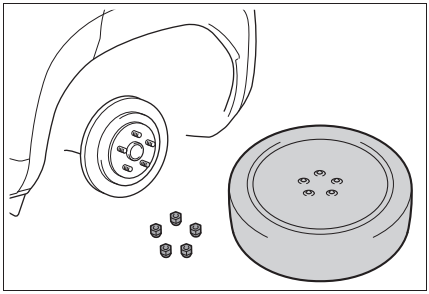


6 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



7 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

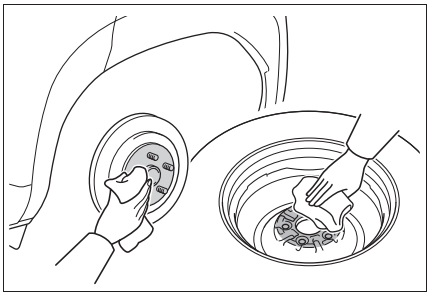
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.129）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤの取り付け

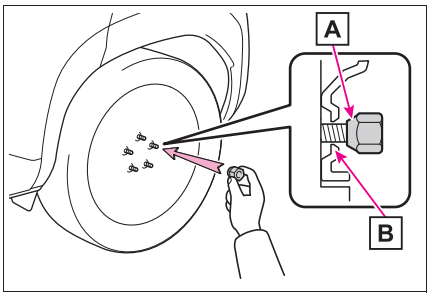
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

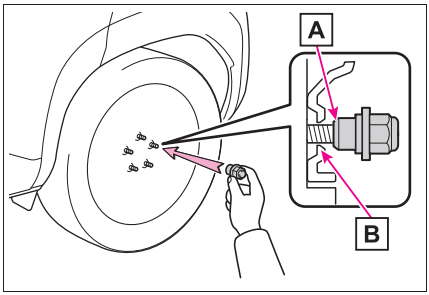


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

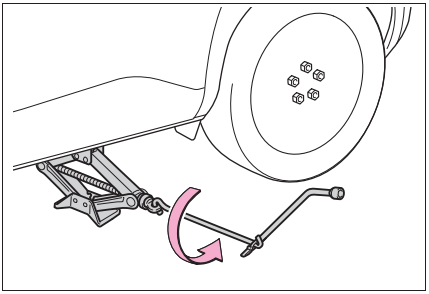
スチールホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす



アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき：ナットのテーパー部Aがホイールのシート部Bに軽くあたるまでまわす

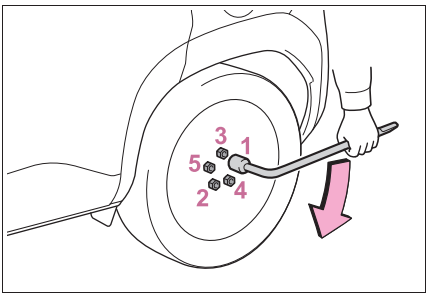


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P.460）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

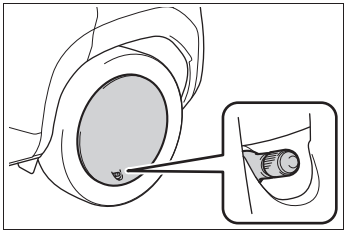
1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ホイールキャップを取り付ける時は（スチールホイール装着車）

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けてください。



警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC

警告

- AHB（オートマチックハイビーム）★
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- レーダークルーズコントロール
- TRC
- EPS
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- クリアランスソナー
- RSA（ロードサインアシスト）
- 安心降車アシスト★
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- ダウンヒルアシストコントロールシステム（AWD 車）

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- E-Four（電気式 AWD システム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.166）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.442）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.80）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.440）
- 外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（→P.76）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.444）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.444）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.175）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. パワースイッチを ACC※1 にする※2
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられま

す。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※1カスタマイズメニューから ACC の ON/OFF を切りかえることができます。（→P.466）

※2ACC モードを「なし」に設定している場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に手順**4**を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.131）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■**電子キーが正常に働かないときは**

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.465）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.131）

●電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.131）

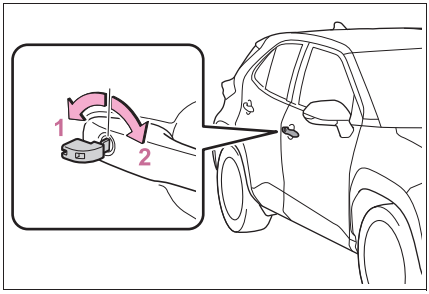
注意

■**スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

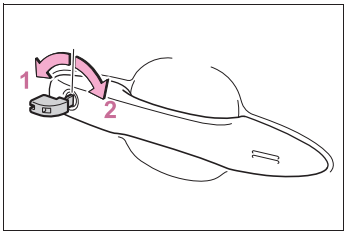
メカニカルキー（→P.110）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア解錠
2 全ドア施錠

知識

■**キー連動機能**



1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

警告

■**メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

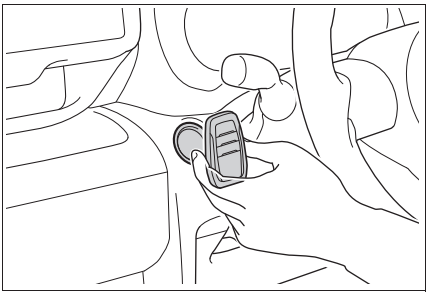
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのスイッチ面の背面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.381）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.81）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.168）

補機バッテリーがあがったときは

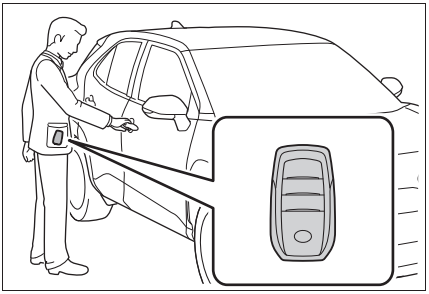
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

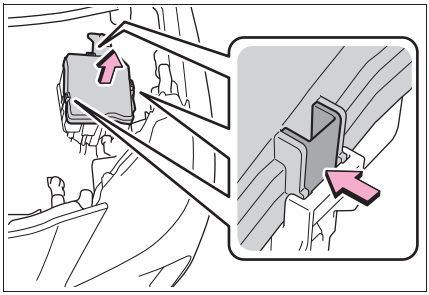
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

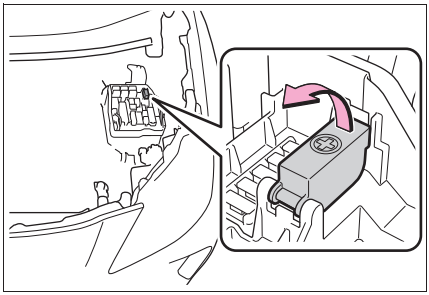
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.82）



2 ボンネットを開けて（→P.370）、ヒューズボックスのカバーをはずす

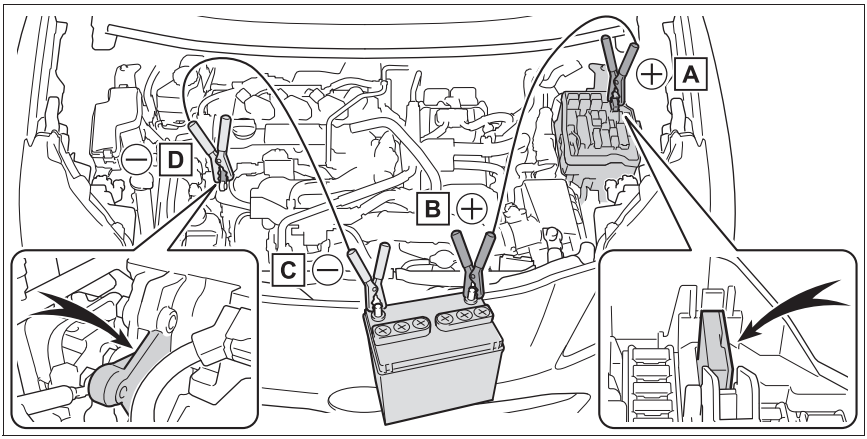


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。（ハイブリッドシステムによるエンジン停止中を除く）

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.474）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.370

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN0）、20 時間率容量（20HR）が同等（35Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（240A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化やハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

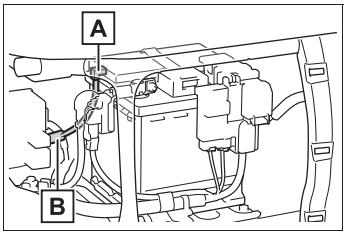
●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・エルボが排気ホースと補機バッテリーの排気穴に確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓が接続しない排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

●詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。



A 排気穴

B 排気ホース

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近付けない

警告

■補機バッテリーのマイナス端子について

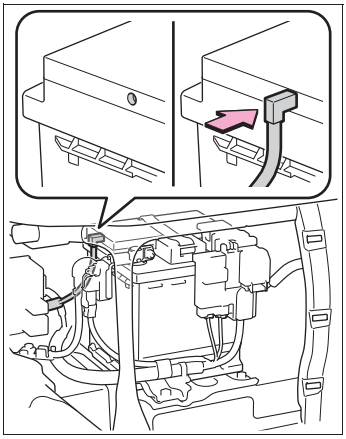
ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.88）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

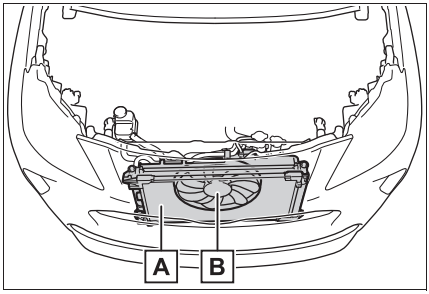
対処方法

▶ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



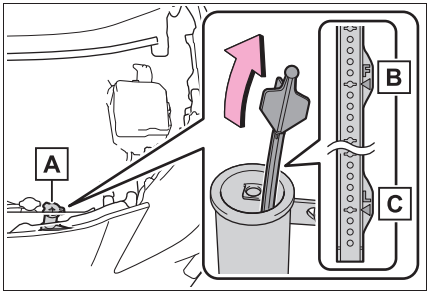
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がゲージの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

冷却水の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、冷却水の残量を判断します。



A リザーバータンク

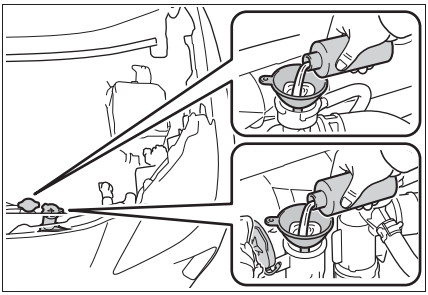
B “F”（上限）

C “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

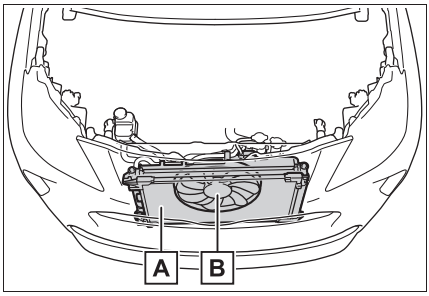
7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに “ ハイブリッドシステム 高温出力制限中です ” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

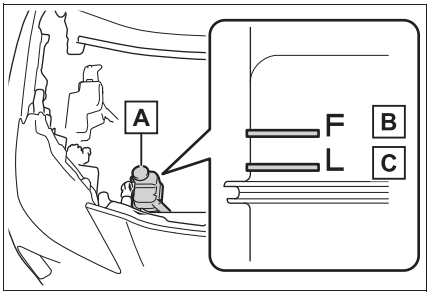


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “F” （上限）と “L” （下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

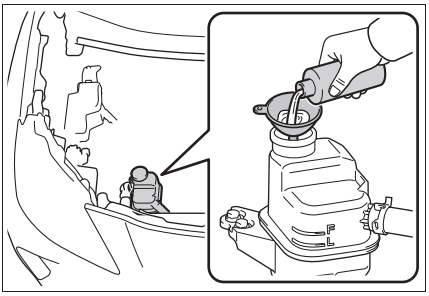
B “F” （上限）

C “L” （下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから５分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する
表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する
表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

●ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにして、ハイブリッドシステムを停止する

シフトポジションをＰにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 前輪周辺の土や雪などを取り除く

3 前輪の下に木や石などをあてがう

4 ハイブリッドシステムを再始動する

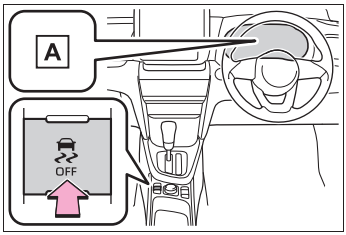
5 シフトレバーを確実にＤまたはＲにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

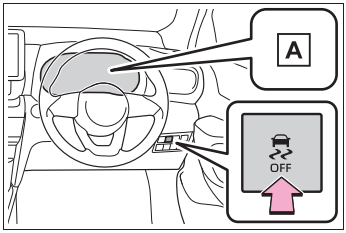
OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

▶アドバンストパーク非装着車



A “TRC OFF しました ”

▶アドバンストパーク装着車



A “TRC OFF しました ”

■トレイルモード（AWD 車）

→P.309

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 456

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 462

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 474

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	36

※ エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.2	3.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってく

ださい。

■ 指定エンジンオイル

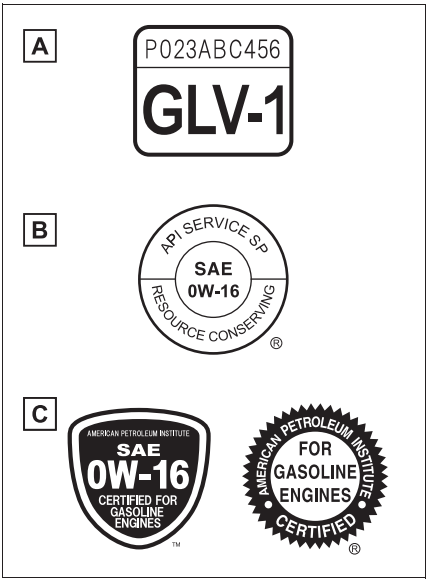
JASO GLV-1 規格に合致したオイルをご使用ください。JASO GLV-1 0W-8 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性を発揮できます。

JASO GLV-1、SAE 0W-8 が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。

0W-16：API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6B

0W-20、5W-30：API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6A

なお、JASO 規格合格油の缶には JASO GLV-1 マークがついています。



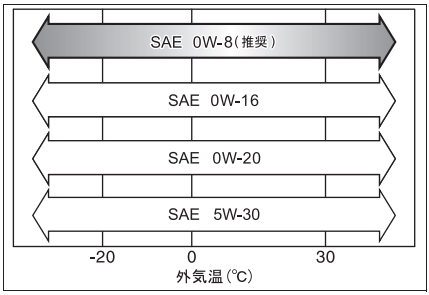
A JASO GLV-1 マーク

B API マーク

C ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-8 で説明します）：

- 0W-8 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-8 の 8 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	ガソリンエンジン	4.8
	パワーコントロールユニット	1.6

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	2.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター［AWD 車のみ］）

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

注意

■リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	100

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.84, 406 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
1.8※1 2.3※2

※1寒冷地仕様車を除く

※2寒冷地仕様車

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	205/65R 16 95H	16 × 6 1/2J	230 (2.3)	220 (2.2)
	215/50R 18 92V	18 × 7J	220 (2.2)	200 (2.0)
	215/50R 18 92V	18 × 7 1/2J	220 (2.2)	200 (2.0)
応急用タイヤ★	T145/90D16 106M	16 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m（kgf・cm）]	
標準タイヤ	103N・m（1050kgf・cm）
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）（バルブタイプ：HIR2）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示兼非常点滅灯（バルブタイプ）	21
	後退灯（バルブタイプ）	16
	番号灯	5
車内	リヤインテリアランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
		フロント	リヤ	
MXPJ10	M15A-FXE（1.5L ガソリン）	1NM	ー	FF（前輪駆動）
MXPJ15			1MM	AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアシステムの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ **マルチメディア画面で設定するには**

1 メインメニューの⚙をタッチし、“車両カスタマイズ”を選択する

2 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

3 機能の作動内容を選択する

■ **マルチインフォメーションディスプレイで設定するには**

1 メーター操作スイッチの∧／∨を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの＜／＞を押して変更する項目を選択する

3 ON/OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる

4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、⮌スイッチを押します。

知識

■ **カスタマイズ設定を行うとき**

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■ **カスタマイズ設定を行うとき**

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **カスタマイズを行うときは**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

B マルチメディアシステムで設定可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ 先読みエコドライブ★（→P.73）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先読みエコドライブ	する	しない	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラーム（→P.81）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.92）

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	○	—	—
単位	km/L	L/100km	○	—	—
メーターデザイン	Smart	Casual	○	—	—
		Sporty			
メータータイプ	HV インジケーター	タコメーター	○	—	—
		シンプルメーター			
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	○	—	—
エコアクセルガイド	表示	非表示	○	—	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	○	—	—
		給油後平均燃費			
オーディオシステム連携表示★	あり	なし	○	—	—
エネルギーモニター	表示	非表示	○	—	—

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
AWD（トルク配分表示）★	表示	非表示	○	—	—
ドライブインフォ項目 / TRIP 項目（1 行目）	走行距離	平均車速	○	—	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目 / TRIP 項目（2 行目）	走行時間	平均車速	○	—	—
		走行距離			
割り込み表示	あり	なし	○	—	—

※ 機能についての詳しい説明は P.97 を参照してください

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.99）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	あり	なし	○	—	—
タコメーター切りかえ	タコメーター	ハイブリッドシステムインジケーター	○	—	—
		表示なし			
運転支援システム表示	あり	なし	○	—	—
ナビゲーション表示★	あり	なし	○	—	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.114, 130）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.114, 119, 130）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○
降車オートロック機能	なし	あり	—	—	○
接近時オートアンロック機能	なし	あり	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.109, 114）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○

■ パワーバックドア★（→P.129）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
パワーバックドア機能	あり	なし	○	—	—
パワーバックドア開度調整	開度 5	開度 1 ～ 4	○	—	—
		ユーザー設定	○	—	—
ブザー音量	大	小	○	—	—
		中			
キックセンサー作動	あり	なし	○	—	—
キックセンサ感度調整	+1	+0	—	—	○
		+2			
キックセンサ作動確認ブザー	あり	なし	—	—	○
ワイヤレスリモコンのバックドア解除ボタン操作（施錠時ボタン 1 回操作アンロック）	なし	あり	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→P.149）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

■ パワースイッチ（→P.166）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC モード	あり／なし	—	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウインドウ（→P.151）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○
窓開警告制御	あり	なし	—	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.181）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	より暗い	より明るい	○	—	○
		明るい			
		標準			
		暗い			
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
ライトリマインダー	あり	なし	—	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	パワースイッチと連動	運転席ドアと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ ランプ（→P.182, 183）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
LED デイタイムランニングランプ	あり	なし	—	—	○
おむかえ照明機能の制御★	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→P.186）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり／なし	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	15 ㎞ /h ／ 30 ㎞ /h ／ 40 ㎞ /h	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり／なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり／なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり／なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり／なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ オートマチックハイビームとして作動します。（→P.189）

■ ヘッドランプ点灯延長機能（→P.184）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ヘッドライトが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		90 秒			
		120 秒			

■ リヤワイパー（→P.194）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
バックドアを開けたときのリヤワイパー作動	あり	なし	—	—	○
ウォッシャー液を出したときのリヤワイパー作動	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
シフトレバーをRにしたときのときのリヤワイパー作動	1回作動	なし	—	—	○
		連続作動			

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.206）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	ON/OFF	○	—	—
警報タイミング	遅い／標準／早い	○	—	—

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.219）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーンディパーチャーアラート	ON/OFF	○	—	—
警報タイミング	標準／早い	○	—	—
警報手段	ハンドル振動／ブザー	○	—	—
低車速支援	ON/OFF	○	—	—

■ 休憩提案（→P.219）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	ON/OFF	○	—	—

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.224）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）	ON/OFF	○	—	—
支援感度	低い／中間／高い	○	—	—
操舵アシスト（SA）	ON/OFF	○	—	—
減速アシスト（DA）	ON/OFF	○	—	—
障害物先読みアシスト（OAA）	ON/OFF	○	—	—

■ 発進遅れ告知機能（→P.229）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車	ON/OFF	○	—	—
信号	ON/OFF	○	—	—
告知タイミング	早い／標準／遅い	○	—	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.231）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト	ON/OFF	○	—	—
速度標識超過告知方法	無／表示／表示とブザー	○	—	—
その他の告知方法	無／表示／表示とブザー	○	—	—
速度超過告知車速	10 km/h ／ 5 km/h ／ 2 km/h	○	—	—

■ レーダークルーズコントロール（→P.234）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定	強／中／弱	○	—	—
速度設定（短押し）	1 km/h ／ 5 km/h ／ 10 km/h	○	—	—
速度設定（長押し）	1 km/h ／ 5 km/h ／ 10 km/h	○	—	—
ガイド文言表示	ON/OFF	○	—	—
カーブ速度抑制	強／中／弱／ OFF	○	—	—

■ ドライブスタートコントロール（→P.162）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	○	—	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

■ リヤシートリマインダー（→P.116）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後席置き忘れ防止の表示	あり	なし	○	—	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.247）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり／なし	○	—	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	暗い／明るい	○	—	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	遅い／標準／早い	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 安心降車アシスト★（→P.252）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	On/Off	○	—	—
ドアミラーインジケーター表示	あり／なし	○	—	—
接近車両検知の感度	低い／中間／高い	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー（→P.256）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり／なし	○	—	—
ブザー音量	レベル 1 ／レベル 2 ／レベル 3	○	—	—

※ クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.265）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	On/Off	○	—	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※	レベル 1 ／レベル 2 ／レベル 3	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.270）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCD（リヤカメラディテクション）機能	ON/OFF	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.273）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	ON/OFF	○	—	—

■ トヨタチームメイトアドバンストパーク★（→P.285）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
音声案内	あり	なし	—	○	—
速度モード	標準	遅め	—	○	—
		速め			
障害物回避距離	標準	遠い	—	○	—
優先駐車方法	並列	縦列	—	○	—
優先駐車向き	バック	前向き	—	○	—
優先出庫方向（並列）	左	右	—	○	—
優先出庫方向（縦列）	右	左	—	○	—
駐車時の映像	ノーマル	ワイド	—	○	—
出庫時の映像	ワイド	ノーマル	—	○	—
駐車進路調整	0（中央）	-3（内側）～ +3（外側）	—	○	—
道幅調整	標準	やや狭い	—	○	—
		狭い	—	○	—
駐車位置調整（前向き）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	—	○	—
駐車位置調整（バック）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	—	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後部取付部品設定	取付なし	10cm	—	○	—
		20cm			
		30cm			
		40cm			
登録した場所の消去	—	—	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→P.332）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○	○

■ イルミネーション（→P.339）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
センターコンソール照明★、ドアトリム照明★、車室内足元照明★の点灯	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先読みエコドライブ★（→P.73）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
先読みエコドライブ	する	しない	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し始めた

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア★	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P.126
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P.151

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 476
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 478
アルファベット順さくいん..... 480
五十音順さくいん 482

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.441）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.441）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.381）
- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.168）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.131）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.117）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.166）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.172）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.130）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.443）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.444）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON になって

いますか？

パワースイッチが ON でブレーキを踏んでも解除できないときは（→P.173）を参照してください。

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.153）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.169）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.478）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.406、413 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.419）
- 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.432）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.452）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.81
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P.172
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.81
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.381
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.115
	電子キーを車内に置き忘れている	P.131

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する、またはハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.117
	パーキングブレーキが解除されていない	P.177
	シートベルトを着用していない※	P.408, 409
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.160
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.234
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.206
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.216
	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.219

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.231
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.229
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.245
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.256
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.265

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....332
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....313
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
.....314
AHB
（オートマチックハイビーム）..189
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
.....186
AWD
（オールホイールドライブ）.....461
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....247
DAC
（ダウンヒルアシストコントロールシステム）.....311
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）.....313
EDR
（イベントデータレコーダー）.....9
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....314
EV
（エレクトリックビークル）.....170
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....461
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）.....99
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....457
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....40
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....181
LDA
（レーンディパーチャーアラート）
.....219
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....215
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..206
PDA
（プロアクティブドライビングアシスト）.....224
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....273
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....265
RSA
（ロードサインアシスト）.....231
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）313
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....32
Toyota Safety Sense 200
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....219
LTA（レーントレーシングアシスト）.....215
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....206
RSA（ロードサインアシスト）231

AHB（オートマチックハイビーム）
.....189
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....186
発進遅れ告知機能 229
ドライバー異常時対応システム
.....245
レーダークルーズコントロール
.....234
クルーズコントロール.....242
ソフトウェアアップデートを確認する 198

TRC
（トラクションコントロール）314, 452

VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....313

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....444
IR カットガラス.....367
アウターミラー（ドアミラー）
　安心降車アシスト.....252
　格納のしかた.....150
　操作.....149
　ブラインドスポットモニター（BSM）247
　ミラーヒーター.....333
　リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....265
アクセサリーコンセント.....351
　使用できないときは.....359
アクセサリーソケット.....347
アクセサリーモード.....168
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....314
アシストグリップ.....349
アダプティブハイビームシステム...186
アラーム
　オートアラーム.....81
　音さくいん.....478
　警告ブザー.....406
安心降車アシスト.....252
　操作.....253
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....313
　警告灯.....407
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）.....130

い

イージークローザー（バックドア）.123
EV ドライブモード.....170
E-Four（電気式 AWD システム）....314
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）
　自動電源 OFF 機能.....169
　車両を緊急停止するには.....398
　ハイブリッドシステム始動のしかた...166
　モードの切りかえ.....168
位置交換（タイヤローテーション）.375
イベントデータレコーダー（EDR).....9
イモビライザーシステム.....80
イルミネーテッドエントリーシステム.....340
インジケーター（表示灯）.....85
インテリアランプ.....339
　ワット数.....460
インナーミラー.....148

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 388
方向指示レバー 174
ワット数 460
ウインドウ
ウォッシャー 193
パワーウインドウ 151
リヤウインドウデフォッガー 333
ウインドウロックスイッチ 153
ウォッシャー
液の補給 373
スイッチ（フロント） 193
スイッチ（リヤ） 194
タンク容量 459
冬の前の準備・点検 327
フロント 193
リヤ 194
動けなくなったときは（スタック） 452
運転
雨の日の運転 158
運転を補助する装置 313
寒冷時の運転 327
正しい運転姿勢 27
手順 157
ハイブリッド車運転のアドバイス 325
運転支援機能情報表示 95
運転席シートベルト非着用警告灯 408

え

エアコン
オートエアコン 332
曇り取り（フロントガラス） 333
「ナノイー」 334
フィルターの清掃 376
エアコン・デフォッガー 332
エアバッグ 32
SRS エアバッグ警告灯 407
改造・廃棄 37
警告ブザー 407
作動条件 33
正しい姿勢 27
エコアクセルガイド 94
エコジャッジ 94
エネルギーモニター 103
LED デイタイムランニングランプ 182
エレクトリックパワーステアリング（EPS） 314
警告灯 408
エンジン
イモビライザーシステム 80
オーバーヒート 449
緊急時の停止方法 398
タコメーター 102
ハイブリッドシステムが始動できない 440
ハイブリッドシステムの始動方法 166
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ） 166
ボンネット 370

エンジンオイル 456
警告灯 407
冬の前の準備・点検 327
メンテナンスデータ 456
容量 456
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
自動電源 OFF 機能 169
車両を緊急停止するには 398
ハイブリッドシステム始動のしかた ... 166
モードの切りかえ 168
エンジンフード（ボンネット）..... 370
開け方 370
エンジンルーム 370
エンジンルームから蒸気が出ている ... 449

お

オイル（エンジンオイル）..... 456
応急用タイヤ 432
空気圧 460
交換方法 432
オートアラーム 81
オートエアコン 332
オートマチックハイビーム（AHB）189
オーバーヒート 449
オープナー
給油扉 197
バックドア 120, 121
ボンネット 370
お子さまを乗せるとき 39
ウインドウロックスイッチ 153
お子さまの安全のために 39
キーの電池 382
シートヒーターに関する警告 337
シートベルトの着用 29, 30
チャイルドシート 40
チャイルドシートの取り付け 40
チャイルドプロテクター 117
発炎筒の取り扱いに関する警告 398
バッテリーに関する警告 447
パワーウインドウに関する警告 152

か

カーテンシールドエアバッグ 32
カードホルダー 343
カーペット
洗浄 367
フロアマットの取り付け方 26
外気温度表示 88, 103
回生ブレーキ 72
外装の電球（バルブ）..... 387
交換要領 387
ワット数 460
買い物フック 344
ガス欠になったとき 76
カスタマイズ機能 462
型式 461

カップホルダー 342
カメラ
前方カメラ 201
トヨタチームメイト アドバンストパーク 288
白線認識用カメラ（LTA）..... 215
白線認識用カメラ（LDA）..... 219
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... 333
ガレージジャッキ 372
冠水路走行 162
寒冷時の運転 327

き

キー 108
キーナンバープレート 108
キーの構成 108
キーレスエントリー 109, 130
キーをなくした 441
正常に働かない 442
施錠・解錠ができない 442
デジタルキー 111
電子キー 108
電池が切れた 381
ハイブリッドシステムが始動できない440
メカニカルキー 110
ワイヤレスリモコン 109
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 130
ワイヤレスドアロック 109
キックセンサー 122
給油
給油のしかた 196
メンテナンスデータ 456
緊急時シートベルト固定機構 30
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）..... 440
緊急時の対処
オーバーヒートした 449
キーの電池が切れた 381, 442
キーをなくした 441
警告灯がついた 406
警告メッセージが表示された 413
けん引 401
故障したときは 396
車中泊が必要なときは 400
車両を緊急停止する 398
水没・冠水したときは 399
スタックした 452
電子キーが正常に働かない 442
ハイブリッドシステムが始動できない440
発炎筒 397
パンクした 419, 432
補機バッテリーがあがった 444
緊急停止システム 78
緊急ブレーキシグナル 314

く

空気圧（タイヤ）.....460
メンテナンスデータ.....460
駆動用電池.....75
警告メッセージ.....78, 378
充電について.....72
清掃.....378
手入れ.....378
搭載位置.....75
冷却用吸入口.....78
曇り取り
フロントガラス.....333
ミラーヒーター.....333
リヤウインドウデフォッガー.....333
クラクション（ホーン）.....147
クリアランスソナー.....256
警告灯.....410
操作.....257
クリアランスランプ（車幅灯）.....181
スイッチ.....181
電球（バルブ）の交換.....388
クリップ
フロアマット.....26
クルーズコントロール.....242
レーダークルーズコントロール.....234
警告灯.....410
グローブボックス.....342

け

警音器（ホーン）.....147
計器類（メーター）.....88
警告灯.....84, 406
運転支援情報表示灯.....410
ABS ＆ブレーキアシスト.....407
SRS エアバッグ.....407
LTA 表示灯.....409
LDA 表示灯.....409
エンジン.....407
回生ブレーキ.....406
クリアランスソナー OFF 表示灯.....410
クルーズコントロール表示灯.....410
高水温.....406
シートベルト非着用.....408, 409
充電.....407
スリップ表示灯.....411
電子制御ブレーキシステム（ECB）....406
ドライブスタートコントロール.....408
燃料残量.....408
パーキングブレーキ表示灯.....411
ハイブリッドシステム過熱.....406
パワーステアリング.....408
PCS.....411
PDA 表示灯.....409
ブレーキ.....406
ブレーキオーバーライドシステム.....408
ブレーキホールド作動表示灯.....411
油圧.....407
レーダークルーズコントロール表示灯410
警告ブザー
SRS エアバッグ.....407
LDA（レーンディパーチャーアラート）
.....219
LDA（レーンディパーチャーアラート）
.....409
LTA（レーントレーシングアシスト）215,

409
エンジン 407
休憩提案機能（LDA） 221
クリアランスソナー 410
クルーズコントロール 410
高水温 406
シートベルト非着用 408, 409
衝突警報 206
接近警報（レーダークルーズコントロール） 239
低速時加速抑制 208
手放し運転警告（LTA） 216
手放し運転警告（LDA） 221
手放し運転警告（PDA） 228
ドライブスタートコントロール 408
パーキングブレーキ未解除走行時 177
ハイブリッドシステム 407
ハイブリッドシステム過熱 406
パワーステアリング 408
半ドア 115
半ドア走行時 117
PDA（プロアクティブドライビングアシスト） 409
プリクラッシュセーフティ 411
ブレーキ 406
ブレーキオーバーライドシステム 408
ブレーキホールド 411
油圧 407
リバース 172
リヤシートリマインダー 116
レーダークルーズコントロール 410
警告メッセージ 413
化粧ミラー（バニティミラー） 348

こ

交換
キーの電池 381
タイヤ 432
電球（バルブ） 387
ヒューズ 383
工具（ツール） 421, 433
航続可能距離 93
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 391
ワット数 460
高電圧部位 75
コーションラベル 75
コートフック 350
子供専用シート
取り付け方 41
コンセント 351
使用できないときは 359
コンライト（自動点灯・消灯装置） . 181

さ

サービスプラグ 75
サイドエアバッグ 32
サイド方向指示灯 174
電球（バルブ）の交換 388
方向指示レバー 174
サイドミラー（ドアミラー）
安心降車アシスト 252
格納のしかた 150
操作 149
ブラインドスポットモニター（BSM） 247
ミラーヒーター 333
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 265
先読みエコドライブ 73
サンバイザー 348

し

シート.....136, 137, 141
正しい運転姿勢.....27
チャイルドシート.....40
調整.....136, 137
手入れ.....367
ヘッドレスト.....143
シートヒーター.....337
シートベルト.....29
お子さまの着用.....29, 30
緊急時シートベルト固定機構.....30
正しく着用するには.....30
着け方・はずし方.....30
手入れ.....367
妊娠中の方の着用.....29
非着用警告灯.....408, 409
シートベルト非着用警告灯....408, 409
シートベルトプリテンショナー
機能.....31
プリテンショナー警告灯.....407
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....76
室内灯（インテリアランプ）.....339
始動のしかた.....166
シフトポジション.....172
シフトレバー.....172
シフトポジションの切りかえ.....172
操作.....172
リバース警告ブザー.....172
締め付けトルク（ホイール）.....437
車中泊が必要なときは.....400
ジャッキ
ガレージジャッキ.....372
車載ジャッキ.....421, 433
ジャッキハンドル.....421, 433
車幅灯
電球（バルブ）の交換.....388
ランプスイッチ.....181
車両型式.....461
車両仕様（スペック）.....456
車両情報表示.....96
車両接近通報装置.....73
車両を緊急停止するには.....398
充電用 USB Type-C 端子.....347
瞬間燃費.....93
仕様（車両仕様）.....456
初期化.....474
パワーウインドウ.....151
パワーバックドア.....126
初期設定.....474
助手席シートアンダートレイ.....343
助手席シートベルト非着用警告灯...408

す

水温計.....88
スイッチ
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....236
DAC.....311
アダプティブハイビームシステム.....187
EV ドライブモード.....170
イグニッション.....166
ウインドウロック.....153
LTA（レーントレーシングアシスト）.217
オートマチックハイビーム.....189
クルーズコントロール.....242
シートヒーター.....338
ステアリングヒーター.....337
スノーモード.....311
走行支援（レーダークルーズコントロール）.....236
走行支援モード選択（レーダークルーズコントロール）.....236
TRC OFF.....314
ドアミラー.....149

ドアロック 117
ドライブモードセレクト 308
トレイルモード 309
パーキングブレーキ 175
ハザードランプ 397
バックドアオープン 120, 121
パワーウインドウ 151
パワースイッチ 166
パワーバックドア 121
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 397
VSC OFF 315
フォグランプ 192
ブレーキホールド 179
フロントウォッシャー 193
フロントワイパー 193
フロントワイパーデアイサー 332
方向指示レバー 174
ホーン（警音器）..... 147
メーター操作 93
ランプ 181
リヤウインドウデフォッガー 332
リヤウォッシャー 194
リヤワイパー 194
レーダークルーズコントロール 236
スーパー UV カット 367
スタック 452
ステアリングスイッチ 349
ステアリングヒーター 337
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整 147
ステアリングヒーター 337
メーター操作スイッチ 93
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 327
スノーモードスイッチ 311
スペアタイヤ（応急用タイヤ）..... 432
交換方法 432
スペック（車両仕様）..... 456
スマートエントリー＆スタートシステム 130
アンテナの位置 130
緊急始動機能 440
作動範囲 130
正常に働かないとき 442
節電機能 131
電波がおよぼす影響について 135
ドアの解錠・施錠 114
ハイブリッドシステムの始動 166
バックドアの解錠・施錠 119
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 388
ランプスイッチ 181
スリップ表示灯 314

せ

清掃 364, 367
アルミホイール 364
外装 364
シートベルト 367
内装 367
ホイールキャップ 364
レーダー 202
セカンダリーコリジョンブレーキ 314
セキュリティインジケーター 80, 81
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 239

センサー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....248
安心降車アシスト.....248
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....219
LTA（レーントレーシングアシスト）.215
後側方レーダー.....201
前方レーダー.....201
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....248
BSM（ブラインドスポットモニター）248
ライトセンサー.....182
レーダーセンサー.....201
洗車.....364
前照灯（ヘッドランプ）.....181
電球（バルブ）の交換.....388
マニュアルレベリングシステム.....184
ライトセンサー.....182
ランプ消し忘れ防止機能.....183
ランプスイッチ.....181
ワット数.....460

そ

走行距離.....96
走行時間.....96
走行情報表示.....93
走行モード（ドライブモード）.....308
速度計（スピードメーター）.....88
ソフトウェアアップデート.....198

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）.....174
電球（バルブ）の交換.....388
方向指示レバー.....174
ワット数.....460
ターンチルトシート.....137
正しい運転姿勢.....27
調整.....137
手入れ.....367
ヘッドレスト.....143
タイヤ.....373
応急用タイヤ.....432
空気圧.....375, 460
交換.....432
締め付けトルク.....437
チェーン.....327
点検.....373
パンク応急修理キット.....419
パンクしたときは.....419, 432
冬用タイヤ.....327
ホイールサイズ.....460
ローテーション（位置交換）.....375
タイヤが空まわりする（スタックした）.....452
タイヤチェーン.....327
ダウンヒルアシストコントロールシステム.....311

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....327
チャイルドシート.....40
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け51
シートベルトでの固定.....49
選択方法.....40
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
操作.....175
冬季の注意.....327
パーキングブレーキ表示灯.....411
未解除走行時警告ブザー.....177
メンテナンスデータ.....459

つ

ツール（工具）.....421, 433

て

T-Connect エントリー（22）.....54
停止表示板.....346
ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ.....99
マルチインフォメーションディスプレイ
.....92
ディファレンシャル
リヤディファレンシャル.....458
手入れ.....364, 367
アルミホイール.....364
外装.....364
シートベルト.....367
内装.....367
ホイールキャップ.....364
レーダー.....202
テールランプ（尾灯）.....181
電球（バルブ）の交換.....388
ランプスイッチ.....181
デジタルキー.....111
デッキアンダートレイ.....345
デッキボード.....344
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....333
電気モーター.....71, 75
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....387, 388
ワット数.....460
点検基準値（メンテナンスデータ）.456
電子キー.....108
作動範囲.....130
正常に働かないとき.....442
節電機能.....131
電池が切れた.....442
電池交換.....381
電子制御ブレーキシステム（ECB）313
電池交換（キー）.....381
電動パーキングブレーキ
冬季の注意.....327
パーキングブレーキ表示灯.....411
未解除走行時警告ブザー.....177
メンテナンスデータ.....459

と

ドア 114
スマートエントリー＆スタートシステム 130
チャイルドプロテクター 117
ドアガラス 151
ドアロックスイッチ 117
バックドア 118
ロックレバー 117
ワイヤレスリモコン 114
ドアミラー
安心降車アシスト 252
格納のしかた 150
操作 149
ブラインドスポットモニター（BSM）247
ミラーヒーター 333
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）..... 265
盗難防止装置
イモビライザーシステム 80
オートアラーム 81
時計 88, 90
トップテザーアンカレッジ 52
Toyota Safety Sense 200
AHB（オートマチックハイビーム）.... 189
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 186
PCS（プリクラッシュセーフティ）.... 206
RSA（ロードサインアシスト）..... 231
LDA（レーンディパーチャーアラート）..... 219
LTA（レーントレーシングアシスト）. 215
クルーズコントロール 242
ソフトウェアアップデート 198
ドライバー異常時対応システム 245
発進遅れ告知機能 229
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）..... 224
レーダークルーズコントロール 234
トヨタチームメイト アドバンストパーク 285
縦列出庫機能 299
縦列駐車機能 296
並列バック駐車機能 292
並列前向き・バック出庫機能 294
メモリ機能 301
ドライバー異常時対応システム 245
ドライブモードセレクトスイッチ ... 308
トラクションコントロール（TRC）314
トランスミッション
操作 172
ハイブリッドトランスミッション 172
メンテナンスデータ 458
トルク配分 97
トレイルモード 309

な

内装
収納装備 341
手入れ 367
「ナノイー X」..... 334

に

荷物
積むときの注意 164
バックドア 118
ラゲージルーム内装備 344

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 452

ね

燃費
エネルギーモニター 103
瞬間燃費 93
平均燃費 93
燃費画面 103
燃料 456
給油 196
種類 456
燃料計 88
燃料残量警告灯 408
容量 456
燃料計 88

は

パーキングサポートブレーキ
操作 274
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物） 278
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物） 278
パーキングサポートブレーキ（PKSB） 273
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 281
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 283
パーキングブレーキ
操作 175
冬季の注意 327
パーキングブレーキ表示灯 411
未解除走行時警告ブザー 177
メンテナンスデータ 459
パーソナルランプ 339
排気ガス 38
ハイビーム（ヘッドランプ） 181
アダプティブハイビームシステム 186
オートマチックハイビーム 189
電球（バルブ）の交換 388
ランプスイッチ 181
ハイブリッドシステム 71
EV ドライブモード 170
運転のアドバイス 325
エネルギーモニター 103
オーバーヒート 449
回生ブレーキ 72
ガス欠になったとき 76
緊急始動機能 440
緊急時の停止方法 398
緊急停止システム 78
駆動用電池冷却用吸入口 78
警告灯 406
警告メッセージ 78
高電圧部位 75
サービスプラグ 75
事故が発生したとき 76
始動できないときは 440
始動方法 166
車両接近通報装置 73
充電 72
注意 75
特徴 71
特有の音と振動 73
ハイブリッドシステムインジケーター 88
パワー（イグニッション）スイッチ 166
補機バッテリーがあがった 444
メンテナンス・修理・廃車するとき 73

ハイブリッドシステムインジケーター
.....88, 102
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....388
ハザードランプ（非常点滅灯）.....397
スイッチ.....397
電球（バルブ）の交換.....388, 389
ワット数.....460
挟み込み防止機能
パワーウインドウ.....151
パワーバックドア.....124
発炎筒.....397
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....388, 391
バックアップランプ（後退灯）
ワット数.....460
バックドア
イージークローザー.....123
パワーバックドア.....121
ハンズフリーパワーバックドア.....122
バックドアオープナー.....120, 121
発進遅れ告知機能.....229
操作.....230
バッテリー（駆動用電池）
充電について.....72
搭載位置.....75
冷却用吸入口.....78
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯.....407
サイズ.....446
搭載位置.....370
補機バッテリーがあがった.....444
バニティ（化粧用）ミラー.....348
バニティミラーランプ
装備について.....348
ワット数.....460
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）.....388
ワット数.....460
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ.....153
閉めることができないときは.....151
初期化.....151
操作.....151
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...152
挟み込み防止機能.....151
巻き込み防止.....151
パワーコントロールユニット.....75
パワーステアリング.....314
警告灯.....408
パンクした
応急用タイヤ装着車.....432
タイヤパンク応急修理キット装着車...419
番号灯（ライセンスプレートランプ）
.....181
電球（バルブ）の交換.....390
ランプスイッチ.....181
ワット数.....460
ハンズフリーパワーバックドア.....122
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....147
ステアリングヒーター.....337
メーター操作スイッチ.....93

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....313
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....273
ヒーター
エアコン・デフォッガー.....332
シートヒーター.....337
ステアリングヒーター.....337
ミラーヒーター.....333
非常時給電システム.....351
使用できないときは.....359
非常点滅灯（ハザードランプ）.....397
緊急ブレーキシグナル.....314
スイッチ.....397
電球（バルブ）の交換.....388, 389
ワット数.....460
尾灯（テールランプ）.....181
電球（バルブ）の交換.....388
ランプスイッチ.....181
ヒューズ.....383
表示灯.....85
日よけ（サンバイザー）.....348
ヒルスタートアシストコントロール314

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....444
フォグランプ
スイッチ.....192
ブザー
休憩提案機能（LDA）.....221
クリアランスソナー.....261
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....239
手放し運転警告（LTA）.....216
手放し運転警告（LDA）.....221
手放し運転警告（PDA）.....228
パーキングブレーキ未解除走行時警告177
半ドア走行時警告.....117
ブレーキホールド.....411
リバース警告.....172
リヤカメラディテクション（RCD）....271
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....267
フック
買い物フック.....344
けん引フック.....403
コートフック.....350
フロアマット固定フック.....26
フューエルメーター.....88
フューエルリッド（給油口）.....196
給油のしかた.....196
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....327
冬用タイヤ.....327
ブラインドスポットモニター（BSM）.....247
操作.....249
プラスサポート（販売店装着オプション）.....319
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....206
操作.....214
PCS 警告灯.....411
ブレーキ
回生ブレーキ.....72
緊急ブレーキシグナル.....314
警告灯.....406
パーキングブレーキ.....175
ブレーキホールド.....179
メンテナンスデータ.....458
ブレーキアシスト.....313
ブレーキフルード.....458
ブレーキホールド.....179
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）.....224

警告灯 409
操作 227
フロアマット 26
フロントシート 136
シートヒーター 337
正しい運転姿勢 27
調整 136
手入れ 367
ヘッドレスト 143
フロント方向指示灯 174
電球（バルブ）の交換 388, 389
方向指示レバー 174
ワット数 460
フロントワイパーデアイサー 336

へ

平均車速 96
平均燃費 93
ヘッドアップディスプレイ 99
運転支援システム表示 101
外気温度表示 103
設定 100
ハイブリッドシステムインジケーター 102
割り込み表示 102
ヘッドランプ 181
電球（バルブ）の交換 388
マニュアルレベリングシステム 184
ライトセンサー 182
ランプ消し忘れ防止機能 183
ランプスイッチ 181
ヘッドレスト 143

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 432
メンテナンスデータ 460
ホイールナットレンチ 421, 433
方向指示灯 174
電球（バルブ）の交換 388
方向指示レバー 174
ワット数 460
ホーン（警音器） 147
補機バッテリー
搭載位置 370
補機バッテリーがあがった 444
保証 10
補助確認装置 150
ボトルホルダー 343
ボンネット 370
開け方 370

ま

マルチインフォメーションディスプレイ 92
EV 走行比率 95
運転支援機能情報表示 95
エコアクセルガイド 94
エコジャッジ 94
エネルギーモニター 103
LDA（レーンディパーチャーアラート） 222
LTA（レーントレーシングアシスト）. 218
クルーズコントロール 242
警告メッセージ 413
始動後走行時間 95
車両情報表示 96
設定 97
走行情報表示 93
時計 90
ドライブインフォメーション 96
トルク配分表示 97
燃費グラフ 93
メーター操作スイッチ 93
メニューアイコン 92
レーダークルーズコントロール 236

み

ミラー
アウターミラー.....149
インナーミラー.....148
ドアミラー.....149
バニティミラー.....348
補助確認装置.....150
ミラーヒーター.....333

め

メーター
計器類.....88
警告灯.....84, 406
警告メッセージ.....413
照度調整.....91
設定.....97
時計.....88
表示灯.....85
マルチインフォメーションディスプレイ.....92
メーター操作スイッチ.....93
メーター照度調整.....91
メカニカルキー.....110
メニューアイコン.....92
メンテナンスデータ.....456

も

モーター（電気モーター）.....75
モーターでの走行（EV ドライブモード）.....170

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....462
雪道ですべって動けない（スタックした）.....452
油脂類.....456

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）.....181
電球（バルブ）の交換.....390
ランプスイッチ.....181
ワット数.....460
ラゲージルーム.....118, 344
デッキアンダートレイ.....345
デッキボード.....344
ラゲージルーム内の装備.....344
ラゲージルームランプ.....120, 123
ワット数.....460
ラジエーター
オーバーヒート.....449
メンテナンスデータ.....458
ランプ
アダプティブハイビームシステム.....186
オートマチックハイビーム.....189
室内灯.....339
電球（バルブ）の交換.....387
非常点滅灯（ハザードランプ）.....397
ヘッドランプ（前照灯）.....181
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....174
ライトセンサー.....182
ランプ消し忘れ防止機能.....183
リヤフォグランプ.....192
ランプ消し忘れ防止機能.....183

り

リヤウィンドウデフォッガー.....333
リヤカメラディテクション（RCD）270
操作.....271
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....265
操作.....266
リヤシート.....141
ヘッドレスト.....143
リヤ席シートベルト非着用警告灯...409
リヤフォグランプ
スイッチ.....192
電球（バルブ）の交換.....388
リヤ方向指示灯.....174
電球（バルブ）の交換.....388, 389
方向指示レバー.....174
ワット数.....460

る

ルームミラー（インナーミラー）.....148

れ

冷却水.....458
冬の前の準備.....327
メンテナンスデータ.....458
冷却装置（ラジエーター）.....458
オーバーヒート.....449
メンテナンスデータ.....458
レーダークルーズコントロール.....234
カーブ速度抑制機能.....239
警告灯.....410
接近警報.....239
レーダー.....201
レーンディパーチャーアラート（LDA）.....219
警告灯.....409
操作.....221
レーントレーシングアシスト（LTA）.....215
警告灯.....409
操作.....217
レバー
シフト.....172
方向指示.....174
ボンネット解除.....370

ろ

ロードサインアシスト (RSA).....231
ロック
ウインドウロック.....153
スマートエントリー＆スタートシステム
.....130
チャイルドプロテクター.....117
ドア.....114
ワイヤレスリモコン.....109

わ

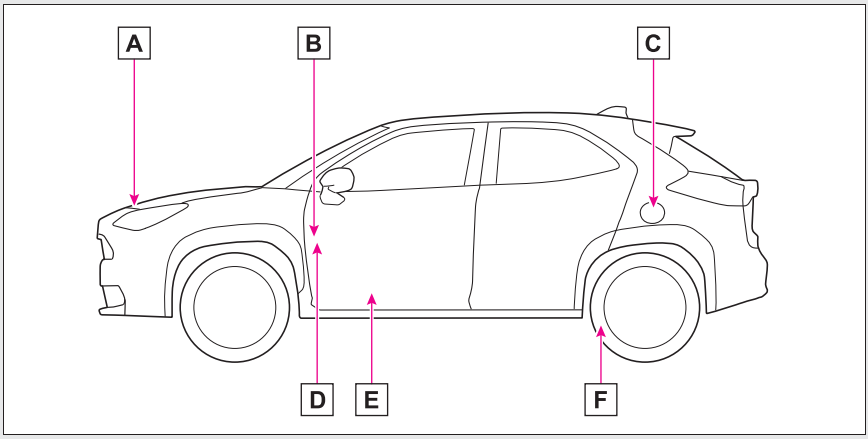
ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....373
フロント.....193
リヤ.....194
ワイパーブレード（寒冷地用）.....328
ワイヤレスリモコン
作動の合図.....115
操作.....109
電池の交換.....381
半ドア警告ブザー.....115
ワックス.....364
ワット数.....460

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

- ·オーディオ
- ·パノラミックビューモニター
- ·バックガイドモニター
- ·ハンズフリー
- · T-Connect

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.370）

B パワーバックドアスイッチ（→P.118）

C 給油口（→P.197）

D ボンネット解除レバー（→P.370）

E 給油扉オープナー（→P.197）

F タイヤ空気圧（→P.460）

燃料の容量（参考値）	36L	
燃料の種類		P.456
タイヤが冷えているときの空気圧		P.460
エンジンオイル容量（参考値）		P.456
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル	P.456

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォームによるお問い合わせ

チャットによるお問い合わせ

手話通訳サービスによるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

エ-80

TOYOTA

Publication No.M52P50
Part No.01999-52P50
Printed in Japan 03-2410　O
ヤリス クロス (HEV)